

「高校教育改革に関する調査2021」報告書

株式会社リクルート（本社:東京都千代田区 代表取締役社長:北村吉弘）が運営する、リクルート進学総研では、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して新学習指導要領、入試改革、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革等の取り組みに関する調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

株式会社リクルート リクルート進学総研

Topics

I 「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響

- 2020年において学校運営への影響では、【ICTの活用】は「計画以上に進んだ」が45%を占めた一方、【特別活動の取組】【進路指導・キャリア教育の取組】【総合的な探究（学習）の時間の取組】は、50%以上が「計画より縮小した」。
- 進路指導の活動にも大きな影響が出ており、具体的には「進路ガイダンス・進路相談等の行事の中止・延期」「OC指導が十分にできなかった」が80%前後となっている。

II 新しい学習指導要領への取組

- 新学習指導要領実施に向けて特に重視する点は、「ICTの活用」「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善」が60%以上で上位。
- アクティブラーニングの視点による授業改善には、全体の38%が「学校全体で組織的に取り組んでいる」。
- 授業改善による変化は、生徒では「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」（37%）、教員では「教材開発や授業設計力が向上した」（39%）がトップ。
- 次年度以降さらに強化・注力したいことは、生徒の「思考力・判断力・表現力の向上」（59%）をはじめ、上位4つを生徒の変化が占める。
- 「総合的な探究の時間」は93%が導入。85%は「組織的対応」で取り組んでいる。60%以上が、「生徒の前向きな進路選択」や「地域や社会への興味・関心につながる」と回答。
- 「ポートフォリオ」は78%が「学校全体もしくは一部で導入・活用」。2018年と比較して導入が顕著に進んだ。未導入校も51%が「今後は導入・活用したい」。

III 変化する入学者選抜への対応

- 「大学入学共通テスト」対応として、7割以上が『授業』『評価・テスト』の見直しに取り組み。次年度以降取り組みたいことでは「思考力・判断力・表現力を高めるための授業デザイン」（49%）がトップ。
- 調査書の様式変更については、進路先に「活用方法について、募集要項等で明確に示す」（61%）ことを期待。
- アドミッション・ポリシーの認知は97%。「知っており、個別大学について調べたことがある」も79%と前回の52%から大幅アップ。認知校での進路指導への活用も71%と大きく増えている。

IV ICT活用

- 97%が授業・ホームルーム・探究などの教育活動にICTを活用。「学校全体で」「学年や課程・学科・コース・教科単位で」など組織的対応は66%。
- 今後の活用方法としては、「宿題・課題等をオンラインで配布」（68%）、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（56%）など、授業や宿題での幅広い活用が想定されている。
- 狙いたい効果のトップは「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」（64%）。
- ICT活用推進のための取組としては「先生方の研修の強化（校内・校外）」（63%）が突出して高い。

V 進路指導とキャリア教育

- 進路指導上の課題のトップは、「教員が進路指導を行うための時間の不足」（57%）。
- キャリア教育には61%が「学校全体で」取り組んでいるが、その比率は2018年と比較して減少。新学習指導要領に対応して、キャリア教育の見直しを考えている学校が全体の28%と前回の10%から大幅に増加。
- 「キャリア・パスポート」は全体の44%が取り組みを始めていると回答。実施の目的は「生徒に今の学びと自分の将来とのつながりを考えさせるため」（63%）がトップ。
- 社会人基礎力のうち【将来必要とされる能力】の上位は、「主体性」「課題発見力」「創造力」。「創造力」は2014年（14%）と比較して20ポイント近く上昇。また、「働きかけ力」も徐々に上昇。一方で【生徒が現在持っていると思う能力】では、「規律性」（58%）が突出して高く、以下「傾聴力」（35%）、「柔軟性」（22%）などが20%超。

VI 学校改革

- 高校における「スクール・ポリシー」策定に、「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で82%。
- 高校における「普通科改革」について、「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で62%。

VII 高校と他関連機関との連携

- 大学・短大に対しては、個別選抜の「わかりやすい入学者受け入れ方針」、入学前の「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」「わかりやすい学部・学科名称」、入学後の「卒業時に身につく能力の明確化」「就職実績の公開」を、50%前後が期待。
- 専門学校に対しては、入学後の「就職実績の公開」（58%）、「卒業時に身につく能力の明確化」（53%）などが上位。

目次

調査概要・回答者プロフィール	4
第Ⅰ部 「新型コロナウイルス感染症」による学校への影響	5
1. 高校生を取り巻く状況の概況	5
2. 「学校運営の取組」の状況	6
3. 今年度の進路指導に対する影響	8
<フリーアンサー>進路指導において「志望変更への対応が難しかった」背景や理由	9
第Ⅱ部 新しい学習指導要領への取組	10
1. 新学習指導要領実施に向けて重視していること	10
<フリーアンサー>新学習指導要領実施に向けて、次年度特に注力したいこと	11
2. 「授業改善」について	14
1) 「アクティブラーニング」の視点による授業改善についての現在の取組状況	14
2) 授業改善への取組による変化と次年度以降さらに強化・注力したいこと	15
3) 授業改善に取り組んだことで、今年度までに変化を感じたこと	16
4) 次年度以降、さらに強化・注力していきたいこと	18
5) 授業改善に取り組んで見えてきた課題・改善点	20
3. 「総合的な探究の時間」について	22
1) 「総合的な探究の時間」への取組状況	22
2) 「総合的な探究の時間」への取組による生徒の変化	23
<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」に取り組んだことで感じた生徒の変化	25
3) カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ	26
4) 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え	27
4. 「ポートフォリオ」について	28
1) 「ポートフォリオ」の導入状況	28
2) 「ポートフォリオ」の導入理由	29
3) 「ポートフォリオ」の今後の活用意向	30
<フリーアンサー>「ポートフォリオ」の活用による生徒の変化・疑問・不安	31
第Ⅲ部 変化する入学者選抜への対応	32
1. 「大学入学共通テスト」について	32
1) 初年度の実施に向けて取り組んだことと、次年度以降取り組みたいこと	32
2) 初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応としてこれまでに取り組んできたこと	33
3) 「大学入学共通テスト」に向けた対応として次年度以降取り組みたいこと	34
<フリーアンサー>大学入学共通テストについての課題・次年度に向けて注力したいこと	35
2. 「調査書」の様式変更について進路先に期待すること	36
3. 各大学の「個別選抜」について	37
1) 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」公表・策定義務化の認知状況	37
2) 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の進路指導への活用	38
<フリーアンサー>大学の「個別選抜」について要望したいこと	39

第Ⅳ部 ICT活用	40
1. ICT活用状況	40
2. 今後の教育活動におけるICT活用方法	41
3. ICTの活用によって狙いたい効果・変化	42
4. ICT活用推進のための取組	43
第Ⅴ部 進路指導とキャリア教育	44
1. 進路指導上の課題	44
1) 「進路指導上の課題」の時系列変化	44
2) 進路指導上の課題	45
2. キャリア教育について	47
1) キャリア教育への取組状況	47
2) キャリア教育の実施時間	48
3) キャリア教育の見直しを考えているか	50
4) キャリア教育を進めていく上での今後の課題	51
3. 「キャリア・パスポート」について	53
1) 「キャリア・パスポート」への取組状況	53
2) 「キャリア・パスポート」の実施目的	54
4. これからの社会と「社会人基礎力」について	55
1) 「これからの社会」は生徒にとって好ましい社会か	55
2) 生徒にとって将来的に「特に必要となる能力」と「現在持っている能力」のギャップ	56
3) 生徒が将来社会で働くにあたって特に必要とされる「社会人基礎力」	58
4) 生徒が現在持っている「社会人基礎力」	59
第Ⅵ部 学校改革	60
1. 高校における「スクール・ポリシー」策定に対する考え	60
<フリーアンサー>高校における「スクール・ポリシー」策定に対する態度と理由	61
2. 高校における「普通科改革」に対する考え	62
<フリーアンサー>現状の普通科についての課題感や「普通科改革」についての意見	63
第Ⅶ部 高校と他関連機関との連携	64
1. 大学・短期大学に期待すること	64
<フリーアンサー>大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見・課題感	67
2. 専門学校に期待すること	68
<フリーアンサー>専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見・課題感	71

調査概要・回答者プロフィール

調査概要

- 調査対象 全国の全日制高等学校4,738校
- 調査方法 郵送調査+インターネット調査
※校長宛に調査票を郵送、回答を記入の上郵送にて返送または記載のURLからインターネット調査に回答
- 調査期間 2021年2月1日（月）～3月5日（金）投函締め切り
※2021年3月10日（水）到着分までを集計対象とした。
- 有効回答数 1,156件（回収率24.4%）
注）コロナ影響により、当初予定の2020年を2021年に変更し実施した。前回調査実施は2018年。

回答者プロフィール

■高校設置者（全体/単一回答） (%)

	国公立	私立	無回答
2021年 全体 (n=1156)	73.4	26.0	0.5
2018年 全体 (n=1203)	72.6	25.9	1.5
2016年 全体 (n=1105)	71.0	28.0	1.1
2014年 全体 (n=1140)	73.3	25.9	0.8
2012年 全体 (n=1179)	74.6	24.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	74.5	24.8	0.7
2008年 全体 (n= 910)	74.2	25.5	0.3
2006年 全体 (n= 813)	76.9	23.1	—
2004年 全体 (n=1122)	77.5	22.5	—

■高校学科（高校タイプ）（全体/単一回答） (%)

	普通科・計		総合学科	専門学科	その他	無回答	普通科・計
	普通科	普通科と他学科併設					
2021年 全体 (n=1156)	58.5	20.2	6.5	13.8	0.6	0.5	78.6
2018年 全体 (n=1203)	56.8	20.9	6.6	13.7	*	2.0	77.7
2016年 全体 (n=1105)	56.6	20.2	7.4	11.5	*	0.9	76.7
2014年 全体 (n=1140)	54.6	20.1	6.3	11.8	*	1.8	74.7
2012年 全体 (n=1179)	54.3	19.1	7.0	11.6	*	3.2	73.4
2010年 全体 (n=1208)	53.0	20.4	7.5	13.7	*	1.3	73.3
2008年 全体 (n= 910)	53.5	19.8	5.7	15.4	*	1.1	73.3
2006年 全体 (n= 813)	52.3	19.2	7.4	17.8	*	—	71.5
2004年 全体 (n=1122)	52.9	18.8	4.6	18.2	*	1.1	71.7

※総合学科：2018年調査以前は「総合学科単独校（移行中含む）」「総合学科併設校」の合計

※「*」は該当の選択肢なし

■大学短大進学率（全体/単一回答） (%)

	70%以上	70%未満	無回答
2021年 全体 (n=1156)	43.7	55.8	0.5
2018年 全体 (n=1203)	45.0	53.4	1.5
2016年 全体 (n=1105)	47.5	51.4	1.1
2014年 全体 (n=1140)	46.5	52.7	0.8
2012年 全体 (n=1179)	45.7	52.8	0.5
2010年 全体 (n=1208)	41.5	57.8	0.7
2008年 全体 (n= 910)	37.8	61.9	0.3
2006年 全体 (n= 813)	30.8	69.3	—
2004年 全体 (n=1122)	31.7	68.3	—

■高校所在地（全体/単一回答） (%)

	北海道	東北	北関東・甲信越	北関東		南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答	
				北関東	甲信越										
2021年 全体 (n=1156)	7.9	12.1	12.1	6.9	5.2	18.0	11.1	2.5	12.4	11.1	8.2	2.9	12.4	0.5	
2018年 全体 (n=1203)	8.3	8.6	12.9	7.1	5.8	18.5	12.4	2.8	11.7	11.7	7.3	4.4	11.5	1.5	
2016年 全体 (n=1105)	6.2	9.2	13.9	7.9	6.1	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	7.1	2.9	11.8	1.1	
2014年 全体 (n=1140)	7.1	11.4	11.8	6.4	5.4	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8	
2012年 全体 (n=1179)	7.5	10.3	11.5	6.2	5.3	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	8.1	3.5	12.9	0.5	
2010年 全体 (n=1208)	7.9	10.1	11.9	7.2	4.7	17.5	11.6	3.0	12.7	12.4	8.9	3.5	12.2	0.7	
2008年 全体 (n= 910)	9.0	9.7	11.6	6.3	5.4	18.9	11.4	3.2	12.1	12.3	8.1	4.2	11.4	0.3	
2006年 全体 (n= 813)	7.4	10.6				29.9		18.0		11.8	10.7	*	*	11.7	*
2004年 全体 (n=1122)	7.7	7.8				31.2		14.3		15.8	10.9	*	*	12.4	*

※「*」は該当の選択肢なし

■校務分掌（全体/複数回答） (%)

	校長	副校長・教頭	主幹教諭	教務主任	教務部	進路指導主事	進路指導部	学年主任	学年担当	その他	無回答
2021年 全体 (n=1156)	9.4	24.0	5.5	10.9	1.4	47.3	11.9	0.9	2.8	3.1	0.3
2018年 全体 (n=1203)	5.9	15.5	*	9.6	1.1	59.4	10.6	1.2	2.5	2.1	2.0
2016年 全体 (n=1105)	0.1	0.1	*	*	*	85.0	13.1	2.4	9.4	1.4	1.4
2014年 全体 (n=1140)	—	0.5	*	*	*	85.0	12.5	1.9	7.0	2.3	1.8
2012年 全体 (n=1179)	—	0.3	*	*	*	84.4	11.9	1.2	5.9	2.4	2.8
2010年 全体 (n=1208)	—	0.2	*	*	*	84.1	14.5	1.5	7.0	2.4	1.3
2008年 全体 (n= 910)	—	0.3	*	*	*	84.5	12.4	2.9	7.8	2.7	1.6
2006年 全体 (n= 813)	—	0.2	*	*	*	81.8	15.0	2.5	4.6	3.2	2.6
2004年 全体 (n=1122)	—	—	*	*	*	82.4	14.6	0.7	0.3	0.9	1.2

「*」は該当の選択肢なし

第1部 「新型コロナウイルス感染症」による学校への影響

1. 高校を取り巻く状況の概況

- 高校は、2020年度初年度となった「大学入学共通テスト」をはじめとした入試改革、2022年から始まる新学習指導要領への対応など、重要な変革の時期
- そこに、「新型コロナウイルス感染症」の影響や「GIGAスクール構想」の前倒しによるICTの導入・活用など、新たな要素が加わる形に
- さらに2021年3月に出た中央教育審議会の答申では、今後に向けて、高校の特色化・魅力化を目指した「スクールミッション・ポリシーの策定」や「普通科改革」などの新たな方向性が提示されている

	2018	2019	2020			2021	2022	2023	2024	
入試改革			準備期間・共通テスト試行実施			入試改革初年度	段階的な個別入試改革			新学習指導要領での入試スタート
			2017年より 大学による3つの ポリシーの策定・公表が義務化				学力の3要素の多面的・総合的評価の実施 調査書の様式変更 総合型選抜、学校推薦型選抜での学力評価必須化			1月 大学入学 共通テスト 初回実施
学習指導要領			3月 高等学校 「学習指導要領」 改定			先行実施・準備期間			4月 新学習指導要領 スタート (1年生から 年次進行)	
			学力の3要素 ・主体的・対話的で深い学び ・総合的な探究の時間 ・カリキュラムマネジメントの確立				4月 「キャリアパス ポート」の一斉 実施			
新型コロナウイルス影響			3月 全国一斉の 臨時休校要請			分散登校、三密対策、「学びを止めない」...				
ICT活用				5月 GIGAスクール 構想」前倒し			ICT活用の模索			
				『人1台端末』の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、ハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速						
教育政策						3月 中教審答申【令和の日本型教育】の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～】				
						・ICT活用 ・高等学校の特色化・魅力化 (スクールミッション・ポリシー、普通科改革…)				

2. 「学校運営の取組」の状況

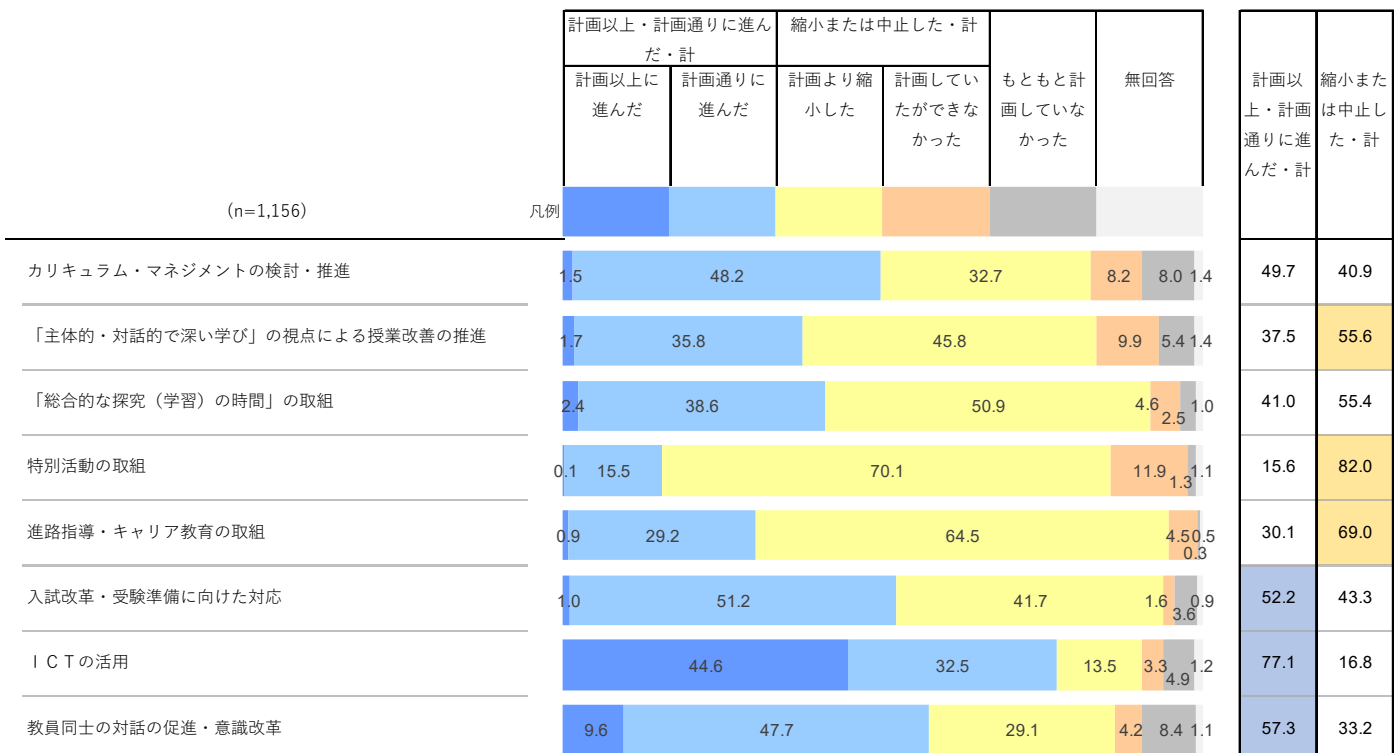
- 【ICTの活用】は「計画以上に進んだ」高校が45%を占める。
- 一方【特別活動】【進路指導・キャリア教育】【授業改善】【総合的な探究（学習）の時間】の取組は、50%以上が「計画より縮小した」。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大が学校運営に影響を及ぼした2020年において、様々な学校運営の取組がどのようであったかを尋ねたところ、【ICTの活用】では45%が「計画以上に進んだ」と回答し、急速に活用が進んだ高校が半数近くを占めた。この他、【教員同士の対話の促進・意識改革】についても10%が「計画以上に進んだ」とした。
- 上記項目の他は「計画以上に進んだ」割合が1割を超えるものはないものの、【カリキュラム・マネジメントの検討・推進】【入試改革・受験準備に向けた対応】などは「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が50%前後と、半数程度が計画していた通りに取り組んでいる。
- 一方、【特別活動の取組】については「計画より縮小した」（70%）、「計画していたができなかった」（12%）と回答。合計で82%が計画通りに実施できなかったと回答しており、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が大きかったことがわかる。
- この他、【「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進】【「総合的な探究（学習）の時間」の取組】【進路指導・キャリア教育の取組】などについても、縮小または中止したとする高校が半数を超えている。
- 「計画以上に進んだ」「計画通りに進んだ」の合計の割合について設置者別にみると、【「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善】については国公立の方が私立よりも10ポイント以上高い。この他【教員同士の対話の促進・意識改革】についても国公立の方が5ポイント高い。
- 逆に【進路指導・キャリア教育の取組】については私立の方が5ポイント高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科において全体的にスコアが低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほどスコアが高い傾向がみられるが、【ICTの活用】をはじめとして、【入試改革・受験準備に向けた対応】【教員同士の対話の促進・意識改革】についてはほとんどの層で50%以上が計画以上・計画通りに取り組めたと回答しており、感染症の影響下でも優先度高く取り組まれたことがわかる。

■2020年の学校運営の取組の状況（全体／各単一回答）

(%)

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大が学校運営にも大きな影響を及ぼした1年となりました。貴校での学校運営の取組の状況についてお答えください。



※「計画以上・計画通りに進んだ・計」／「縮小または中止した・計」の上位3項目に網掛け

Q1

■2020年の学校運営の取組の状況（全体／各単一回答） ※「計画以上に進んだ」「計画通りに進んだ」の合計 (%)

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大が学校運営にも大きな影響を及ぼした1年となりました。貴校での学校運営の取組の状況についてお答えください。

	カリキュラム・マネジメントの検討・推進	「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進	「総合的な探究(学習)の時間」の取組	特別活動の取組	進路指導・キャリア教育の取組	入試改革・受験準備に向けた対応	I C Tの活用	教員同士の対話の促進・意識改革
2021年 全体 (n=1,156)	49.7	37.5	41.0	15.6	30.1	52.2	77.1	57.3
設置者別 国公立 (n= 849)	50.8	40.4	41.5	15.7	28.7	52.2	76.2	58.7
私立 (n= 301)	47.2	29.9	40.2	15.3	33.6	52.5	79.7	53.2
高校タイプ別 普通科 (n= 909)	50.5	37.5	41.0	16.1	30.9	52.8	78.0	59.1
総合学科 (n= 75)	53.3	41.3	42.7	13.3	29.3	53.3	76.0	50.7
専門学科 (n= 159)	44.0	37.1	40.9	14.5	26.4	47.2	71.1	50.3
大短進学率別 70%以上・計 (n= 505)	53.7	38.6	44.2	16.6	32.3	55.8	83.2	62.4
95%以上 (n= 192)	60.9	43.8	49.5	18.2	35.9	60.9	86.5	67.2
70~95%未満 (n= 313)	49.2	35.5	40.9	15.7	30.0	52.7	81.2	59.4
70%未満・計 (n= 645)	46.8	36.9	38.8	14.7	28.2	49.5	72.4	53.2
40~70%未満 (n= 240)	46.7	36.7	39.6	13.3	31.3	50.0	70.8	46.3
40%未満・計 (n= 405)	46.9	37.0	38.3	15.6	26.4	49.1	73.3	57.3
高校所在地別 北海道 (n= 91)	56.0	35.2	38.5	17.6	30.8	48.4	67.0	57.1
東北 (n= 140)	50.0	39.3	45.7	16.4	30.0	56.4	73.6	57.1
北関東・甲信越 (n= 140)	47.1	34.3	39.3	10.7	23.6	52.9	69.3	52.9
南関東 (n= 208)	44.2	32.7	33.7	10.1	29.3	48.1	80.8	55.8
東海 (n= 128)	44.5	36.7	41.4	16.4	29.7	53.1	78.9	60.2
北陸 (n= 29)	55.2	41.4	48.3	37.9	41.4	65.5	86.2	55.2
関西 (n= 143)	55.9	37.1	44.1	13.3	29.4	47.6	74.8	55.9
中国・四国 (n= 128)	58.6	47.7	43.0	17.2	35.9	53.9	85.9	63.3
九州・沖縄 (n= 143)	46.2	39.9	44.8	21.7	30.1	55.9	80.4	57.3

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q1_P2

■2020年の学校運営の取組の状況（全体／各単一回答） ※「計画より縮小した」「計画していたができなかった」の合計 (%)

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大が学校運営にも大きな影響を及ぼした1年となりました。貴校での学校運営の取組の状況についてお答えください。

	カリキュラム・マネジメントの検討・推進	「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進	「総合的な探究(学習)の時間」の取組	特別活動の取組	進路指導・キャリア教育の取組	入試改革・受験準備に向けた対応	I C Tの活用	教員同士の対話の促進・意識改革
2021年 全体 (n=1,156)	40.9	55.6	55.4	82.0	69.0	43.3	16.8	33.2
設置者別 国公立 (n= 849)	39.3	53.4	54.4	81.9	70.6	42.9	17.1	31.9
私立 (n= 301)	44.9	61.5	57.8	82.4	65.1	44.5	15.6	36.9
高校タイプ別 普通科 (n= 909)	40.7	55.9	56.9	81.4	68.3	44.3	16.5	32.2
総合学科 (n= 75)	37.3	53.3	57.3	85.3	70.7	41.3	16.0	36.0
専門学科 (n= 159)	42.8	54.1	46.5	83.6	72.3	40.3	20.1	37.7
大短進学率別 70%以上・計 (n= 505)	38.4	56.2	54.3	81.0	66.9	42.8	13.1	29.5
95%以上 (n= 192)	33.9	52.1	48.4	79.7	63.5	37.0	9.9	26.6
70~95%未満 (n= 313)	41.2	58.8	57.8	81.8	69.0	46.3	15.0	31.3
70%未満・計 (n= 645)	42.6	54.9	56.1	82.8	70.9	43.7	19.5	36.1
40~70%未満 (n= 240)	43.8	57.5	57.5	84.2	67.1	47.1	21.3	41.7
40%未満・計 (n= 405)	42.0	53.3	55.3	82.0	73.1	41.7	18.5	32.8
高校所在地別 北海道 (n= 91)	38.5	58.2	59.3	80.2	69.2	46.2	24.2	37.4
東北 (n= 140)	39.3	56.4	51.4	80.0	69.3	38.6	19.3	32.9
北関東・甲信越 (n= 140)	44.3	59.3	57.9	87.1	75.7	43.6	22.9	35.7
南関東 (n= 208)	47.1	60.6	61.5	88.0	70.2	48.1	13.9	37.5
東海 (n= 128)	42.2	53.1	53.1	80.5	68.8	41.4	14.1	25.8
北陸 (n= 29)	37.9	51.7	51.7	62.1	58.6	34.5	10.3	37.9
関西 (n= 143)	37.1	57.3	53.8	84.6	69.9	48.3	20.3	37.1
中国・四国 (n= 128)	31.3	47.7	53.9	80.5	62.5	42.2	8.6	25.0
九州・沖縄 (n= 143)	42.7	49.7	50.3	75.5	68.5	38.5	14.7	31.5

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q1_N1

3. 今年度の進路指導に対する影響

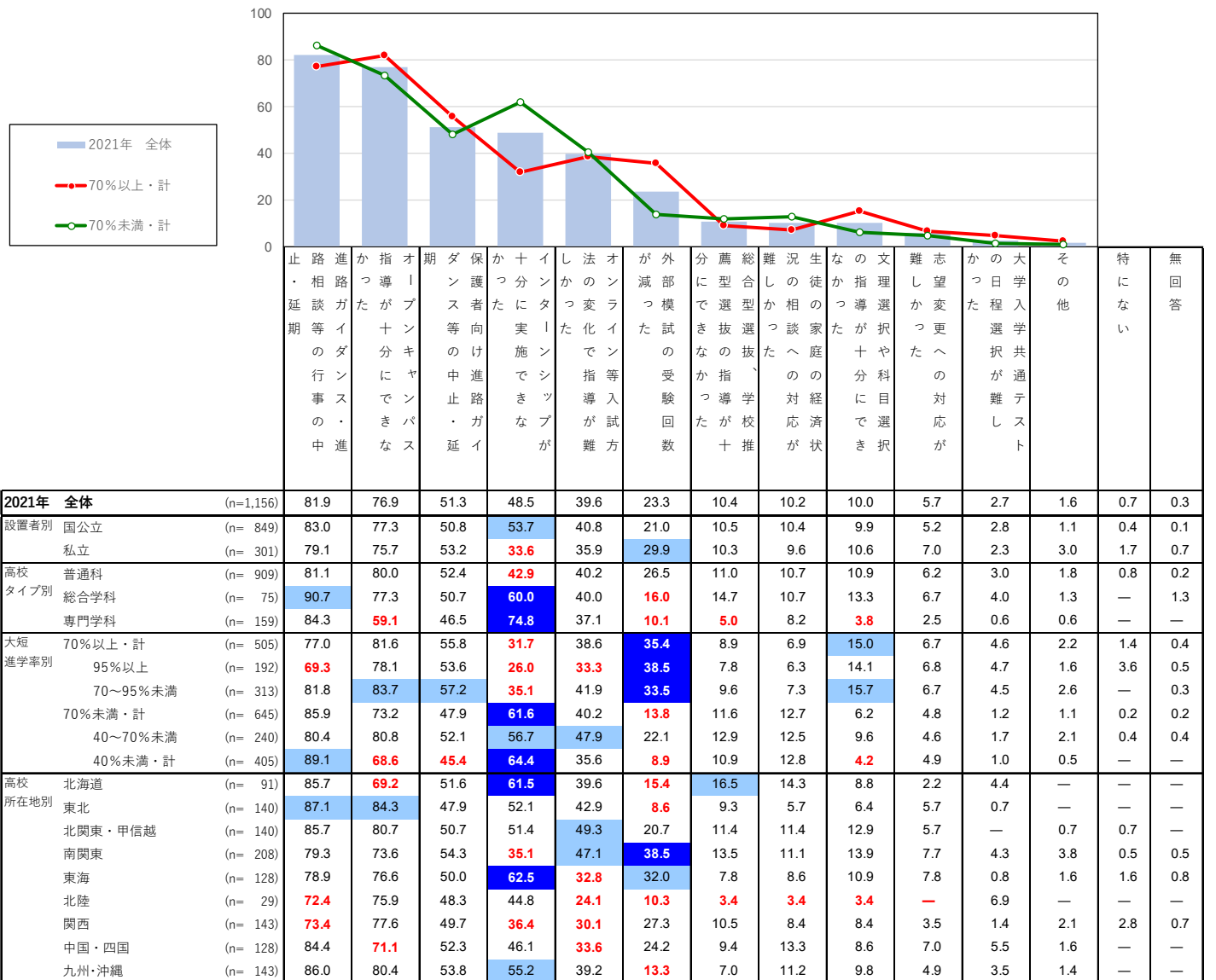
- 進路指導の各種活動への影響が「特にない」は1%未満と、ほぼ全校で何らかの影響あり。
- 影響を受けた具体的な内容としては、「進路ガイダンス・進路相談などの行事の中止・延期」「オープンキャンパス指導が十分にできなかった」が80%前後。

- 設置者別にみると、上位2項目はいずれでも共通して75~80%程度。「インターンシップが十分に実施できなかった」は国公立、「外部模試の受験回数が減った」は私立でそれぞれ高い。
- 高校タイプ別にみると、「進路ガイダンス・進路相談などの行事の中止・延期」はすべてのタイプで80%以上が回答しており、多くの学校で進路に関する行事が中止されたことがわかる。
- 大短進学率別にみると、進学率70%以上の層では「外部模試の受験回数が減った」(35%)が全体と比較して高く、3校に1校が該当している。70%未満の層では、「インターンシップが十分に実施できなかった」が60%前後。

■ 「新型コロナウイルス感染症拡大」が進路指導に与えた影響（全体/複数回答）

(%)

今年度の進路指導にどのような影響をお感じになりましたか。（複数回答可）



※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※全体値の降順ソート

Q3

<フリーアンサー>進路指導において「志望変更への対応が難しかった」背景や理由

■時間・コミュニケーションの不足

●大短進学率70%以上

- すべてはコロナの対応に忙殺されたため[長崎県/県立/普通科]
- 休校期間が長く、十分な協議時間をもてなかった。[愛知県/私立/普通科]
- 本校は7月末までほぼオンライン授業だったため、担任と生徒のコミュニケーション不足で進路変更の事前相談などへの対応が遅れた。[東京都/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 昨年度末からの臨時休校等により、十分な進路相談ができなかったため[北海道/村立/専門学科]
- 新型コロナウイルス対策により面談や説明会が十分に開けなかったから。[宮城県/県立/普通科]

■オープンキャンパスなど実地体験の場の不足

●大短進学率70%以上

- 今年度はオープンキャンパス等の中止やオンラインでの対応が相次ぎ、生徒が大学の実際の雰囲気など肌感覚で感じることができず、第一志望以外のアドバイスが難しかった。[千葉県/私立/普通科]
- オープンキャンパスに参加することができなく、志望理由書を書くことに苦勞し、コロコロと志望校を変更する生徒が例年より多かった。[愛知県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- O C等に行けなかったため、先輩、先生から見聞したイメージをもとに進路決定をした生徒が多かった。部活動での大会中止により区切りがつかず、競技をつづけるために進路を変更する人もいた。[愛知県/私立/普通科]

■指定校推薦などによる進路決定の早期化

●大短進学率70%以上

- コロナ禍の中で早期に進路を決定したいという安定志向のため、私立大学への総合型・学校推薦型選抜に変更する生徒が増えた。[広島県/県立/総合学科]

●大短進学率70%未満

- 私立大学志望者は、指定校および公募推薦等で早く進路決定したいという希望変更が増えた。国公立志望者は、地元志向が強まった。[滋賀県/私立/普通科]

■地元志向の高まり

●大短進学率70%以上

- 他県への出願を特に敬遠する傾向があった。私立大の併願校が少なくなった。[福岡県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 県内大学への進学しかできない生徒が増えた[群馬県/市立/普通科]

■家庭の経済状況の変化

●大短進学率70%以上

- 家庭の経済状況の悪化で、地元以外の進学が厳しくなり、志望校の変更が複数存在した[愛知県/県立/普通科]
- 大学と専門学校で同分野間での希望変更があった。主に家庭の事情と思われる。[千葉県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 急な変更が多かった。特に、保護者の経済的問題で進学から就職へと変更し、就職に対する意識や準備が不十分なまま就職活動をするようになった。[茨城県/県立/普通科]
- 複数名の生徒が学費の支払いが経済的に苦しくなり（コロナの影響かは不明）、就職・アルバイト希望へ変更した。就職活動への個別指導や進学先への内定辞退の方法や連絡の調整も行った。[茨城県/県立/普通科]
- 保護者の経済的状況の急変もあり、お金がなくても進学する方法という相談に十分に答えられなかったかと思えます[奈良県/市立/専門学科]

■就職先企業の経営状況の変化

●大短進学率70%未満

- 就職関係について、業界によりコロナの影響が大きく、求人も大きく変わった。これまで希望する業種について調べ学習を進めてきたが、生徒にとっては希望する業種を変更せざるを得ず、悩む生徒も多かった。[静岡県/県立/普通科]

■複合的な“安定志向”の高まり

●大短進学率70%以上

- 秋以後の志望校変更（年内入試において）が例年より多く、対応に追われた。入試改革、コロナなどにより安全志向が高まり、「より安全に確実に」進路が決まるところはどこかという判断が強まった。[埼玉県/私立/普通科]
- 経済的な理由。感染を恐れ、首都圏の大学への進学を変更[静岡県/県立/普通科]
- 地元志向の増加。総合型選抜受験者の増加。行きたい大学から行ける大学への急速な変化。[宮城県/県立/普通科]

■保護者と生徒との意見の齟齬

●大短進学率70%未満

- 県外就職希望の生徒と保護者の意見が折り合わず、受験の動きそのものが3学期以降にずれ込んだ。[青森県/県立/普通科]

■（コロナウイルス以外の要因として）大学側の入学者選抜の変化

●大短進学率70%以上

- 大学が入試制度を変えたために、対応が難しくなった。[神奈川県/私立/普通科]
- 大学の二次試験の変更・大学のカリキュラムの変更[熊本県/私立/普通科]

第Ⅱ部 新しい学習指導要領への取組

1. 新学習指導要領実施に向けて重視していること

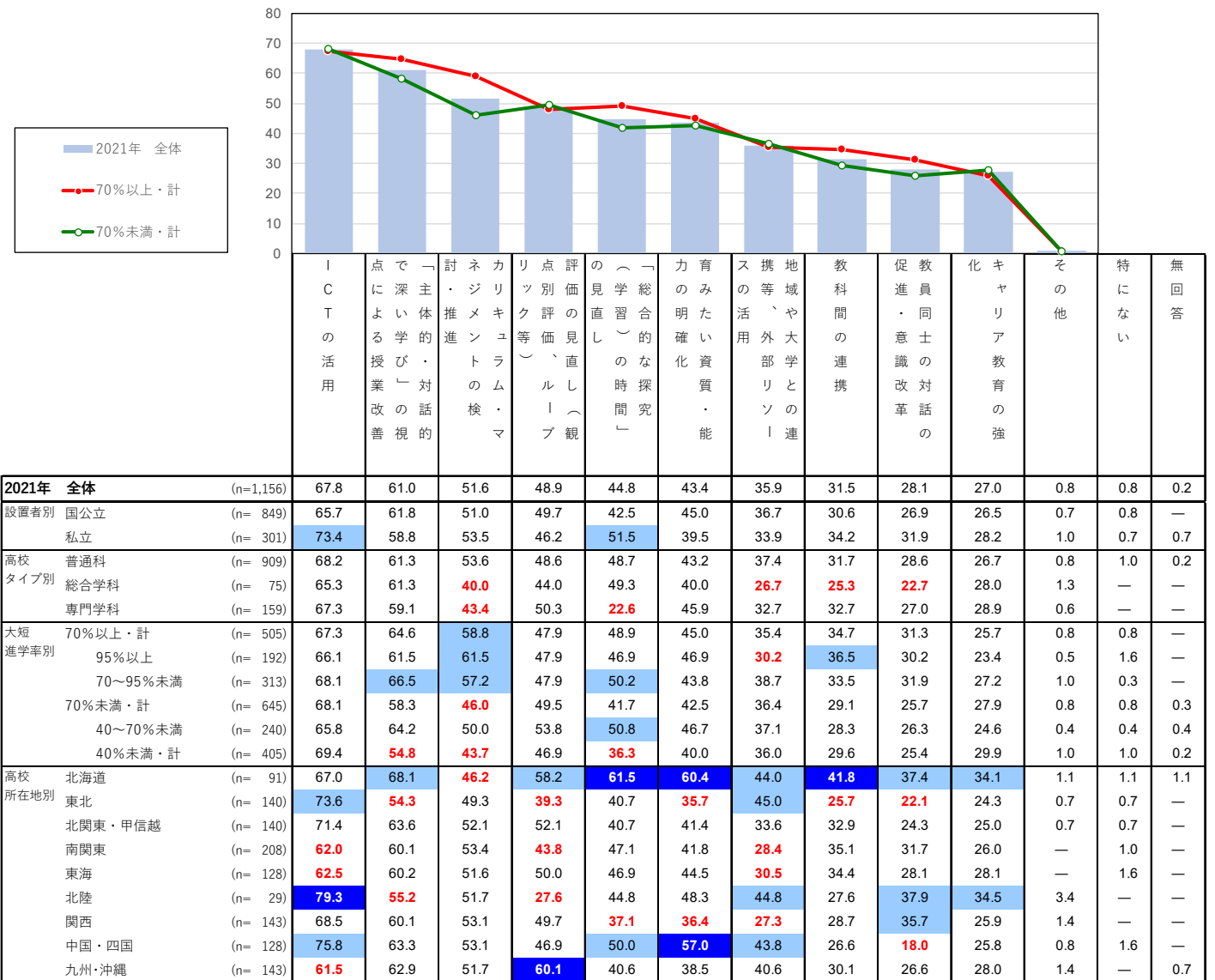
■ 「新学習指導要領」実施に向けて特に重視・注力していることの上位は、「ICTの活用」(68%)、「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善」(61%)など。

- 以下「カリキュラム・マネジメントの検討・推進」「評価の見直し(観点別評価、ルーブリック等)」が50%程度で続く。
- 高校タイプ別にみると、上位項目のうち「カリキュラム・マネジメントの検討・推進」については、総合学科、専門学科でスコアが低く、普通科のみで50%を超える。また、「『総合的な探究(学習)の時間』の見直し」は、普通科、総合学科では50%近くに達するのに対し、専門学科では23%と、全項目の中で最もスコアが低くなっている。
- 大短進学率別にみると、「ICTの活用」は進学率によらずすべての層で65%を超える。一方、「カリキュラム・マネジメントの検討・推進」は進学率が高い層ほどスコアが高い。また「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善」「『総合的な探究(学習)の時間』の見直し」は進学率40~95%未満の中間層でスコアが高い傾向がみられる。

■新学習指導要領の実施に向けて特に重視・注力していること(全体/複数回答)

(%)

新学習指導要領の(2022年度から)実施に向けて、特に重視していることや注力していることは何ですか。(複数回答可)



※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※全体値の降順ソート

Q5

<フリーアンサー>新学習指導要領実施に向けて、次年度特に注力したいこと①

■育みたい資質・能力の明確化

●大短進学率70%以上

- ・「育みたい資質～」教科指導において基礎基本、応用発展を明確にして生徒に提示し、それぞれの目標設定を促す。その目標を達成するための、学習の深さやスピードをICTを活用してサポートする。[愛媛県/県立/普通科]
- ・シラバスにおいて、「育みたい資質・能力」を明確に示し、教科・科目としての指導目標をよりしっかりと伝え実践していきたい。総合的な探究の時間を通じて、主体的に学び考え表現する力を高めたい。特にアウトプット力の向上を重視したい。又、地域や大学など外部リソースを効果的に活用したい。[群馬県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・はぐくみたい資質・能力が育成できるような評価の見直しに注力したい。[熊本県/県立/普通科]
- ・育みたい資質能力に対する共通認識を持つための、職員研修の実施。それに基づく総合探究やキャリア教育の計画[沖縄県/県立/普通科]
- ・各学年での必要な育みたい資質、能力にあった活動と、明確にし、3年間を通して、計画的に実施する[長崎県/県立/普通科]
- ・各教科、各学年及び3年間で育てたい資質や能力を改めて明確にし、それらを目標として生徒を導き、社会に貢献したり、社会で活躍できる人材を育成したい。[新潟県/私立/普通科]

■カリキュラム・マネジメントの検討・推進

●大短進学率70%以上

- ・カリキュラムマネジメントを回し、教育活動の改善が確実に図られること。具体的には、探究活動の推進、授業改善と観点別評価の一体化を、職員全体でどのように進めていくか、そこにICTをどう絡めるか。[宮城県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・カリキュラムマネジメントの中でスクールミッションを再定義しながら、教育内容を改革していく。[山形県/私立/普通科]
- ・カリキュラムマネジメントやGIGAスクール構想に基づいた「教科、その他学校活動のシラバス作成」と、それにリンクした評価（ルーブリック）の作成[徳島県/県立/普通科]

■「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

●大短進学率70%以上

- ・主体的・対話的で深い学びをA L授業で取り組みたかったが、教員が慣れていない為、未だ、実行できていない。探究は、見直して、周囲の市町村、大学等と連携して進めたい。[鹿児島県/私立/普通科]
- ・主体的な学習者育成のためにはどのような組織体制であるべきか。[東京都/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・主体的・対話的で深い学びを実践する教師からの発問の強化。生徒には何に取り組んで、何ができるようになったかを具体的な成果を求め、教員には何を教え、その結果何ができるようになるかを明確化させる[沖縄県/県立/その他]
- ・キャリア教育の視点での授業改善[沖縄県/県立/普通科]
- ・ゼミ制を導入し、主体的な学びの機会を増やしたい。[福島県/私立/普通科]

■教科間の連携

●大短進学率70%以上

- ・学校内での連携（チームワーク）をより強くし、一体となっていく[佐賀県/県立/普通科]
- ・教科間で連携することで学びを一層深めるとともに、ICTの効果的な活用、グループ活動を導入する[兵庫県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・求められる力が大きく様変わりしてきていることから、教科間や学年間での連携なくしては、生徒の進路目標達成はなしとげられないと危惧している。[宮崎県/県立/普通科]
- ・教科間の連携を上手く図りたい。生徒にとって深い学びにつながればいいのだが、現在は教科毎に教え方の違いがあり、それにより生徒が混乱している状況にあるから[岩手県/県立/普通科]

<フリーアンサー>新学習指導要領実施に向けて、次年度特に注力したいこと②

■「総合的な学習（探究）の時間」の見直し

●大短進学率70%以上

- ・「総合的な探究の時間」…3年間を通して核となるテーマや活動内容について教員間で意見交換し、先を見据えたカリキュラムを構築していくこと。・キャリア教育の強化…ICT、地域や大学、外部リソースを活用し、進学先や研究したいこと、将来の社会人像を具体的に考えさせること。[宮城県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・探究の時間が3学年そろうので（兵庫県は先行実施）、ようやく教員全体が自分事として捉えられる。3年間通しての計画や、学年間で取組を共有するなどが必要。その前段階として、教育活動全体を通して育みたい力、総探はじめ探究の授業で育みたい力を明確にする必要があると思う。[兵庫県/県立/普通科]
- ・特に育みたい資質・能力の明確化を行い、それに合わせた評価指標や総合的な探究の時間の設計を行いたい。また、制度設計のためには教員間の対話や意識改革は不可欠となってくる。そのため、まず第一に教員の意識改革を継続的に行う必要がある。[埼玉県/県立/普通科]
- ・総合的な探究の時間の、見直し。いかに、生徒の進路選択につなげるか、内容の精選[福岡県/県立/普通科]

■評価の見直し

●大短進学率70%以上

- ・4月までにはカリキュラムを完成させ、次年度は教科書見本等を活用し、授業改善の取り組み、そして観点別評価が加わるため、評価基準を詰めていく予定です。[東京都/私立/普通科]
- ・3観点の評価となり、評価方法や観点別評価の生徒への示し方、観点別評価による生徒の学びの変化を進めていきたい。[奈良県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・観点別評価について、各教科で作成する。内規の評価についての見直しをおこなう。[福島県/県立/普通科]
- ・新しい学力観に立った指導法、評価法を導入することを目指している。[山形県/私立/普通科]

■教員同士の対話の促進・意識改革

●大短進学率70%以上

- ・今以上に研修を充実させ、教員同士が丸となって生徒を育てる意識を高める。[静岡県/県立/普通科]
- ・本校が求めている生徒の理想像を明確にし、それに向かって日々の授業を作り上げていくという中で、教員同士が連携を強めていくというイメージ。目標もなく、仲良くするというのとは、違うイメージですあたり前ですが[愛知県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・教員同士の対話・意識改革[宮崎県/県立/普通科]
- ・教員同士の対話から生まれる教科・科目横断型授業の研究[北海道/道立/総合学科]
- ・常に中期・長期的な視野をもって学校運営を行うには、教員同士の結束が不可欠である。中堅校に位置する本校において、活発的な意識改革がなされる土壌がそこまで育っておらず、その場しのぎ的な発想や、偏った発想が目立つ。次世代の教員を巻き込んで、これから求められる生徒の資質向上に向けた、改善を積極的に行いたい。[大阪府/府立/普通科]

■ICTの活用

●大短進学率70%以上

- ・キャリア教育を推進する上で、単位制導入を検討している。ICTの活用という点では福井県は全生徒にクロームブックを配布したので、それをどう活用していくかが課題・普通科の探究学習を充実させるために／単位→2単位への増単位を検討[福井県/県立/普通科]
- ・1人1台タブレット貸与となるため、個別最適化の学びと協働的な学びを推進する。[石川県/市立/普通科]
- ・ICTの活用の広がりに関して、デジタルシティズンシップを取り入れた学びの展開を推進する。[広島県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・ICT教育において、近日中に1人1台タブレットを導入することになるので、それを「授業改善」や「教科間連携」などに、どのように活用していくか注視していきたい。[和歌山県/県立/普通科]
- ・ICTという言葉が先行し、ICTの効果的な利用方法が教科ごとに行われていない現状があり、教員の自己満足に終わっている感がある。コロナ禍であるが、最低限の教員のICTに関する研修機会が必要と考える。[岐阜県/県立/専門学科]
- ・次年度入学生から端末を購入させ、電子黒板等を活用した授業が本格化するため、ICTを活用した授業の充実を図る。[茨城県/県立/普通科]

<フリーアンサー> 新学習指導要領実施に向けて、次年度特に注力したいこと③

■地域や大学との連携等、外部リソースの活用

●大短進学率70%以上

- ・総合的な探究の時間の見直しは一定程度進めることができたので、外部連携の方法等の見直しを進め、充実を図る。・ICT活用による個別最適化を意識した学習活動の方法を検討する。[鳥取県/県立/普通科]
- ・外部リソースを活用して「総合的な探究の時間」に「地域学」に取り組む。・一人一台端末を活用し、思考力・表現力を育てる授業改善に取り組む。[岡山県/県立/普通科]
- ・授業改善について、校内研修の一層の強化と外部講師による研修や視察等の充実をはかる。[宮城県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・外部リソースの活用地域の人材・組織に協力してもらい、地域愛を育む教育を展開する予定地域に根ざした教育で、地域の活性化につながる教育を考えています。[北海道/道立/専門学科]

■キャリア教育の強化

●大短進学率70%以上

- ・地域とのつながりの強化のため地域連携センターを設立する。地域活動を通じて、将来に向けてのキャリアデザインを描く [愛知県/県立/普通科]
- ・HR活動や「探究」活動を充実させ、キャリア教育を推進し、「生きる力」の育成を図る。[静岡県/県立/普通科]
- ・進路指導の強化。1年次より、取り組ませキャリアパスポートを作成し、キャリア教育将来のビジョンを構築させる [奈良県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・探究に関して、キャリア教育の一環として行えるよう見直しをしている。・ホームルームや特別活動についても、キャリアの観点からどうあるべきか構想中である。[岩手県/県立/普通科]
- ・3年間を通して、またさらに小中学校や上級学校・就職先との接続を意識したキャリア教育を、地域と連携して形成していきたい。[岡山県/県立/普通科]
- ・地域や大学との連携やキャリア教育の強化について、どのような進路を選択し、どのように状況が変化しても生きていく力を考え、身に付けられるように尽力したい。[愛媛県/県立/普通科]

2. 「授業改善」について

1) 「アクティブラーニング」の視点による授業改善についての現在の取組状況

- 全体の38%が「学校全体で組織的に取り組んでいる」と回答。学年や教科単位の「組織的対応」を行っている学校が合計で61%と過半数を占める。
- 時系列でみると、学校全体や学年単位などでの『組織的な取り組み』がさらに進んでいる。
 - 特に「学校全体で組織的に取り組んでいる」が2018年より9ポイント増加した。
 - 設置者別にみると、導入・計の割合はいずれも95%で差がないが、「学校全体で組織的に取り組んでいる」割合は国公立（42%）が私立（27%）を15ポイント上回る。
 - 高校タイプ別にみると、専門学科では「学校全体で組織的に取り組んでいる」割合が低い。
 - ・ 専門学科では「教科単位で取り組んでいる」（24%）の割合が高い他、「非導入・計」が11%を占める。
 - 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「学校全体で組織的に取り組んでいる」割合が高い。
 - 学校所在地別にみると、いずれのエリアでも「導入・計」は90%を超える。ただし、「組織的対応・計」をみると、北関東・甲信越、北陸、中国・四国では70%前後と高いが、東北、東海では50%と、『組織的に対応できている』度合いにはエリア間の差がみられる。

■「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点による授業改善への取り組み（全体／単一回答） (％)
 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点による授業改善について、現在の取組状況を教えてください。

		導入・計				中止・非導入・計			無回答	
		組織的対応・計				非導入・計				
		学校全体で組織的に取り組んでいる	学年や課程・学科・コース単位で取り組んでいる	教科単位で取り組んでいる	教員個人で取り組んでいる	取り組んだがうまくいかないか、一斉講義型の授業に戻した	取り組んでいない	取組状況を把握していない		
2021年 全体	(n=1,156)	37.8	5.5	18.1	33.3	0.8	0.9	3.5	0.1	
2018年 全体	(n=1,203)	29.3	3.0	17.3	40.7	0.3	2.5	6.2	0.6	
2016年 全体	(n=1,105)	24.5	—	17.2	51.1	—	3.2	3.6	0.4	
2014年 全体	(n=1,140)	8.7	12.0	26.4	—	33.5	—	17.7	1.7	
【2021年属性別】										
設置者別	国公立 (n= 849)	41.7	—	3.7	17.7	31.4	0.8	0.6	4.1	—
	私立 (n= 301)	27.2	10.3	19.6	—	38.2	0.7	1.7	20.3	—
高校タイプ別	普通科 (n= 909)	38.7	—	5.7	17.5	33.7	0.7	0.7	3.0	0.1
	総合学科 (n= 75)	42.7	—	2.7	14.7	38.7	—	—	1.3	—
	専門学科 (n= 159)	28.3	6.3	23.9	—	28.9	1.9	2.5	8.2	—
大短進学率別	70%以上・計 (n= 505)	43.0	—	4.8	17.6	31.9	0.4	0.6	1.8	—
	95%以上 (n= 192)	43.8	—	3.1	19.8	30.2	1.0	1.0	1.0	—
	70~95%未満 (n= 313)	42.5	—	5.8	16.3	32.9	—	0.3	2.2	—
	70%未満・計 (n= 645)	34.0	5.9	18.6	—	34.3	1.1	1.1	5.0	0.2
	40~70%未満 (n= 240)	40.0	—	4.2	16.7	34.2	0.8	0.4	3.3	0.4
	40%未満・計 (n= 405)	30.4	6.9	19.8	—	34.3	1.2	1.5	5.9	—
高校所在地別	北海道 (n= 91)	31.9	4.4	24.2	—	35.2	—	—	4.4	—
	東北 (n= 140)	34.3	4.3	15.7	—	37.9	2.1	0.7	5.0	—
	北関東・甲信越 (n= 140)	37.9	3.6	26.4	—	31.4	—	—	0.7	—
	南関東 (n= 208)	36.1	5.8	20.2	—	34.6	0.5	1.0	1.9	—
	東海 (n= 128)	32.8	6.3	14.1	—	39.1	2.3	1.6	3.9	—
	北陸 (n= 29)	48.3	6.9	17.2	—	27.6	—	—	—	—
	関西 (n= 143)	36.4	4.2	18.9	—	32.9	0.7	1.4	5.6	—
	中国・四国 (n= 128)	53.1	—	7.8	11.7	25.0	—	—	2.3	—
	九州・沖縄 (n= 143)	38.5	6.3	14.7	—	30.8	0.7	2.1	6.3	0.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※2016年以前は「学年や課程・学科・コース単位で取り組んでいる」「取り組んだがうまくいかず、一斉講義型の授業に戻した」を除く5つの選択肢で誘致

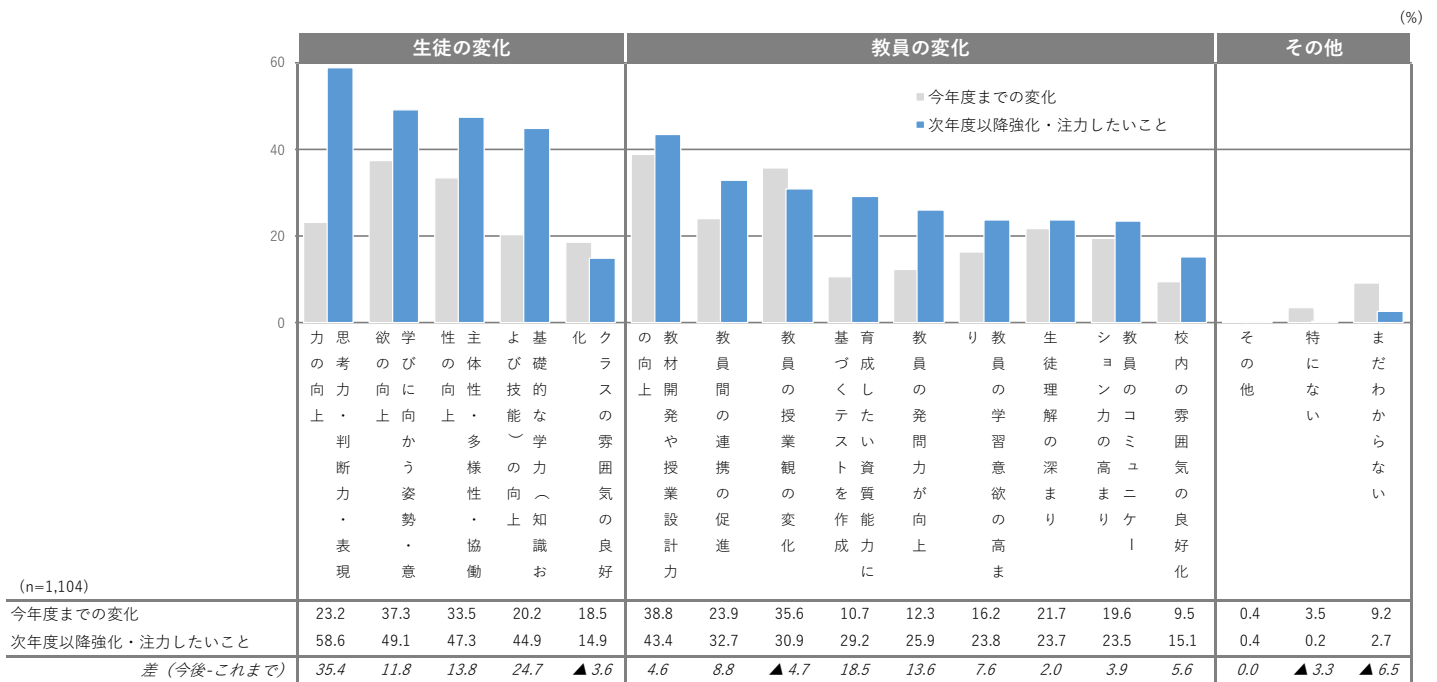
Q6

2) 授業改善への取組による変化と次年度以降さらに強化・注力したいこと

- 今年度までの取組による変化は、生徒では「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」(37%)、教員では「教材開発や授業設計力が向上した」(39%)がトップ。
 - 次年度以降さらに強化・注力したいこととしては、教員より生徒に関する項目のスコアが高く、「思考力・判断力・表現力の向上」(59%)を筆頭に、上位4つを生徒の変化が占める。
- 授業改善への今年度までの取組によってどのような変化があったかを尋ねたところ、教員の変化では、「教材開発や授業設計力が向上した」に「教員の授業観が変わった」(36%)が僅差で続き、「授業への向き合い方も含めて変化があったとする回答が多い。
 - 次年度以降さらに強化・注力したいこととしては、生徒における「思考力・判断力・表現力の向上」(59%)が突出して高く、以下「学びに向かう姿勢・意欲の向上」(49%)など、全体的に生徒に関する項目でスコアが高い。教員では「教材開発や授業設計力の向上」(43%)がトップとなった。

■ 授業改善に取り組んだことによる変化と、次年度以降さらに強化・注力したいこと（「アクティブ・ラーニング」導入校/各複数回答）

授業改善に取り組んだことで、今年度までにどのような変化を感じていますか。また、次年度以降、さらに強化・注力していきたいことは何ですか。（複数回答可）



※カテゴリーごとに「次年度以降強化・注力したいこと」の降順ソート

Q6SQ1SQ2

3) 授業改善に取り組んだことで、今年度までに変化を感じたこと

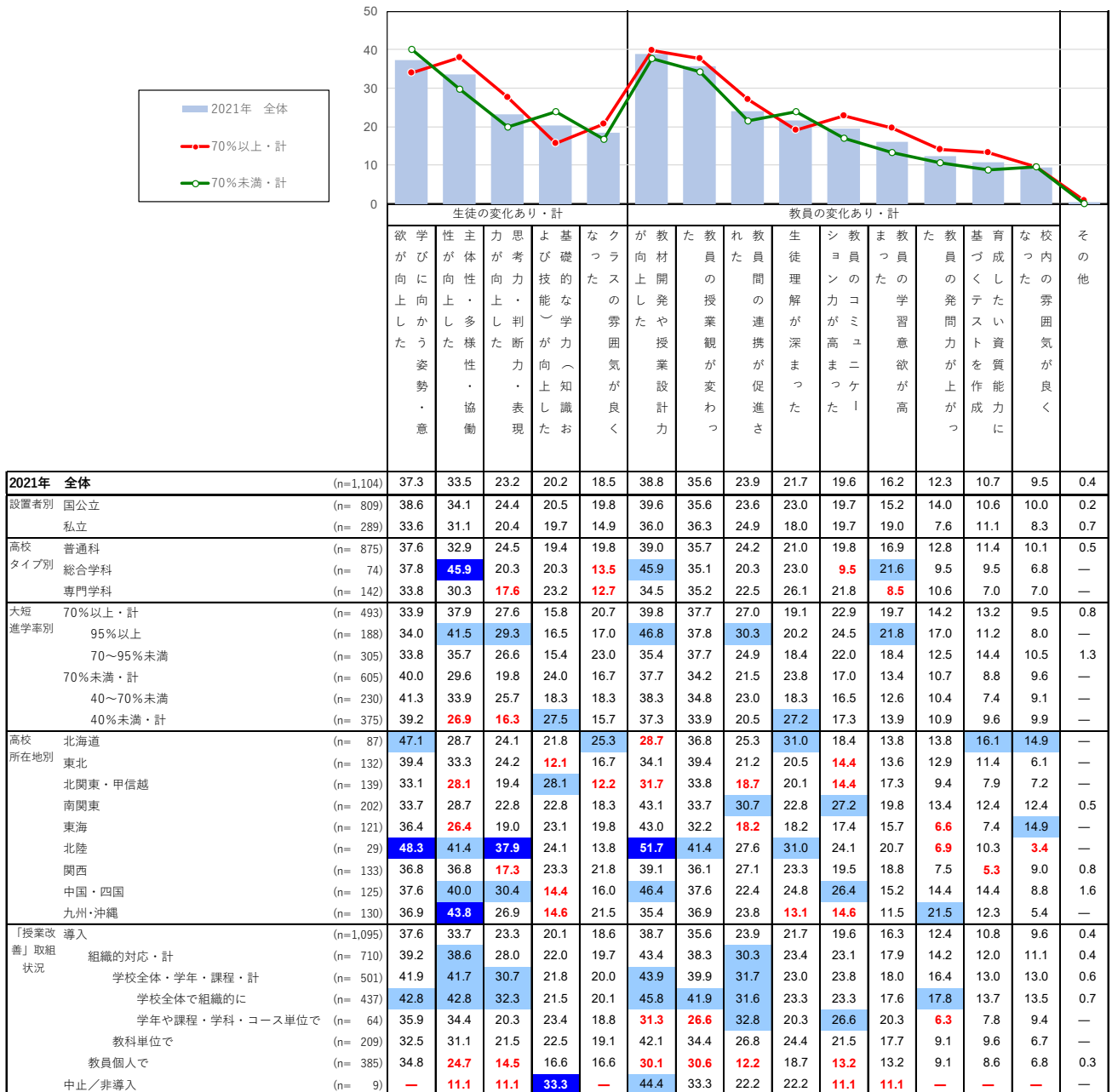
■ 生徒の変化では「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」(37%)、教員の変化では「教材開発や授業設計力が向上した」(39%)がトップ。

- 教員の変化では、「教員の授業観が変わった」(36%)が僅差で続き、「授業“への向き合い方も含めて変化があったとする回答が多い。
- 大短進学率別にみると、95%以上の層で全体的にスコアの高い項目が多い。しかし、生徒の「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」「基礎的な学力(知識および技術)が向上した」や、教員の「生徒理解が深まった」は、40%未満の層で高くなっている。

■授業改善に取り組んだことによる変化(「アクティブ・ラーニング」導入校/複数回答)

(%)

授業改善に取り組んだことで、今年度までにどのような変化を感じていますか。(複数回答可)



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q65Q1

- 「授業改善」への取組状況別にみると、学校全体で組織的に取り組む層でスコアが高い項目が多い。学年や課程・学科・コース単位で取り組む層では、「教員間の連携が促進された」「教員のコミュニケーション力が高まった」「教員の学習意欲が高まった」などが高くなっており、小さい単位の組織で取り組むことによって教員のコミュニケーションや意欲に変化があることがわかる。

(%)

い	特に成果は感じられない	まだわからない	無回答	
3.5	9.2	2.4	2021年 全体	
3.6	8.7	2.2	国公立	設置者別
3.5	11.1	2.8	私立	
3.5	8.8	2.2	普通科	高校 タイプ別
1.4	12.2	2.7	総合学科	
4.9	10.6	3.5	専門学科	
2.2	10.3	2.8	70%以上・計	大短 進学率別
1.1	10.1	1.6	95%以上	
3.0	10.5	3.6	70~95%未満	
4.6	8.4	2.0	70%未満・計	
4.3	6.5	1.7	40~70%未満	
4.8	9.6	2.1	40%未満・計	
5.7	8.0	2.3	北海道	高校 所在地別
3.8	9.8	0.8	東北	
3.6	10.8	2.9	北関東・甲信越	
3.0	10.9	3.0	南関東	
6.6	7.4	1.7	東海	
6.9	—	—	北陸	
2.3	9.8	3.8	関西	
1.6	7.2	2.4	中国・四国	
2.3	10.8	2.3	九州・沖縄	
3.5	9.3	2.3	導入	「授業改善」取組 状況
2.4	5.9	1.8	組織的対応・計	
2.2	5.0	1.8	学校全体・学年・課程・計	
1.8	5.3	0.9	学校全体で組織的に	
4.7	3.1	7.8	学年や課程・学科・コース単位で	
2.9	8.1	1.9	教科単位で	
5.5	15.6	3.1	教員個人で	
11.1	—	11.1	中止/非導入	

Q6SQ1

4) 次年度以降、さらに強化・注力していきたいこと

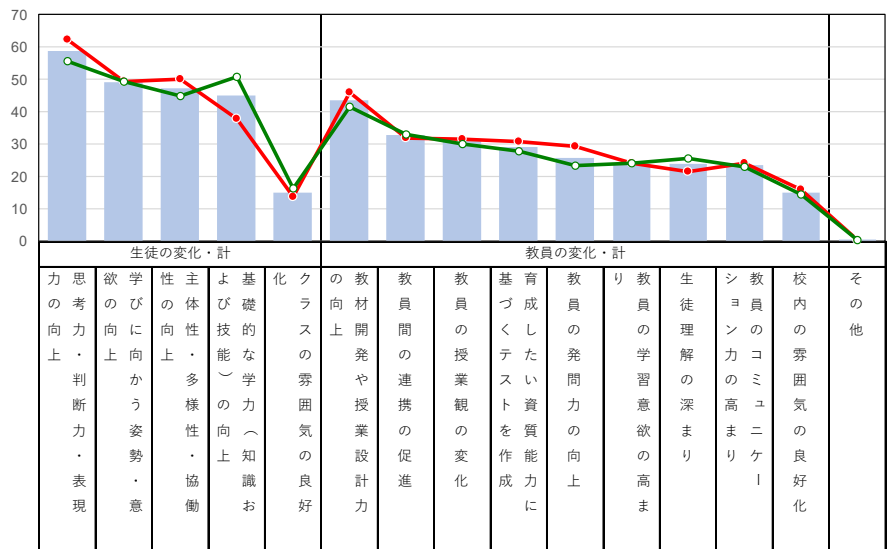
■ 教員より、生徒に関する項目のスコアが全体的に高く、「思考力・判断力・表現力の向上」(59%)がトップ。教員では「教材開発や授業設計力の向上」(43%)がトップ。

- 設置者別にみると、私立では「教員の授業観の変化」「教員の学習意欲の高まり」について強化・注力したいとする割合が全体と比較して高く、いずれも35%前後。
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科では生徒の「基礎的な学力(知識および技能)の向上」が50%以上と高い。
- 大短進学率別にみると、生徒に関する項目では進学率による差が大きく、進学率40%以上の層では「思考力・判断力・表現力の向上」60%超でトップとなっているが、40%未満の層では「基礎的な学力(知識および技能)の向上」が56%でトップ。

■授業改善について、次年度以降さらに強化・注力したいこと(「アクティブ・ラーニング」導入校/複数回答)

(%)

次年度以降、さらに強化・注力していきたいことは何ですか。(複数回答可)



		生徒の変化・計															教員の変化・計														
		力 の 考 の 向 上 ・ 判 断 力 ・ 表 現	欲 の 向 上 か う 姿 勢 ・ 意	性 の 向 上 多 様 性 ・ 協 働	よ 基 礎 的 な 学 力 (学 識 お	化 ク ラ ス の 雰 囲 気 の 良 好	の 教 材 開 発 や 授 業 設 計 力	教 員 間 の 連 携 の 促 進	教 員 の 授 業 観 の 変 化	基 育 成 く し た い 資 質 成 力 に	教 員 の 発 問 力 の 向 上	り 教 員 の 学 習 意 欲 の 高 ま	生 徒 理 解 の 深 ま り	シ ョ ン の 高 ま り ケ ー !	校 内 の 雰 囲 気 の 良 好 化	そ の 他															
2021年 全体	(n=1,104)	58.6	49.1	47.3	44.9	14.9	43.4	32.7	30.9	29.2	25.9	23.8	23.7	23.5	15.1	0.4															
設置者別																															
	国公立 (n= 809)	58.8	47.5	46.5	45.9	13.8	42.4	30.9	28.2	30.2	26.5	20.5	22.9	22.9	13.5	0.5															
	私立 (n= 289)	57.4	53.6	49.5	42.6	18.3	46.4	37.0	37.7	26.0	24.9	33.6	26.0	24.9	19.7	—															
高校タイプ別																															
	普通科 (n= 875)	60.1	48.8	49.0	43.2	14.4	44.7	32.9	30.7	30.9	26.3	23.9	23.0	24.1	15.9	0.2															
	総合学科 (n= 74)	54.1	47.3	31.1	51.4	16.2	39.2	31.1	33.8	23.0	29.7	18.9	20.3	18.9	10.8	1.4															
	専門学科 (n= 142)	52.8	51.4	44.4	52.8	16.9	38.7	33.1	29.6	21.1	21.8	25.4	30.3	22.5	13.4	0.7															
大短進学率別																															
	70%以上・計 (n= 493)	62.1	49.1	50.1	37.7	13.6	45.8	32.0	31.6	30.6	29.4	23.9	21.5	24.1	16.0	0.4															
	95%以上 (n= 188)	60.6	53.2	49.5	31.4	11.7	43.1	34.6	27.1	29.3	30.3	22.9	22.9	28.7	13.8	—															
	70~95%未満 (n= 305)	63.0	46.6	50.5	41.6	14.8	47.5	30.5	34.4	31.5	28.9	24.6	20.7	21.3	17.4	0.7															
	70%未満・計 (n= 605)	55.5	49.1	45.0	50.9	16.2	41.5	32.9	29.9	27.8	23.3	24.0	25.5	22.8	14.4	0.3															
	40~70%未満 (n= 230)	64.8	50.4	48.7	43.0	16.1	46.1	35.2	30.9	33.5	22.6	25.2	24.3	22.2	12.2	—															
	40%未満・計 (n= 375)	49.9	48.3	42.7	55.7	16.3	38.7	31.5	29.3	24.3	23.7	23.2	26.1	23.2	15.7	0.5															
高校所在地別																															
	北海道 (n= 87)	54.0	46.0	54.0	49.4	18.4	46.0	31.0	39.1	32.2	34.5	36.8	23.0	27.6	19.5	1.1															
	東北 (n= 132)	59.1	45.5	41.7	50.8	12.1	45.5	36.4	28.8	24.2	25.8	17.4	22.7	16.7	7.6	—															
	北関東・甲信越 (n= 139)	56.1	56.1	43.2	45.3	16.5	43.2	30.2	31.7	33.1	18.0	25.2	23.7	22.3	13.7	—															
	南関東 (n= 202)	60.9	55.0	53.5	44.1	17.3	50.5	44.6	34.7	25.2	27.2	26.2	30.2	30.2	18.3	0.5															
	東海 (n= 121)	55.4	40.5	48.8	45.5	13.2	34.7	32.2	28.9	30.6	23.1	26.4	25.6	24.0	18.2	—															
	北陸 (n= 29)	51.7	48.3	37.9	41.4	10.3	51.7	24.1	31.0	20.7	13.8	34.5	27.6	27.6	6.9	—															
	関西 (n= 133)	54.9	48.1	45.1	33.1	17.3	39.8	33.1	26.3	23.3	24.1	21.1	21.1	22.6	18.0	0.8															
	中国・四国 (n= 125)	66.4	52.8	44.0	48.0	11.2	36.8	22.4	29.6	32.0	31.2	20.0	16.0	23.2	13.6	0.8															
	九州・沖縄 (n= 130)	60.0	43.8	49.2	46.9	14.6	45.4	24.6	26.9	36.9	30.0	19.2	22.3	17.7	13.8	—															
「授業改善」取組状況																															
	導入 (n=1,095)	58.8	49.0	47.4	44.8	14.7	43.7	32.6	31.0	29.3	26.1	23.8	23.7	23.5	15.2	0.4															
	組織的対応・計 (n= 710)	59.9	51.8	48.9	45.1	13.9	46.3	33.5	30.1	32.8	27.5	23.1	24.2	23.7	13.4	0.3															
	学校全体・学年・課程・計 (n= 501)	60.7	50.7	49.3	46.1	13.0	46.5	32.1	29.5	34.3	29.1	23.4	23.2	25.3	14.0	0.2															
	学校全体で組織的に (n= 437)	61.3	50.1	49.7	46.0	12.8	47.8	33.0	27.5	35.0	29.7	23.3	23.1	25.6	14.0	0.2															
	学年や課程・学科・コース単位で (n= 64)	56.3	54.7	46.9	46.9	14.1	37.5	26.6	43.8	29.7	25.0	23.4	23.4	23.4	14.1	—															
	教科単位で (n= 209)	57.9	54.5	47.8	42.6	16.3	45.9	36.8	31.6	29.2	23.4	22.5	26.8	19.6	12.0	0.5															
	教員個人で (n= 385)	56.9	43.9	44.7	44.4	16.1	38.7	30.9	32.5	22.9	23.6	25.2	22.6	23.1	18.4	0.5															
	中止/非導入 (n= 9)	33.3	55.6	33.3	55.6	44.4	11.1	44.4	22.2	11.1	—	22.2	33.3	22.2	11.1	—															

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q65Q2

(%)

特 に な い	ま だ わ か ら な い	無 回 答	
0.2	2.7	1.9	2021年 全体
0.2	2.8	1.5	国公立 設置者別
—	2.4	3.1	私立
0.2	2.2	1.9	普通科 高校
—	6.8	1.4	総合学科 タイプ別
—	4.2	2.1	専門学科
—	2.2	2.6	70%以上・計 大短
—	3.2	2.7	95%以上 進学率別
—	1.6	2.6	70~95%未満
0.3	3.1	1.3	70%未満・計
—	1.3	1.3	40~70%未満
0.5	4.3	1.3	40%未満・計
—	5.7	3.4	北海道 高校
1.5	1.5	—	東北 所在地別
—	2.2	2.2	北関東・甲信越
—	2.0	3.0	南関東
—	4.1	0.8	東海
—	—	—	北陸
—	1.5	2.3	関西
—	3.2	2.4	中国・四国
—	3.8	1.5	九州・沖縄
0.2	2.7	1.8	導入 「授業改
0.1	1.5	1.4	組織的対応・計 善」取組
—	1.8	0.8	学校全体・学年・課程・計 状況
—	1.8	0.5	学校全体で組織的に
—	1.6	3.1	学年や課程・学科・コース単位で
0.5	1.0	2.9	教科単位で
0.3	4.9	2.6	教員個人で
—	—	11.1	中止/非導入

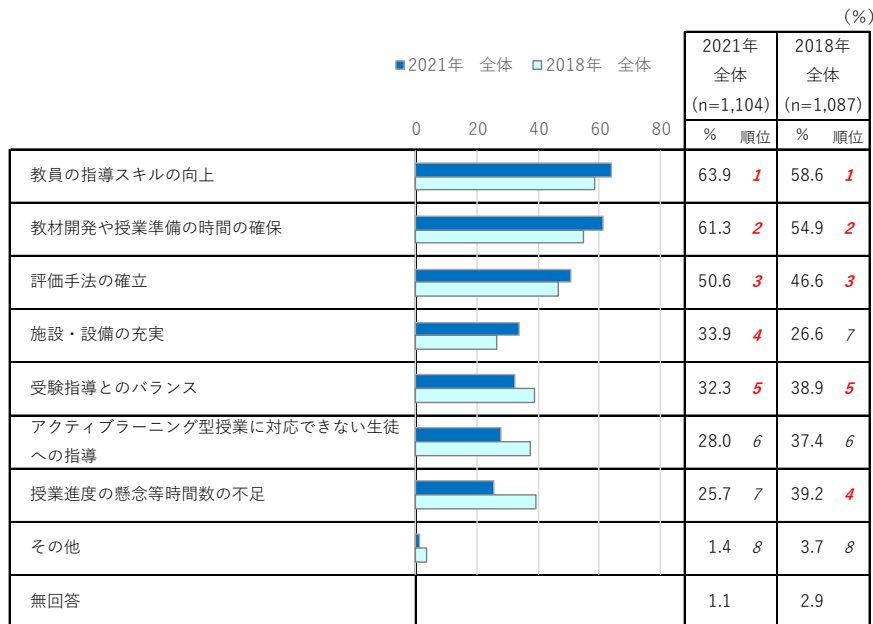
Q6SQ2

5) 授業改善に取り組んで見えてきた課題・改善点

- アクティブラーニング導入校における課題・改善点のトップは、「教員の指導スキルの向上」「教材開発や授業準備の時間の確保」が60%以上で並ぶ。上位3項目は、スコアが上昇したものの顔ぶれは2018年と変わらない。
- 「施設・設備の充実」は2018年より7ポイント上昇し、課題としての順位が上昇した。

■ 授業改善に取り組んで見えてきた課題や改善点（「アクティブラーニング」導入校／複数回答）

授業改善に取り組んで、見えてきた課題や改善点はどのようなことでしょうか。（複数回答可）

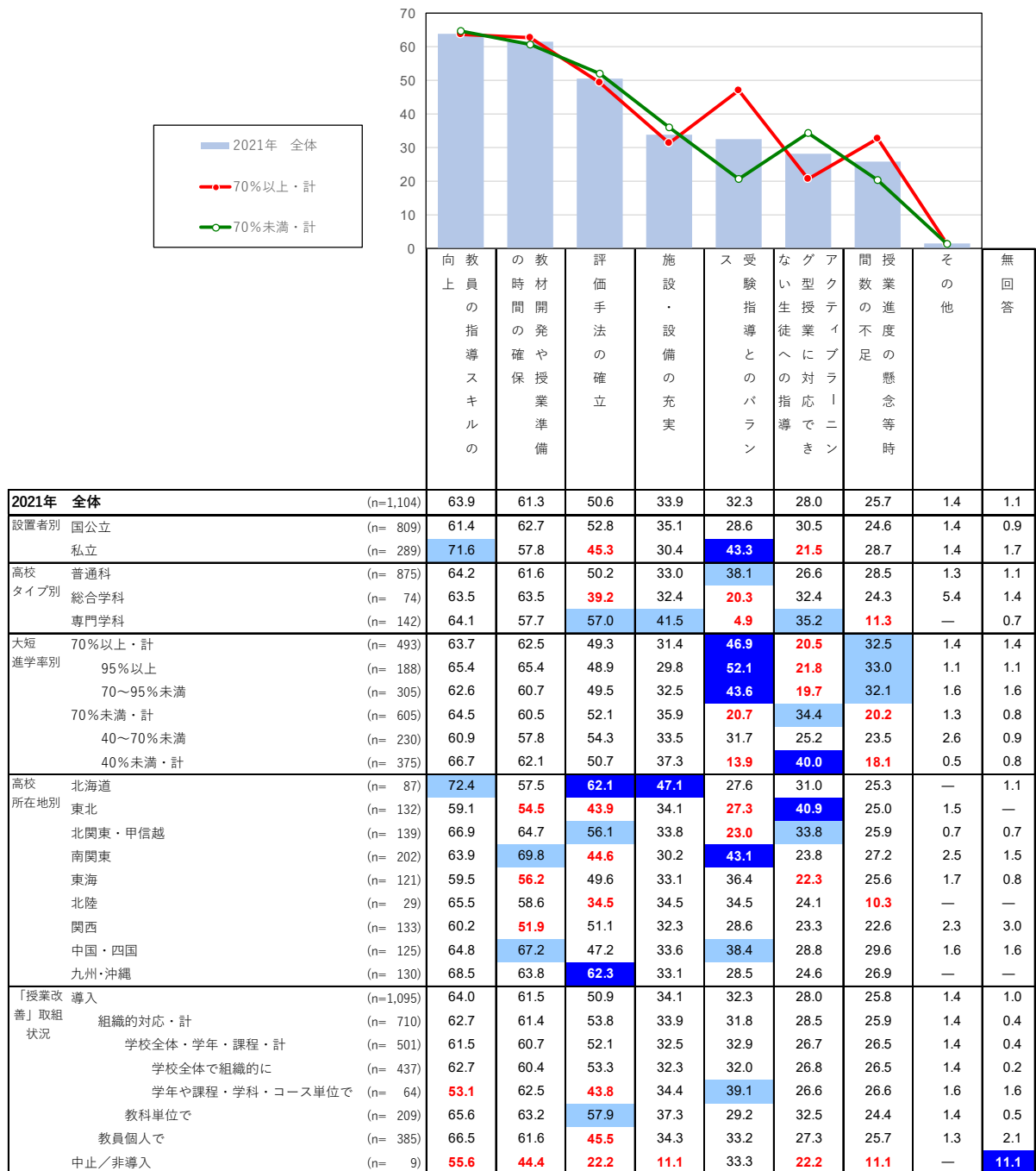


※2021年全体値の降順ソート

時Q6SQ3

- 設置者別にみると、私立では「教員の指導スキルの向上」「受験指導とのバランス」が全体と比較して顕著に高い。
- 大短進学率別にみると、上位4項目では進学率による差が小さいが、それ以下ではばらつきが大きく、進学率70%以上の層では「受験指導とのバランス」「授業進度の懸念等時間数の不足」、40%未満の層では「アクティブラーニング型授業に対応できない生徒への指導」がそれぞれ高い。

■授業改善に取り組んで見えてきた課題や改善点（「アクティブラーニング」導入校/複数回答） (%)
 授業改善に取り組んで、見えてきた課題や改善点はどのようなことでしょうか。（複数回答可）



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.0-5pt以上低い

Q6SQ3

3. 「総合的な探究の時間」について

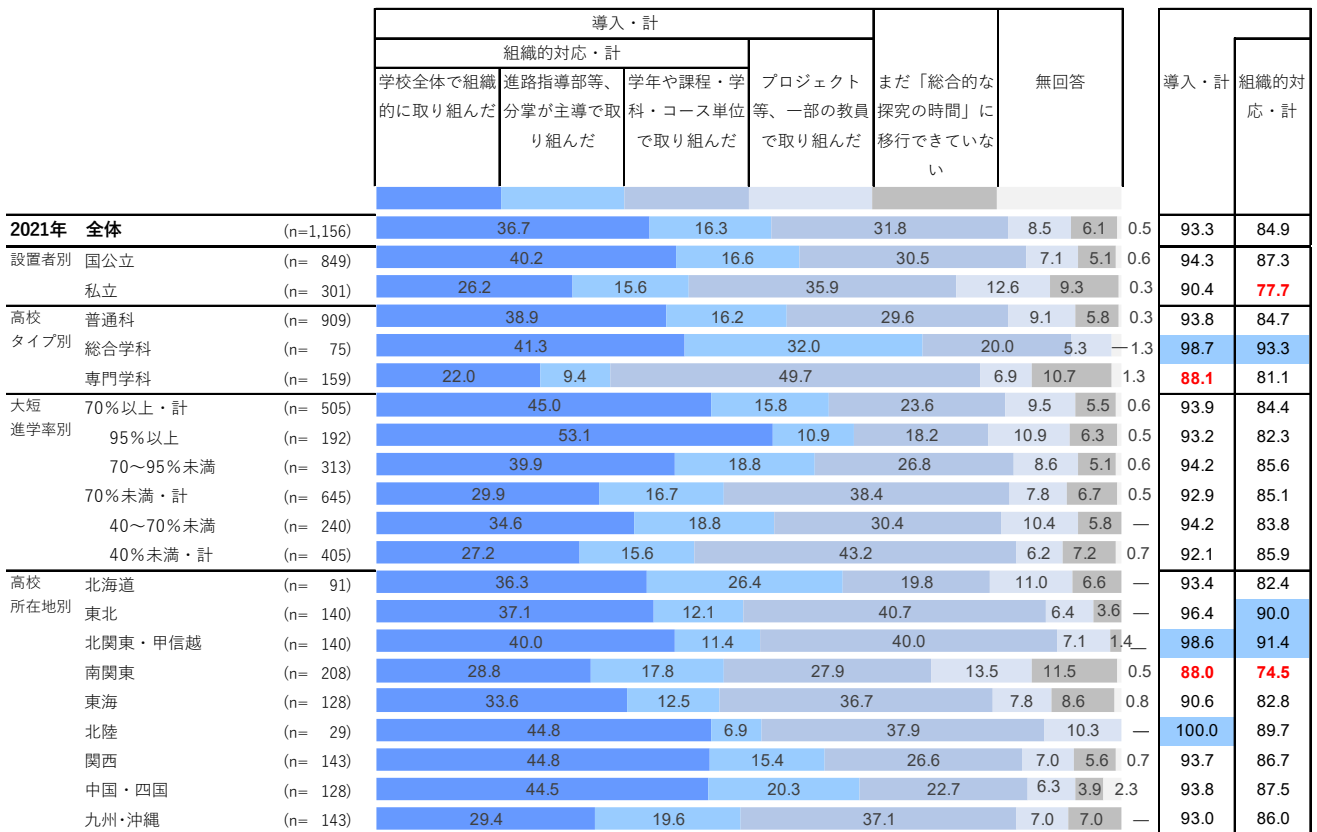
1) 「総合的な探究の時間」への取組状況

- 「総合的な探究の時間」は93%が導入。85%は「組織的対応」で取り組んでいる。
- 組織的対応の中では、「学校全体で組織的に取り組んだ」「学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ」がいずれも3割以上と多い。
 - 設置者別にみると、いずれでも「導入・計」が9割以上を占めるが、「組織的対応・計」の割合は、国立（87%）が私立（78%）を大きく上回る。特に「学校全体で組織的に取り組んだ」割合で差が大きい。
 - 高校タイプ別にみると、普通科、総合学科で「学校全体で組織的に取り組んだ」割合が高く40%前後を占める。また、総合学科ではこれについて「進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ」（32%）が高い。
 - 大短進学率別にみると、「導入・計」はいずれの層でも90%を超えるが、進学率の高い層ほど「学校全体で取り組んだ」割合が高く、「学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ」が低い傾向がある。

■「総合的な探究の時間」の取り組み（全体/単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」にどのように取り組んできましたか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/■0.0-5pt以上低い

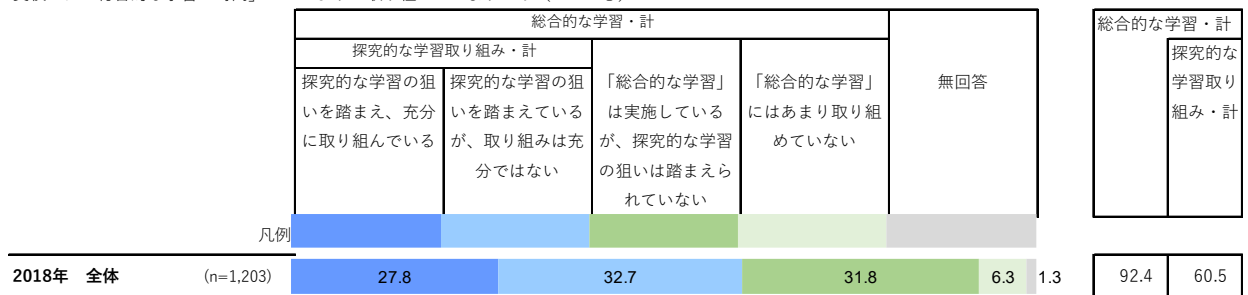
Q7

■参考：2018年 「総合的な学習の時間」の取り組み（全体/単一回答）

(%)

現行の学習指導要領では、「総合的な学習の時間」の目標として「探究的な学習を通して…」と明記されています。

貴校では「総合的な学習の時間」にどのように取り組んでいますか？（1つに○）

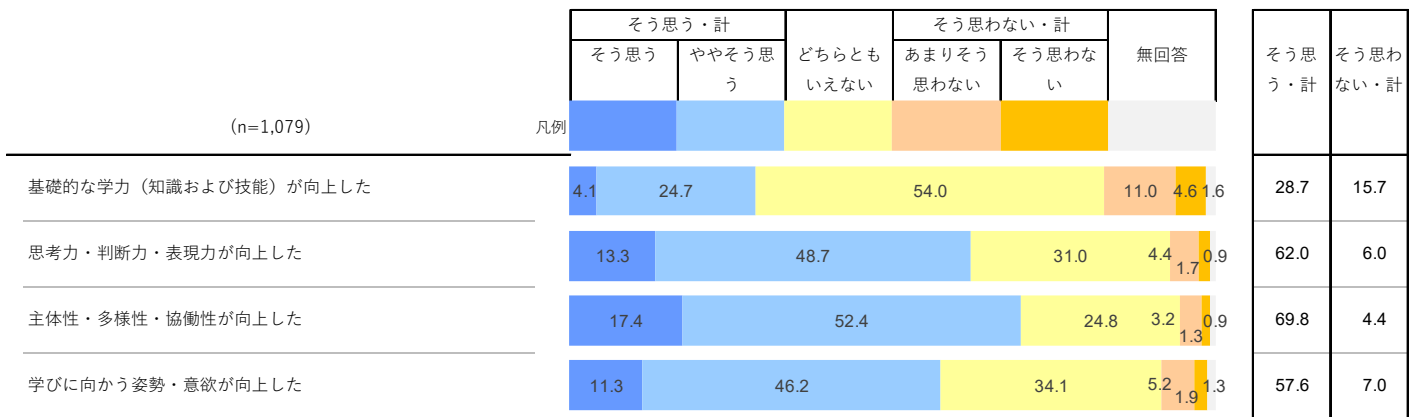


時Q7

2) 「総合的な探究の時間」への取組による生徒の変化

- 「総合的な探究の時間」への取組による変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【主体性・多様性・協働性が向上した】（17%）。「ややそう思う」まで含めると合計で70%が変化を感じている。
- また、【思考力・判断力・表現力が向上した】【学びに向かう姿勢・意欲が向上した】でも合計では60%が変化を感じている。
 - 逆に【基礎的な学力（知識および技能）】は合計でも30%未満にとどまる。

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校/各単一回答） (n=1,079) (%)



Q7SQ1

- 生徒の変化についての4項目の「そう思う」「ややそう思う」合計を設置者別にみると、全体的に国公立でスコアが高く、特に「思考力・判断力・表現力が向上した」の差が大きい。
- 高校タイプ別にみると、「思考力・判断力・表現力が向上した」「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」は、いずれのタイプでも60%前後が肯定しており差が小さい。それ以外の2項目はタイプによってスコアが異なり、「主体性・多様性・協働性が向上した」は総合学科で81%、「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」は専門学科で36%と、全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、ほとんどの項目で進学率の高い層ほどスコアが高くなる傾向がみられる。
- 「総合的な探究の時間」取組状況別にみると、組織的対応を行っている学校ほどスコアが高い項目がほとんど。特に学校全体で組織的に対応している高校では、基礎的な学力の向上以外の項目はすべて70～80%前後となっている。

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）

(%)

※「そう思う」「ややそう思う」の合計

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

		基礎的な学力（知識および技能）が向上した	思考力・判断力・表現力が向上した	主体性・多様性・協働性が向上した	学びに向かう姿勢・意欲が向上した
2021年	全体 (n=1,079)	28.7	62.0	69.8	57.6
設置者別	国公立 (n= 801)	29.6	63.9	70.7	58.9
	私立 (n= 272)	26.5	56.6	67.3	53.7
高校タイプ別	普通科 (n= 853)	27.1	62.1	69.3	57.6
	総合学科 (n= 74)	27.0	60.8	81.1	55.4
	専門学科 (n= 140)	36.4	60.0	66.4	57.1
大短進学率別	70%以上・計 (n= 474)	29.5	66.0	75.1	62.7
	95%以上 (n= 179)	33.5	69.3	74.3	63.1
	70～95%未満 (n= 295)	27.1	64.1	75.6	62.4
	70%未満・計 (n= 599)	28.2	58.9	65.6	53.6
	40～70%未満 (n= 226)	25.7	61.1	68.1	55.8
	40%未満・計 (n= 373)	29.8	57.6	64.1	52.3
高校所在地別	北海道 (n= 85)	25.9	58.8	63.5	61.2
	東北 (n= 135)	23.0	69.6	79.3	60.7
	北関東・甲信越 (n= 138)	31.9	57.2	71.0	52.2
	南関東 (n= 183)	28.4	53.6	58.5	50.3
	東海 (n= 116)	26.7	62.9	66.4	59.5
	北陸 (n= 29)	41.4	62.1	69.0	69.0
	関西 (n= 134)	33.6	65.7	72.4	65.7
	中国・四国 (n= 120)	32.5	71.7	77.5	59.2
	九州・沖縄 (n= 133)	24.8	60.2	72.2	54.1
「総合的な探究の時間」取組状況	取り組みあり・計 (n=1,079)	28.7	62.0	69.8	57.6
	組織的対応・計 (n= 981)	29.8	63.8	70.9	58.8
	学校全体・学年・課程・計 (n= 792)	30.6	65.9	72.3	61.0
	学校全体で組織的に (n= 424)	34.7	74.5	79.2	67.5
	学年や課程・学科・コース単位で (n= 368)	25.8	56.0	64.4	53.5
	進路指導部等、分掌が主導で (n= 189)	26.5	55.0	65.1	49.7
	プロジェクト等、一部の教員で (n= 98)	18.4	43.9	58.2	44.9

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い Q7SQ1_P2

<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」に取り組んだことで感じた生徒の変化

■学習意欲・進学実績の向上

- 大短進学率70%以上
 - ・まなぶ楽しさに気づいた生徒が生まれた。[兵庫県/私立/普通科]
- 大短進学率70%未満
 - ・国公立大学や慶應義塾大に合格者を出せている。[鹿児島県/私立/普通科]

■プレゼンテーション能力の向上

- 大短進学率70%以上
 - ・プレゼンテーション能力の向上につながった[宮崎県/県立/普通科]
- 大短進学率70%未満
 - ・プレゼンテーション能力・調査探究能力等が向上したと考えている[北海道/道立/総合学科]

■自主性の向上

- 大短進学率70%以上
 - ・なぜ学んでいるのかという自分自身への問いかける機会となっている。自分ごとの課題に向かう学びのスイッチが入る生徒が出現した。その生徒たちの影響がまた周囲の生徒に波及していく。何サイクルか回ると、集団の学びに向かう力が劇的に変わる可能性を感じる。[宮城県/県立/普通科]
 - ・一部の生徒に、部活動でも探究を導入する主体的な取組が見られた。[神奈川県/県立/普通科]
- 大短進学率70%未満
 - ・自分の将来について情報を得て思考し、判断し、行動し、振り返ることができるようになった（一人でできるかは不明）[千葉県/県立/総合学科]

■社会への関心の広がり

- 大短進学率70%以上
 - ・まだ一部の生徒ではあるが、探究的な学びの成果が外部での発表活動に結びつき、次の学年の生徒にも継承されて、研究を深めることになった。[千葉県/県立/普通科]
 - ・価値観の多様性や社会問題について関心を持つようになった。[神奈川県/私立/普通科]
- 大短進学率70%未満
 - ・SDGsへの関心が高まった。[愛知県/私立/普通科]
 - ・外部との関わりによって社会性を学んでいた。[新潟県/県立/普通科]
 - ・自分の住む地域についての理解が深まってきているように感じる。[熊本県/県立/普通科]
 - ・自分自身を含めた「身近な所」から「世界」を俯瞰的に見たり、反対に、「世界」から我々のおかれている「身近な世界」を見たりと、幅広い視点で取り組ませた。キャリア教育の一環とも捉え、進路指導もその中に組み込み、学校調べ、小論文への取り組み、調べ学習・ポスター作製等、総合的な探究を通じて、生徒の志向・判断・表現力及び将来設計をしていく力を養う機会となったのではないかと考える。[埼玉県/県立/普通科]

■チームワークの向上

- 大短進学率70%以上
 - ・グループ活動を通して意見を言いあったりする中で、協力してプレゼンを創り上げ発表することができていた。[熊本県/私立/普通科]
- 大短進学率70%未満
 - ・携帯電話を利用したツールの利用を、生徒が自主的に行い、まとめ作業の共有をしていた。[茨城県/県立/普通科]
 - ・授業で学んだ内容を、放課後に残って理解できていない生徒へ伝える、学び合いの姿勢が育った[北海道/道立/普通科]

■キャリア教育・進路選択に対する好影響

- 大短進学率70%未満
 - ・将来の職業について意識し始めている。[栃木県/県立/専門学科]
 - ・生徒は職業観を持つようになった。[新潟県/県立/普通科]
 - ・探究と進路を結びつけて指導したため、進路を決定したり、理解を深めるきっかけとなった。[静岡県/県立/普通科]
 - ・地域社会や生活への関心が広がり、それらと学習や自己の進路を結びつけて考えることで、学習への意欲や進路意識が明確になり、深まった。[岡山県/県立/普通科]

■自己肯定感の向上

- 大短進学率70%未満
 - ・自己肯定感が高まり、積極的に物事に取り組む生徒が増えた。[宮崎県/県立/普通科]
 - ・自分自身に自信の持てない生徒が多く入学してきているが、次第に自己肯定感が高揚してきている。[栃木県/県立/普通科]

3) カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ

■ 「総合的な探究の時間」を、カリキュラム・マネジメントの中核に「位置づけている」「位置づけようと考えている」学校が合計で**58%**。「位置づけたい」までまとめると、**74%**が意向あり。

■ **2018年と比較して「中核に位置づけている」が13ポイント増加。**

- 設置者別にみると、国公立では「『総合的な探究の時間』を、既にカリキュラムの中に位置づけている」（34%）割合が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「既に中核に位置づけている」が**56%**と突出して高い。
- 大短進学率別では、進学率の高い層ほど「既に中核に位置づけている」割合が高い。ただし、いずれの層でも「次年度以降、カリキュラムの中に位置づけようと考えている」まで含めた「位置づけている・計」の割合は**60%**前後を占めており、次年度以降には対応済みの学校が**6割**前後に達する見込みとなっている。
- 「総合的な探究の時間」取組状況別にみると、学校全体で組織的に取り組んでいる学校では半数が「既に中核に位置づけている」と回答しており突出して対応が進んでいる。一方、それ以外では「次年度以降」予定している割合も高いものの、「どうしてもかわからない」が**2割**程度を占めている。

■「総合的な探究の時間」のカリキュラム・マネジメントへの位置付け（全体／単一回答）

(%)

新しい学習指導要領では、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核に位置づけることが求められています。それに対し、貴校の状況やお考えを教えてください。

	n	位置づけている／位置づけたい・計					位置づけている／位置づけたい・計	位置づけている・計	
		位置づけている・計		中核に位置づけたいがどうしてもかわからない	「総合的な探究の時間」を中核に位置づけたカリキュラム・マネジメントは考えていない	わからない			無回答
		「総合的な探究の時間」を、既にカリキュラムの中核に位置づけている	次年度以降、カリキュラムの中核に位置づけようと考えている						
2021年 全体	(n=1,156)	30.5	27.6	16.0	13.6	11.7	0.6	74.1	58.1
2018年 全体	(n=1,203)	17.8	16.8	19.0	19.4	24.2	2.8	53.6	34.6
【2021年属性別】									
設置者別	国公立 (n= 849)	33.9	25.6	15.7	12.0	12.1	0.7	75.1	59.5
	私立 (n= 301)	20.9	33.2	16.9	17.9	10.6	0.3	71.1	54.2
高校タイプ別	普通科 (n= 909)	27.8	29.5	17.7	13.1	11.6	0.3	75.0	57.3
	総合学科 (n= 75)	56.0	14.7	14.7	5.3	9.3	—	85.3	70.7
	専門学科 (n= 159)	32.1	23.9	7.5	20.8	13.8	1.9	63.5	56.0
大短進学率別	70%以上・計 (n= 505)	32.7	26.3	14.7	14.5	11.1	0.8	73.7	59.0
	95%以上 (n= 192)	38.5	24.0	10.4	15.6	10.9	0.5	72.9	62.5
	70～95%未満 (n= 313)	29.1	27.8	17.3	13.7	11.2	1.0	74.1	56.9
	70%未満・計 (n= 645)	28.8	28.5	17.1	12.9	12.2	0.5	74.4	57.4
	40～70%未満 (n= 240)	30.4	30.8	15.8	10.0	12.9	—	77.1	61.3
	40%未満・計 (n= 405)	27.9	27.2	17.8	14.6	11.9	0.7	72.8	55.1
高校所在地別	北海道 (n= 91)	25.3	36.3	13.2	12.1	13.2	—	74.7	61.5
	東北 (n= 140)	33.6	24.3	20.0	10.7	11.4	—	77.9	57.9
	北関東・甲信越 (n= 140)	33.6	28.6	15.0	12.1	10.7	—	77.1	62.1
	南関東 (n= 208)	26.4	28.4	14.4	17.3	12.5	1.0	69.2	54.8
	東海 (n= 128)	21.9	35.9	18.8	9.4	14.1	—	76.6	57.8
	北陸 (n= 29)	37.9	31.0	13.8	10.3	6.9	—	82.8	69.0
	関西 (n= 143)	37.8	19.6	14.0	18.2	9.8	0.7	71.3	57.3
	中国・四国 (n= 128)	32.8	28.9	16.4	14.8	5.5	1.6	78.1	61.7
	九州・沖縄 (n= 143)	30.8	21.7	16.8	11.9	17.5	1.4	69.2	52.4
「総合的な探究の時間」取組状況	取り組みあり・計 (n=1,079)	32.4	27.0	16.2	12.8	11.2	0.4	75.6	59.4
	組織的対応・計 (n= 981)	34.0	26.2	15.9	12.9	10.5	0.4	76.1	60.2
	学校全体・学年・課程・計 (n= 792)	36.6	24.7	15.0	12.9	10.4	0.4	76.4	61.4
	学校全体で組織的に (n= 424)	51.9	22.6	9.0	8.5	7.5	0.5	83.5	74.5
	学年や課程・学科・コース単位で (n= 368)	19.0	27.2	22.0	17.9	13.6	0.3	68.2	46.2
	進路指導部等、分掌が主導で (n= 189)	23.3	32.3	19.6	13.2	11.1	0.5	75.1	55.6
	プロジェクト等、一部の教員で (n= 98)	16.3	34.7	19.4	11.2	18.4	—	70.4	51.0
	未取り組み (n= 71)	2.8	36.6	14.1	25.4	19.7	1.4	53.5	39.4

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q8

4) 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え

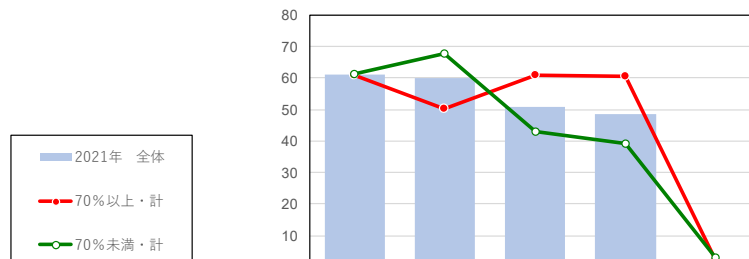
■ ほぼ全員が、「探究活動」が生徒の進路実現につながると回答。「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」「地域や社会への興味・関心が高まる」がそれぞれ60%程度。

- いずれの属性別でも、「進路実現につながると思わない」は5%に満たず、ほぼ全員が進路実現に何らかつながると考えている。
- 大短進学率別にみると、全体的に進学率70%以上の層でスコアの高い項目が多いが、「地域や社会への興味・関心が高まる」については70%未満の層で高い。

■ 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体／複数回答）

(%)

探究活動は、生徒の進路選択にどのようなつながりとお考えですか。（複数回答可）



		前向きな態度の醸成	地域や社会への興味・関心が高まる	総合的な選抜活動	志望校の志望が分る	その他	進路実現に思わな	無回答	進路実現につな
2021年 全体	(n=1,156)	61.2	60.1	50.7	48.6	2.6	1.8	0.3	97.9
設置者別									
国公立	(n= 849)	61.2	64.0	51.0	47.0	2.6	1.3	0.4	98.4
私立	(n= 301)	60.8	48.8	50.2	53.2	2.7	3.3	-	96.7
高校タイプ別									
普通科	(n= 909)	61.5	58.7	54.8	52.4	1.7	1.8	-	98.2
総合学科	(n= 75)	65.3	72.0	56.0	45.3	2.7	1.3	-	98.7
専門学科	(n= 159)	57.9	63.5	25.8	29.6	8.2	2.5	1.3	96.2
大短進学率別									
70%以上・計	(n= 505)	61.0	50.3	60.8	60.6	2.2	1.4	0.2	98.4
95%以上	(n= 192)	57.3	44.8	52.6	62.5	3.6	1.6	0.5	97.9
70~95%未満	(n= 313)	63.3	53.7	65.8	59.4	1.3	1.3	-	98.7
70%未満・計	(n= 645)	61.2	67.6	42.9	39.2	2.9	2.2	0.3	97.5
40~70%未満	(n= 240)	62.5	65.8	52.1	47.1	2.5	2.5	-	97.5
40%未満・計	(n= 405)	60.5	68.6	37.5	34.6	3.2	2.0	0.5	97.5
高校所在地別									
北海道	(n= 91)	70.3	72.5	48.4	48.4	2.2	1.1	-	98.9
東北	(n= 140)	56.4	69.3	56.4	46.4	1.4	0.7	-	99.3
北関東・甲信越	(n= 140)	60.0	63.6	46.4	52.1	2.1	1.4	-	98.6
南関東	(n= 208)	62.5	43.8	44.2	52.4	5.8	3.4	-	96.6
東海	(n= 128)	63.3	52.3	45.3	45.3	1.6	1.6	-	98.4
北陸	(n= 29)	62.1	62.1	44.8	41.4	-	-	-	100.0
関西	(n= 143)	64.3	53.1	46.2	42.0	2.1	2.8	0.7	96.5
中国・四国	(n= 128)	62.5	67.2	62.5	51.6	3.9	-	0.8	99.2
九州・沖縄	(n= 143)	52.4	69.9	60.8	50.3	0.7	2.8	0.7	96.5
「総合的な探究の時間」取組状況									
取り組みあり・計	(n=1,079)	61.0	61.5	51.5	49.6	2.1	1.7	0.1	98.2
組織的対応・計	(n= 981)	61.0	61.4	51.1	49.3	2.0	1.5	0.1	98.4
学校全体・学年・課程・計	(n= 792)	61.2	62.4	49.1	48.4	2.3	1.5	0.1	98.4
学校全体で組織的に	(n= 424)	63.7	65.8	52.6	54.7	3.1	0.5	-	99.5
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 368)	58.4	58.4	45.1	41.0	1.4	2.7	0.3	97.0
進路指導部等、分掌が主導で	(n= 189)	59.8	57.1	59.3	53.4	1.1	1.6	-	98.4
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 98)	61.2	63.3	56.1	52.0	3.1	3.1	-	96.9
未取組み	(n= 71)	63.4	42.3	42.3	36.6	9.9	4.2	-	95.8
カリキュラム・マネジメントにおける位置づけ別									
位置づけている／位置づけたい・計	(n= 857)	64.9	62.4	54.6	51.9	2.0	0.8	-	99.2
位置づけている・計	(n= 672)	66.8	65.6	53.7	54.5	2.2	0.4	-	99.6
既にカリキュラムの中核に位置づけている	(n= 353)	64.6	67.1	58.9	58.4	3.1	0.6	-	99.4
次年度以降、カリキュラムの中核に位置づけようと考えている	(n= 319)	69.3	63.9	48.0	50.2	1.3	0.3	-	99.7
中核に位置づけたいがどうしてよいかわからない	(n= 185)	57.8	50.8	57.8	42.7	1.1	2.2	-	97.8
中核に位置づけたカリキュラム・マネジメントは考えていない	(n= 157)	52.2	54.8	36.3	36.3	5.1	4.5	-	95.5
わからない	(n= 135)	49.6	52.6	43.7	43.0	3.0	5.2	-	94.8

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q9

4. 「ポートフォリオ」について

1) 「ポートフォリオ」の導入状況

■ 78%がポートフォリオを「学校全体、もしくは一部で導入・活用している」。

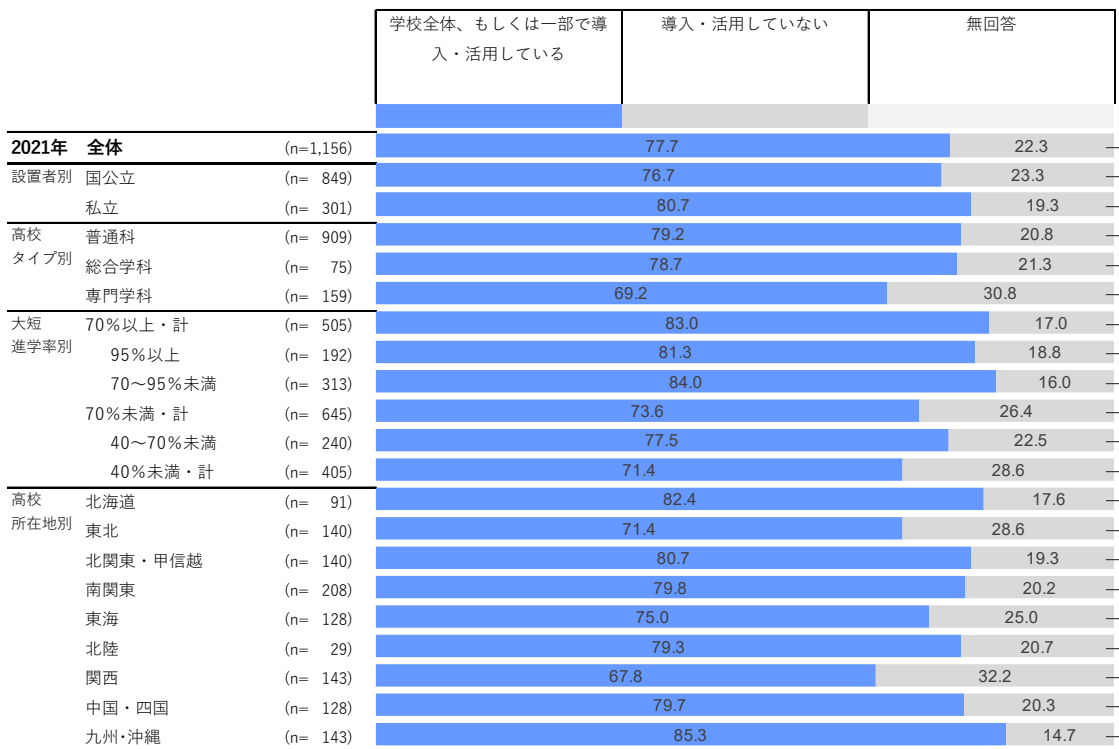
■ 2018年の「導入・計」（71%）と比較して、導入が進んでいる。

- 設置者別にみると、私立の方が「学校全体もしくは一部で導入・活用している」割合がやや高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科、総合学科では80%前後が導入しているが、専門学科では69%と低い。
- 大短進学率別にみると、進学率の高い層ほど導入している割合が高く、進学率70%以上の層では80%以上が導入している。

■ 「ポートフォリオ」の導入・活用（全体／単一回答）

(%)

生徒自身が学びの履歴を記録し、振り返る「ポートフォリオ」を導入・活用していますか。

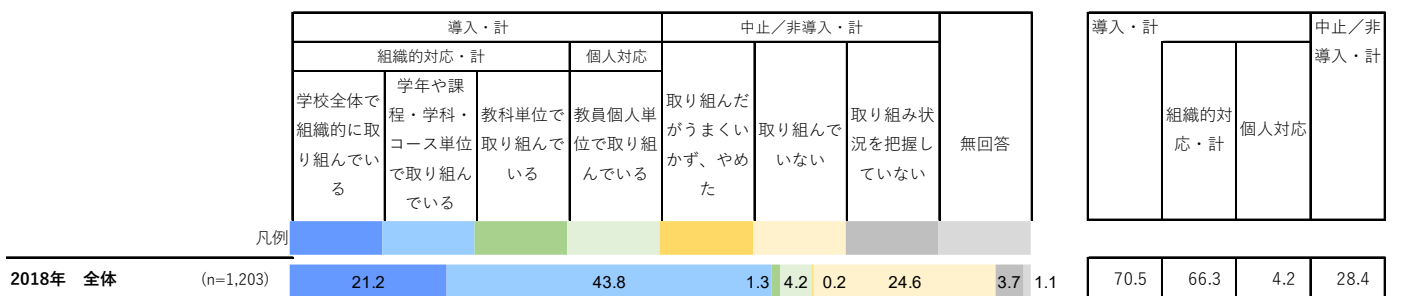


Q10

■参考：2018年 「ポートフォリオ」ツールの導入・活用（全体／単一回答）

(%)

学びの履歴を記録する「ポートフォリオ」ツールを導入・活用していますか。（1つに○）

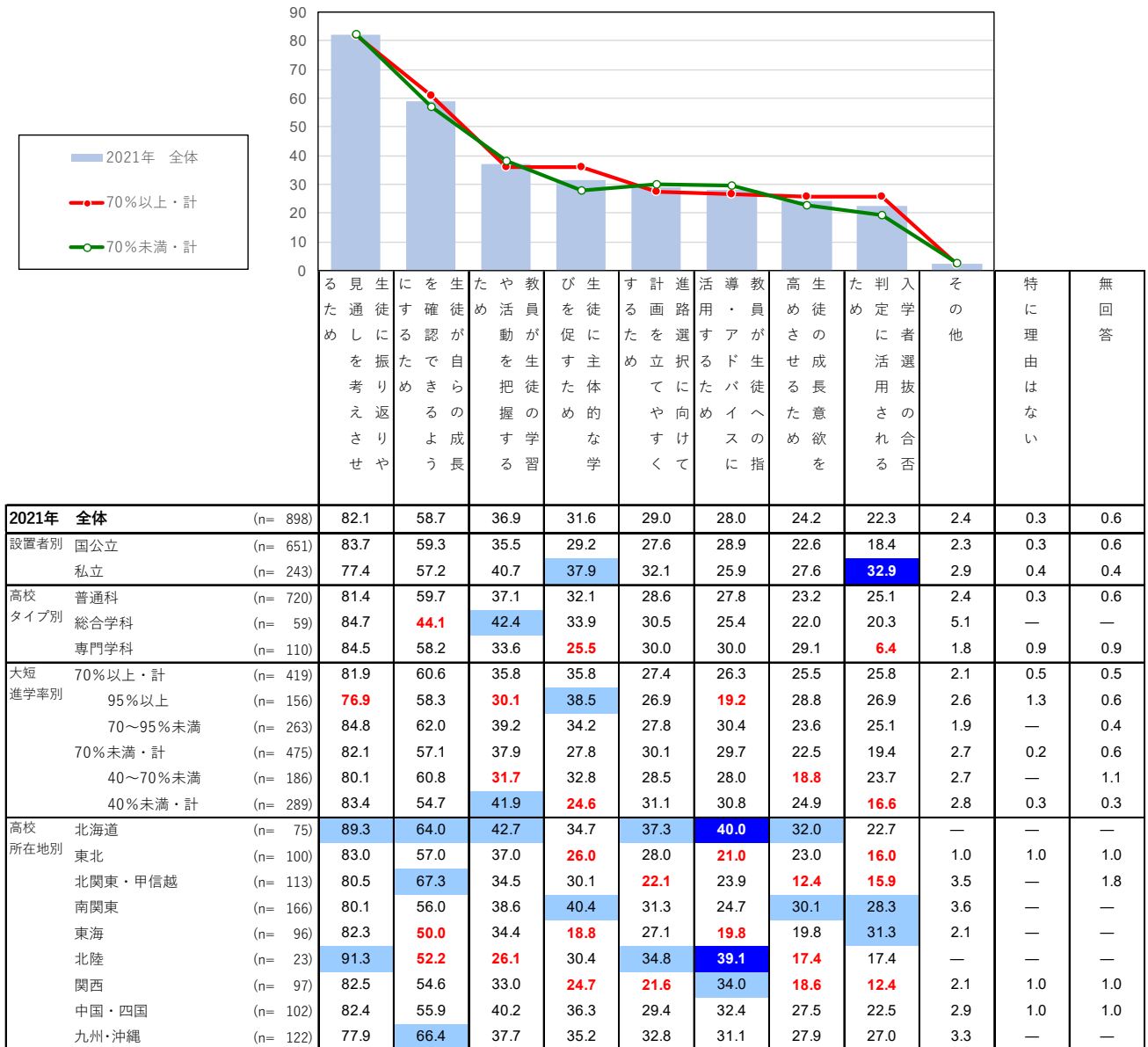


時Q10

2) 「ポートフォリオ」の導入理由

- 導入理由は「生徒に振り返りや見通しを考えさせるため」(82%)がトップ。
- ついで「生徒が自らの成長を確認できるようにするため」(59%)が高く、生徒自身の振り返り・確認を目的として導入する学校が多い。
 - 設置者別でも上記の項目が上位となっているが、3位以下の項目では全体的に私立でスコアの高いものが多く、特に「入学者選抜の可否判定に活用されるため」(33%)、「生徒に主体的な学びを促すため」(38%)が国公立と比較して顕著に高い。
 - 高校タイプ別にみると、総合学科では「教員が生徒の学習や活動を把握するため」(42%)が全体と比較して高い。
 - 大短進学率別にみると、上位2項目はいずれの層でも共通しているが、進学率95%以上の層では「生徒に振り返りや見通しを考えさせるため」が全体と比較して低く、「生徒に主体的な学びを促すため」が高くなっている。

■ 「ポートフォリオ」導入・活用理由（「ポートフォリオ」導入校／複数回答） (%)
 「ポートフォリオ」を導入・活用している理由は何ですか。（複数回答可）



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q10SQ1

3) 「ポートフォリオ」の今後の活用意向

■ 未導入校も、51%が「今後は導入・活用したい」と考えている。

- 導入校のうち33%が「現在よりも積極的に活用したい」。「現在と同じように活用したい」(58%)も合わせると、9割以上が活用意向を示す。
- 設置者別、高校タイプ別では顕著な差が見られない。
- 大短進学率別にみると、進学率40~70%未満の層では、41%が「現在よりも積極的に活用したい」としており、他よりも活用意向が高い。

■今後の活用意向（「ポートフォリオ」導入校／単一回答）

(%)

今後、貴校では「ポートフォリオ」をどの程度活用したいとお考えですか。

		現在よりも積極的に活用したい	現在と同じように活用したい	現在よりも活用を減らしたい	無回答
2021年	全体 (n= 898)	33.2	57.8	7.9	1.1
設置者別	国公立 (n= 651)	32.7	59.1	7.1	1.1
	私立 (n= 243)	34.2	54.7	9.9	1.2
高校タイプ別	普通科 (n= 720)	33.1	57.6	8.1	1.3
	総合学科 (n= 59)	32.2	55.9	11.9	—
	専門学科 (n= 110)	33.6	60.9	4.5	0.9
大短進学率別	70%以上・計 (n= 419)	29.6	59.4	9.8	1.2
	95%以上 (n= 156)	23.7	66.7	9.0	0.6
	70~95%未満 (n= 263)	33.1	55.1	10.3	1.5
	70%未満・計 (n= 475)	36.2	56.6	6.1	1.1
	40~70%未満 (n= 186)	40.9	49.5	8.6	1.1
	40%未満・計 (n= 289)	33.2	61.2	4.5	1.0
高校所在地別	北海道 (n= 75)	40.0	53.3	4.0	2.7
	東北 (n= 100)	30.0	66.0	3.0	1.0
	北関東・甲信越 (n= 113)	26.5	62.8	9.7	0.9
	南関東 (n= 166)	24.1	60.2	13.3	2.4
	東海 (n= 96)	34.4	58.3	7.3	—
	北陸 (n= 23)	39.1	52.2	8.7	—
	関西 (n= 97)	33.0	57.7	9.3	—
	中国・四国 (n= 102)	39.2	52.0	7.8	1.0
	九州・沖縄 (n= 122)	42.6	52.5	4.1	0.8

Q10SQ2_1

■今後の導入意向（「ポートフォリオ」未導入校／単一回答）

(%)

今後、貴校では「ポートフォリオ」をどの程度活用したいとお考えですか。

- 未導入校の51%が「今後は導入・活用したい」。
- 設置者別にみると、国公立(50%)よりも私立(55%)で今後の活用意向が高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科(57%)で導入意向が高く、逆に総合学科(31%)で低い。
- 大短進学率別にみると、進学率40%未満の層では56%が導入意向を示しており、他の層と比較して高い。

		今後は導入・活用したい	今後も導入・活用する予定はない	無回答
2021年	全体 (n= 258)	50.8	45.0	4.3
設置者別	国公立 (n= 198)	50.0	47.0	3.0
	私立 (n= 58)	55.2	36.2	8.6
高校タイプ別	普通科 (n= 189)	50.3	44.4	5.3
	総合学科 (n= 16)	31.3	62.5	6.3
	専門学科 (n= 49)	57.1	42.9	—
大短進学率別	70%以上・計 (n= 86)	47.7	47.7	4.7
	95%以上 (n= 36)	47.2	47.2	5.6
	70~95%未満 (n= 50)	48.0	48.0	4.0
	70%未満・計 (n= 170)	52.9	42.9	4.1
	40~70%未満 (n= 54)	46.3	44.4	9.3
	40%未満・計 (n= 116)	56.0	42.2	1.7
高校所在地別	北海道 (n= 16)	62.5	37.5	—
	東北 (n= 40)	55.0	45.0	—
	北関東・甲信越 (n= 27)	51.9	44.4	3.7
	南関東 (n= 42)	50.0	45.2	4.8
	東海 (n= 32)	50.0	43.8	6.3
	北陸 (n= 6)	66.7	16.7	16.7
	関西 (n= 46)	41.3	54.3	4.3
	中国・四国 (n= 26)	50.0	38.5	11.5
	九州・沖縄 (n= 21)	57.1	42.9	—

Q10SQ2_2

<フリーアンサー>「ポートフォリオ」の活用による生徒の変化・疑問・不安

ポートフォリオの活用による生徒の変化

■意欲・自己肯定感の向上

●大短進学率70%以上

- いつでも振り返ることが出来るので、意欲の向上につながっている。[大阪府/府立/普通科]
- 言語化することで自分の強みや課題に気づける生徒が増えた。[東京都/私立/普通科]
- 振り返りをすることによって、生徒の自己肯定感を高めることができるメリットはあった。しかしながら、振り返りをする時間的なゆとりがなく、Japan e ポートフォリオが頓挫したことで、先生方の疲労感も増した。[新潟県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 記録を重ねることで、よりよく振り返りが出来、生徒の成長に繋がっている[埼玉県/市立/普通科]
- 現2年次生は月曜日の朝のSHRを前の週の振り返りの時間として、活動させている。成果は進路活動が本格的になった頃に現れるであろうことを期待したい。[北海道/道立/総合学科]
- 記録として履歴を残すことは大切であるが、ただ進路選択時に自己を振り返り進路選択に生かすだけでなく、長い人生を見据えて自分を見つめなおし、成長した点などを交流するなど、LHRの題材として生かしていくことも大切である。[岐阜県/県立/専門学科]

■進路選択や目標設定への好影響

●大短進学率70%以上

- 学校行事、定期考査や模試などについて、振り返りをさせ、次の活動にどのように活かしていくかを考えさせているので、ポートフォリオにしっかり取り組んでいる生徒は、自分の進路について深く考えるようになっていく。[奈良県/私立/普通科]
- 自己PRの材料を整理できた。学びの目標を設定できた。[東京都/都立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 課題観の確認や次の目標設定を生徒自身に促すため、次の活動の際にも意識して取り組ませる材料となる。[栃木県/私立/普通科]
- ポートフォリオを活用することにより、落ち着いて活動の振り返りができるようになってきている。生徒の中に振り返りが定着してきたと感じる。次の活動に有効なものとなるように活用する方法を模索中である。[徳島県/県立/普通科]

ポートフォリオ活用についての疑問・不安

■指導の難しさ

●大短進学率70%以上

- 「ポートフォリオ」の目的や意義を考へることなく、記録として残すだけの作業をすることに、指導の難しさと無力感を感じます。[岡山県/県立/普通科]
- 活用できた生徒は成長を実感できるが、活用するには生徒に記録を残すことを習慣づけることが大切で、その指導がうまくできるかどうか課題。[大阪府/国立/普通科]
- 教員のポートフォリオを活用するスキルが低い。カウンセリングスキルが欠かせないがそのようなことにそもそも価値を見出せる人が少ない。カタチだけ導入することが目的化しているのが現状ではないか。[神奈川県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 学力やキャリアの低い生徒にとっては、生徒の成長を促すどころか、自尊心を傷つけたり劣等感の増大にもなりかねないため、活用するためには慎重にならなければならない。[大阪府/府立/総合学科]

■様式の変更や不統一による業務負担感

●大短進学率70%以上

- eポートフォリオの断念に見られる如く、また、年度途中に調査書様式が変更になるなどの、十全な準備で始まったとは言えないことが露呈した文科行政・政策の不安定さに振り回されないように注意していきたい。[東京都/私立/普通科]
- ポートフォリオを活用することが、全ての大学入試で大きく利用されていくと生徒や教員の入試資料作成の負担が大きくなる。フォーマットを統一してほしい。[奈良県/県立/普通科]

■長期的な視野の必要性

●大短進学率70%以上

- 学びの履歴を残し、振り返ることで、各人が教育活動の意義を実感できていると感じる。・膨大な量の記録が残ることになるが、生徒教員ともに徒労感なく活用していくために有効な方策はないか。[宮城県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 現在までには、特に変化は感じられない。長い期間が経ってから読み直すことで自己の成長を確認し自己肯定感の向上等に繋がることを期待している。[新潟県/県立/普通科]

■大学側の活用状況の不透明さ

●大短進学率70%以上

- 大学側の活用、対応の度合いがバラバラである。入試改革との一体化が課題。今年度からはじまった「キャリア・パスポート」との関連の不明確さ。入試と直結しているのかが見えてこないのが不安。[岐阜県/県立/普通科]
- 評価されることを前提にした記述では、見栄えを気にして本当の意味での振り返りにならない。ポートフォリオ自体にはとても意義を感じるが、入学者選抜に利用することについては不安を感じる。[千葉県/私立/普通科]

第III部 変化する入学者選抜への対応

1. 「大学入学共通テスト」について

1) 初年度の実施に向けて取り組んだことと、次年度以降取り組みたいこと

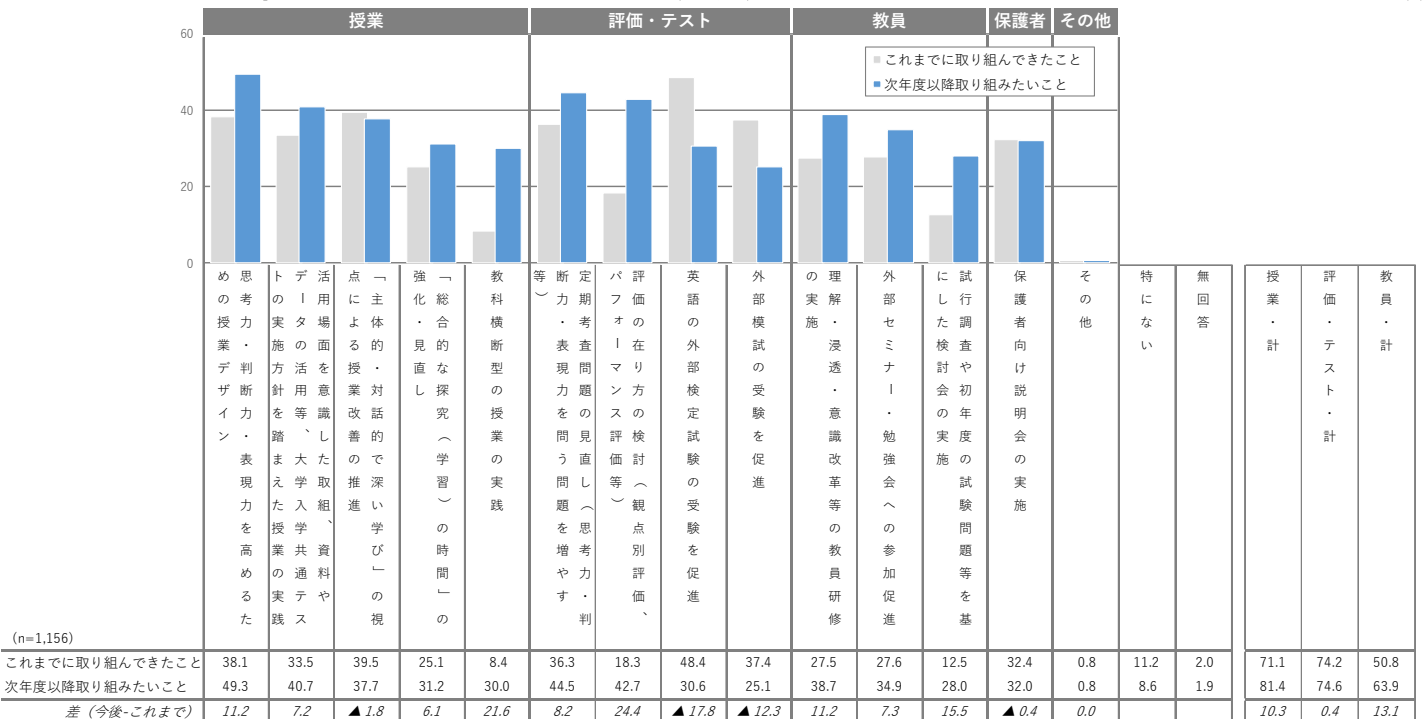
- 「大学入学共通テスト」対応として、7割以上が『授業』『評価・テスト』の見直しに取り組んでいる。具体的な取組内容としては、「英語の外部検定試験の受験を促進」(48%)を筆頭に、授業改善や授業デザインの見直し、外部模試の受験促進などが並ぶ。
- 次年度以降取り組みたいこととしては『授業』の「思考力・判断力・表現力を高めるための授業デザイン」(49%)がトップ。ついで『評価・テスト』の「定期考査問題の見直し」「評価の在り方の検討」などが40%以上。

■初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応としてこれまでに取り組んできたことと、次年度以降取り組みたいこと (全体/複数回答)

初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応として、これまでに取り組んできたことは何ですか。(複数回答可)

次年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応として、来年度以降、取り組みたいことは何ですか。(複数回答可)

(%)



※カテゴリーごとに「次年度以降取り組みたいこと」の降順ソート

Q12Q13

2) 初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応としてこれまでに取り組んできたこと

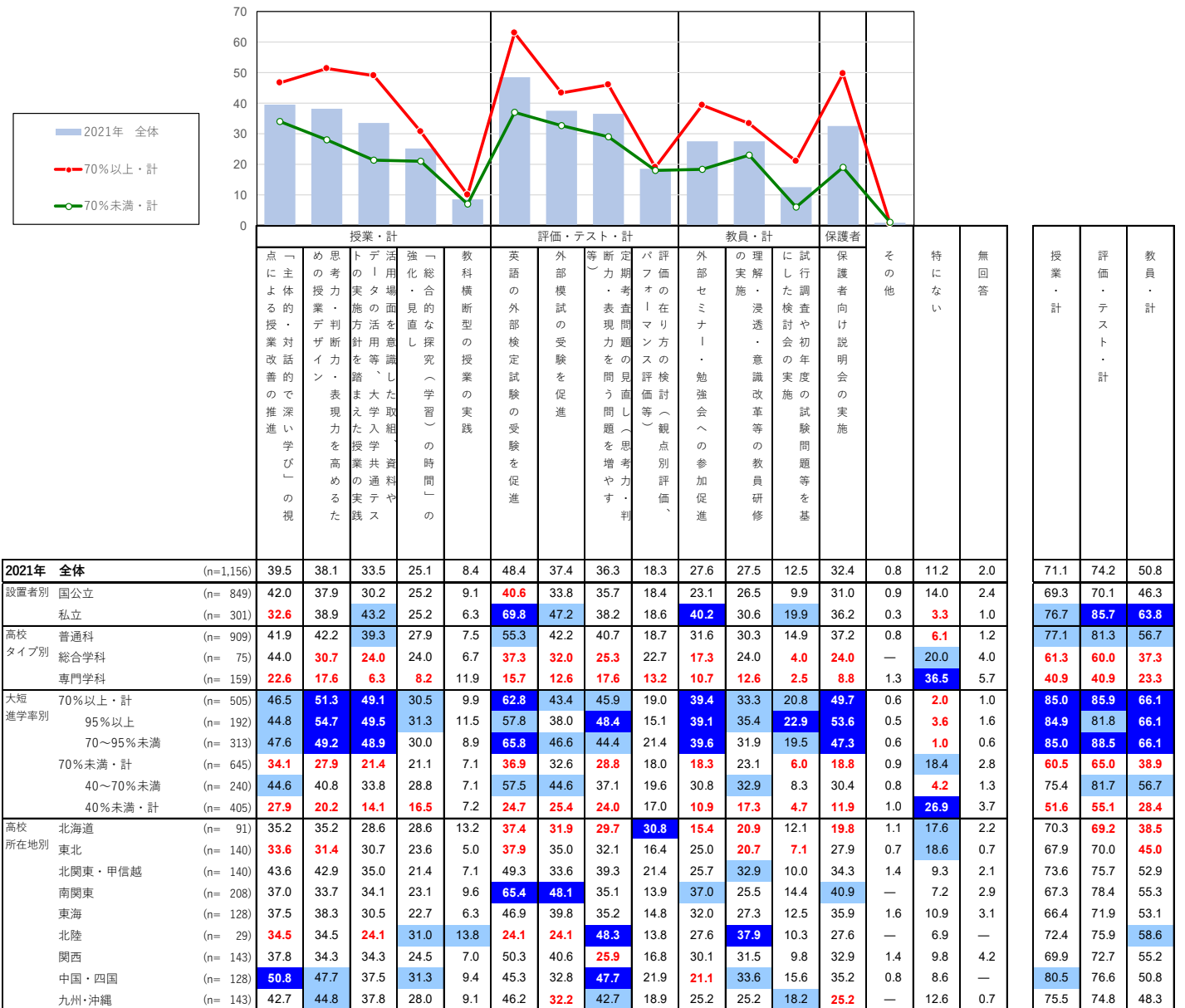
■ 「大学入学共通テスト」対応として、『授業』『評価・テスト』の見直しに取り組む学校が7割以上。具体的な取組内容としては、『評価・テスト』に関して「英語の外部検定試験の受験を促進」(48%)が半数近くに上る。

- ついで『授業』において「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善の推進」「思考力・判断力・表現力を高めるための授業デザイン」、『評価・テスト』において「外部模試の受験を促進」「定期考査問題の見直し(思考力・判断力・表現力を問う問題を増やす等)」などが高い。
- 設置者別にみると、国公立より私立でスコアが高い項目が多く、特に私立では『評価・テスト』の「英語の外部検定試験の受験を促進」が70%と高い。この他、『教員』の「外部セミナー・勉強会への参加促進」(40%)が顕著に高く、外部リソースが活用されている。
- 大短進学率別にみると、全体的に進学率の高い学校でスコアが高い。ただし、『授業』の「教科横断型の授業の実践」、『評価・テスト』の「評価の在り方の検討」については進学率によらず共通して実施率が低い。

■初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応としてこれまでに取り組んできたこと (全体/複数回答)

(%)

初年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応として、これまでに取り組んできたことは何ですか。(複数回答可)



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0-5pt以上低い

Q12

3) 「大学入学共通テスト」に向けた対応として次年度以降取り組みたいこと

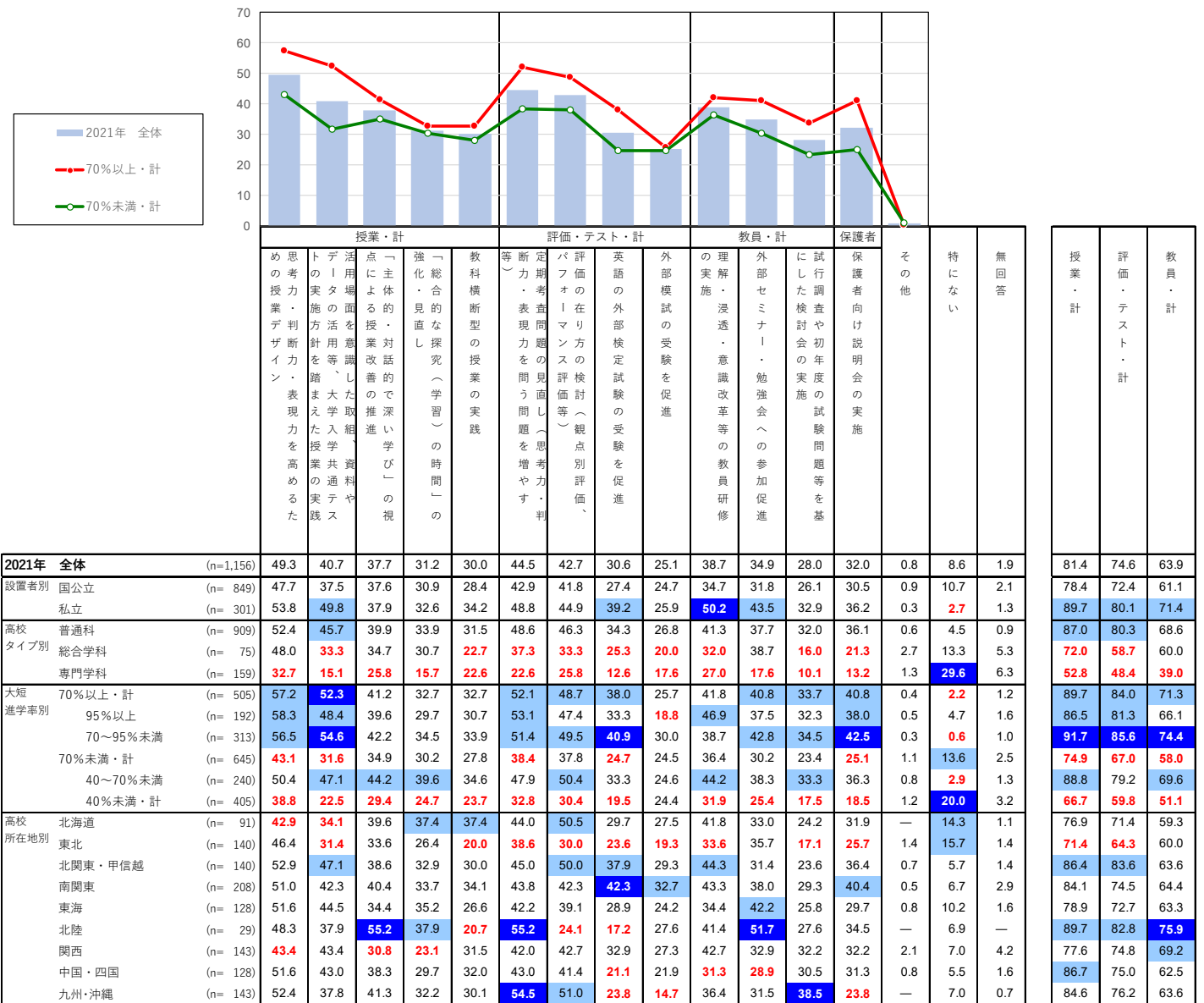
■ 次年度以降取り組みたいこととしては『授業』の「思考力・判断力・表現力を高めるための授業デザイン」(49%)がトップ。ついで『評価・テスト』の「定期考査問題の見直し」「評価の在り方の検討」などが40%以上。

- 設置者別にみると、これまでの取組状況と同様、総じて私立の方がスコアが高い傾向がみられる。
- 高校タイプ別にみると、ほとんどの項目で普通科のスコアが高い。
 - ・特に、普通科では『授業』についての対応のうち「活用場面を意識した取組、資料やデータの活用など、大学入学共通テストの実施方針を踏まえた授業の実践」を行う意向が顕著に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率70~95%未満の層でスコアの高い項目が多い。
 - ・特に「活用場面を意識した取組、資料やデータの活用等、大学入学共通テストの実施方針を踏まえた授業の実践」「英語の外部検定試験の受験を促進」「保護者向け説明会の実施」などが全体値と比較して10ポイント以上高く、取り組みたい内容が多岐にわたっている。

■ 「大学入学共通テスト」に向けた対応として次年度以降取り組みたいこと (全体/複数回答)

(%)

次年度の「大学入学共通テスト」に向けた対応として、来年度以降、取り組みたいことは何ですか。(複数回答可)



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0-5pt以上低い

Q13

<フリーアンサー>大学入学共通テストについての課題・次年度に向けて注力したいこと

■「読解力」を中心とする総合的な対策が必要

●大短進学率70%以上

- ・総合的な理解力、課題解決への対応力が生徒には必要になっていることを、教員に徹底する必要がある。[埼玉県/私立/普通科]
- ・複数の資料の読み取りなど、思考力を問う問題に対応するためのスキル養成を育てることに課題を感じている。問題を分析して授業改善を図りたい。[新潟県/私立/普通科]
- ・我が校の生徒は数字で見ると少し苦戦したところが否めません。入試問題対策や生徒の主体的な学ぶ力を養う時間をもっと作らなければならないと感じました。[千葉県/私立/普通科]
- ・英語の長文問題の問いが複雑。いかに理解しながら長文を速読できるかが課題。[徳島県/県立/普通科]
- ・(課題)読解力重視の方向は理解したが、英語(リーディング)のように高校での学習成果を無視したような出題はやめてほしい[岡山県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・教科書や資料集などを深く読み込むことが大切である。問題暗記ではなく要点や公式・定理などを用いて問題を読み解く力が求められている。[兵庫県/県立/普通科]
- ・論理的な思考、複雑な思考に耐えうる生徒の学力の醸成が必要と強く感じた。[京都府/府立/普通科]
- ・高校3年間で知識・技能の定着期(インプット)、思考・判断・表現の出力期(アウトプット)を明確にさせる[大阪府/府立/普通科]

■内容的に大きく変化した印象はなく、これまで通りの対策で十分

●大短進学率70%以上

- ・総じて、センター試験と比べて、もちろん新たな傾向はあるが、大きな違いはなく、名称を変更して何がしたかったのかという印象。無駄な不安を煽った罪は深いといいたい。・平均点50点というはなしはどこへ行ったのか。・ペーパーテストで、それも短期間に50万人の採点をするという制約では、センター試験から改善する余地はほとんどないのではないか。・大学入試は選抜が目的であるのに、この選抜を学びを改善する手段と考えて改革することが、そもそも目的のはき違えではないか。・大学と高校の学びを連携させたいのであれば、暗記に偏る学習の温床となる紙での試験を撤廃するか、せめて選抜要素の主役から降ろすべきである。[神奈川県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・受験生数と時間的限界から考えて思考力等の測定は無理。現実的に、共通テストは知識に徹し、足切り用のみ使い、各大学が受験者数を減らした上で、それぞれに思考力等を測定し選抜するなどの工夫をすべき[東京都/都立/普通科]
- ・表向き、資料の読み取り等が入っているが、平均点が昨年度と変わらないことから、思考力を本格的に問う問題になっていないことがわかる。今まで通り基礎の徹底をしたい。[福島県/県立/総合学科]

■大学入学共通テストの受験者数を増やすのは難しいのでは

●大短進学率70%未満

- ・高校で取り組んできた勉強の「理解度」を図るためにも、今後も積極的に受験を促していきたい。しかし、コロナ禍において、安全志向がますます進みそうな社会情勢を鑑みると、本校でも「学校推薦型選抜」や「総合型選抜」の受験者数がますます増加しそうな傾向にある。受験者数を増やしていくのは容易いことではないのが現状である。[埼玉県/県立/普通科]

■運用に対する意見

●大短進学率70%未満

- ・初年度だから仕方ないのかもしれないが、それにしてもひどい!!記述式がなくなって外部検定もやめてコロナでふり回されて、あげくの果てに得点調整。グダグダでしたね。高3生が本当に本当にかわいそうでした。[香川県/県立/普通科]

2. 「調査書」の様式変更について進路先に期待すること

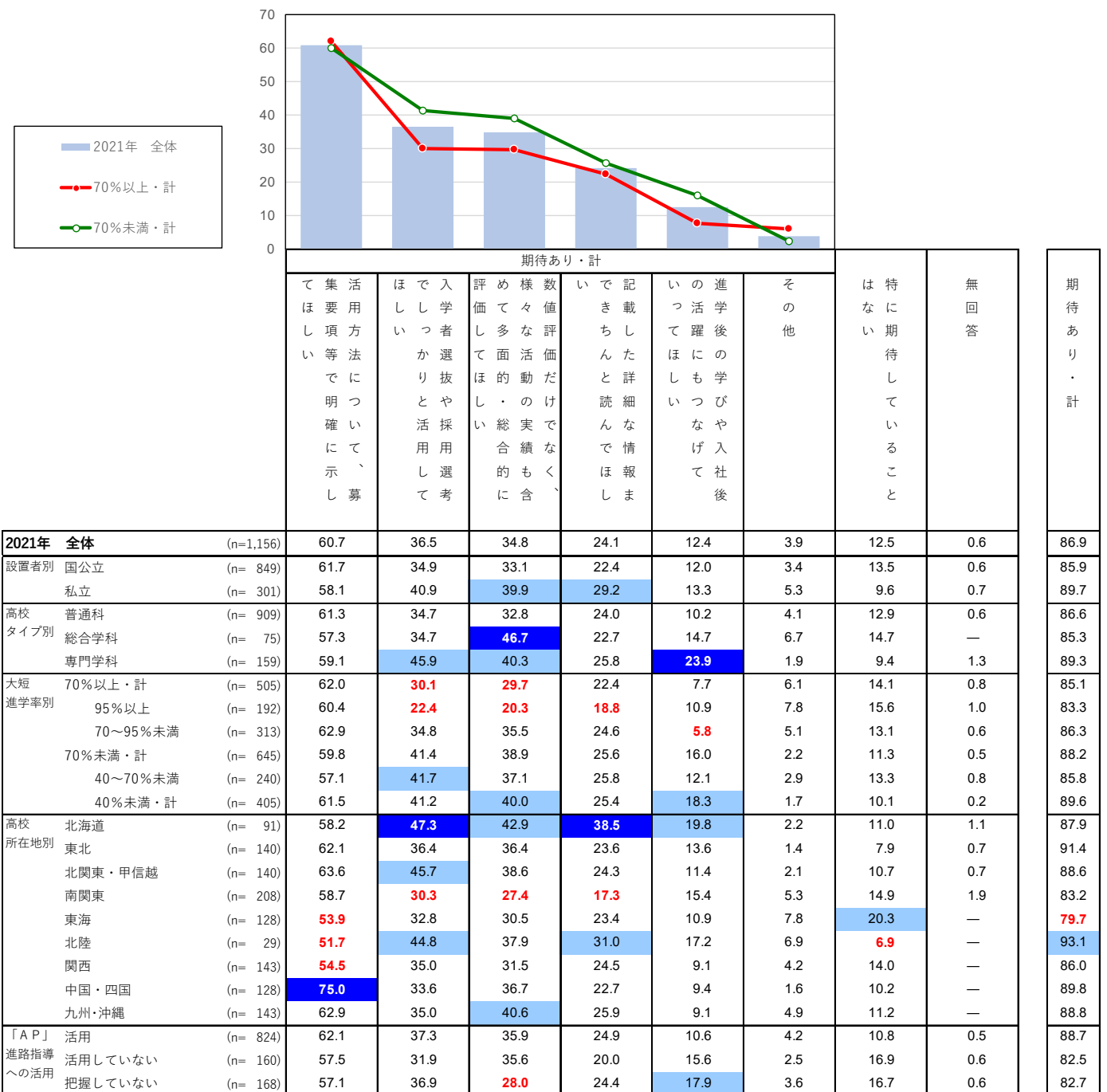
■新しい「調査書」の活用について進路先に期待することは、「活用方法について、募集要項などで明確に示してほしい」（61%）が突出して高い。

- 設置者別にみると、私立では「数値評価だけでなく、様々な活動の実績も含めて多面的・総合的に評価してほしい」「記載した詳細な情報まできちんと読んでほしい」など、より詳細な内容についての評価や活用を期待する割合が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科でスコアの高い項目が多い。

■新しい「調査書」の活用について進路先に期待すること（全体／複数回答）

(%)

生徒の学びをより詳細に綴る新しい「調査書」の活用について、進路先にどのような期待をしますか。（複数回答可）



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q15

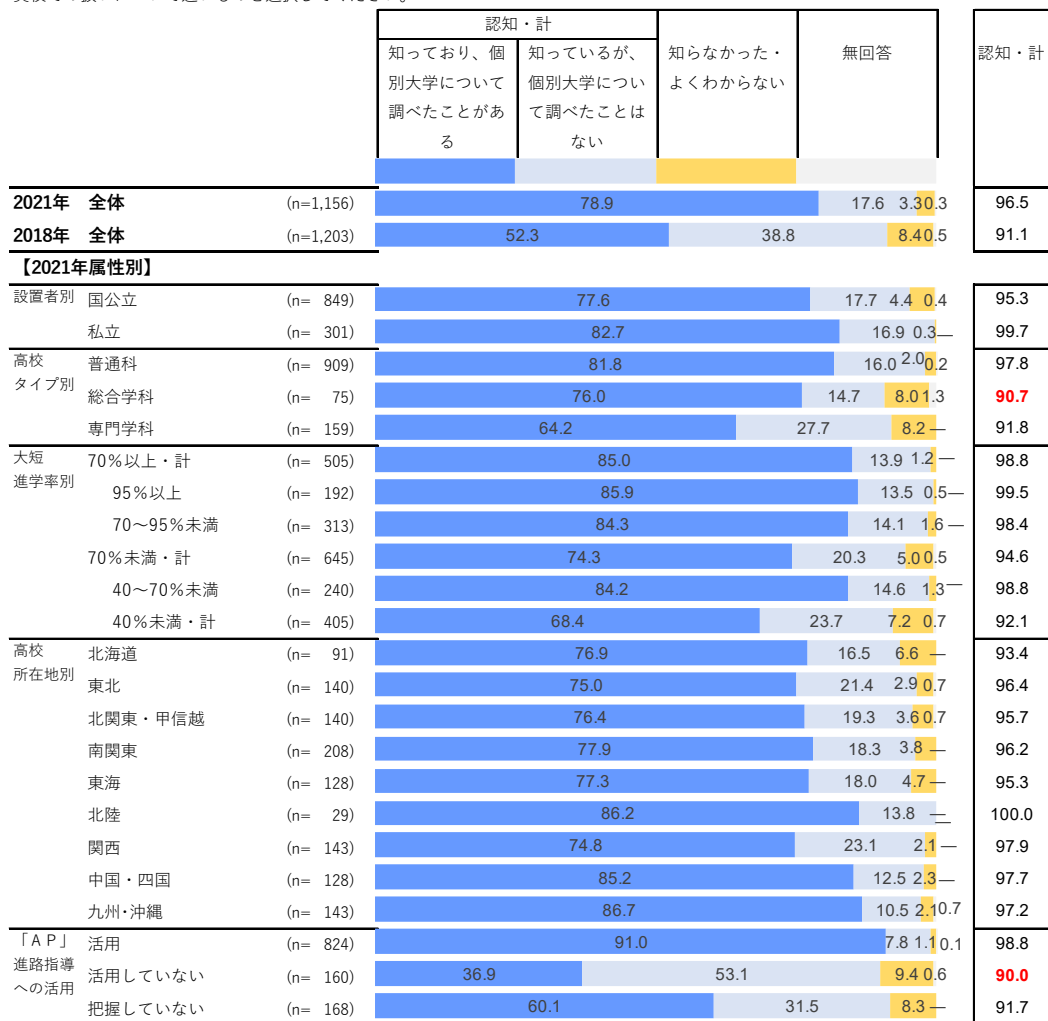
3. 各大学の「個別選抜」について

1) 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」公表・策定義務化の認知状況

- 「アドミッション・ポリシー」については、「知っており、個別大学について調べたことがある」が79%を占める。認知率は97%とほぼ全員が認知。
- 「知っており、個別大学について調べたことがある」は2018年より27ポイント増加。
- 設置者別にみると、いずれでも「知っており、個別大学について調べたことがある」が80%前後を占め、特に私立では83%と高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科では「知っており、個別大学について調べたことがある」が82%を占めるが、総合学科（76%）、専門学科（64%）では相対的に低い。
- 大短進学率別にみると、進学率40%以上の学校では共通して「知っており、個別大学について調べたことがある」が85%を占め、認知率は100%に近い。

■ 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」公表・策定義務化の認知（全体／単一回答） (%)

2017年4月から、「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の策定と公表が義務化されました。貴校での扱いについて近いものを選択してください。



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

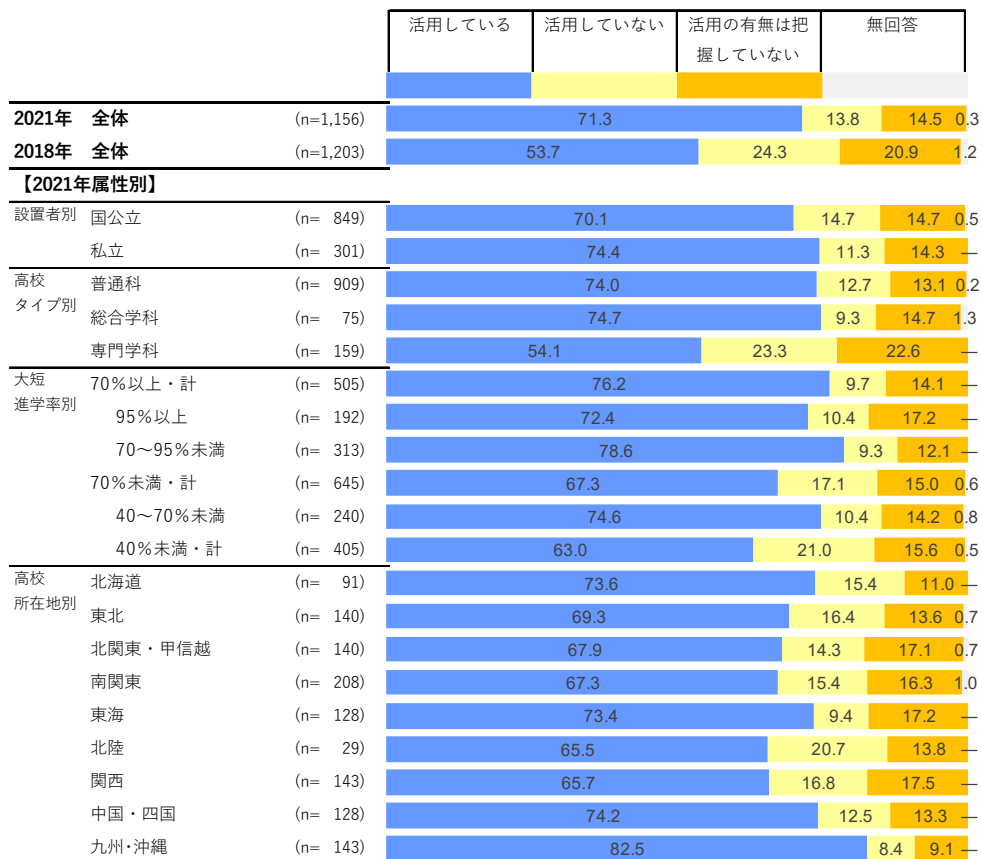
Q16

2) 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の進路指導への活用

■ 大学の「アドミッション・ポリシー」認知校のうち、71%が進路指導に「活用」。

- 2018年では「活用している」割合が54%となっていたが、今回は71%と、「活用している」学校が増加した。一方で、「活用の有無は把握していない」（15%）は2018年より減少したものの、依然として活用状況が不明な層が一定数いることがわかる。
- 設置者別にみると、国公立より私立で「活用している」割合がやや高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科では「活用している」が54%と低いが、それ以外では共通して75%程度が活用している。
- 大短進学率別にみると、進学率70～95%未満の層で最も「活用している」が高く、79%を占める。

■ 「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」の進路指導への活用（全体／単一回答）（%）
 貴校では各大学の「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」を進路指導に活用していますか。



Q17_2018全ベース

<フリーアンサー>大学の「個別選抜」について要望したいこと

■「アドミッション・ポリシー」による選抜基準の明確化

●大短進学率70%以上

- ・アドミッションポリシーでは、具体的な基準を示されることが少ないので、志望する生徒が自分はそのポリシーと合致するかわかりにくい場合が多い。高校生が読んでわかる文面を目指してほしい。[大阪府/府立/総合学科]
- ・どのような生徒を受け入れたいと考えて出題しているのか、きちんと整合性を示して説明してほしい。[岩手県/県立/普通科]
- ・安易に高校からの推薦を求めるのではなく、自身が策定したA.P.に基づいて、責任を持って入学者の選抜を行ってほしい。[群馬県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・各大学のアドミッション・ポリシーについて、より具体的な記述を期待したい。[兵庫県/県立/専門学科]

■適切なタイミングでの情報開示

●大短進学率70%以上

- ・2年前には具体的内容まで発表してほしい。[奈良県/県立/専門学科]

●大短進学率70%未満

- ・コロナを理由に直前で、変更、変更の可能性を告知するのはやめてほしい“2年程度前予告”を守ってほしい[兵庫県/私立/普通科]

■わかりやすい情報提供・手続きの簡素化

●大短進学率70%以上

- ・各大学が次々と制度改革に着手しており、受験生はやや翻弄されている感がある。入試制度の変更に係る情報は、より早く、より詳細な情報提供をお願いしたい。[福井県/県立/普通科]
- ・入試方法の多様化に伴い、制度が余りに複雑になっているので分かりやすく整理してほしい。同じ大学でも学部や学科で制度が異なっているケースも多く、とてもではないが理解し切れない[東京都/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・コロナ禍において、選抜方法（変更を含む）をHPで知らせるところも多いが、HPの情報が読みにくい、分かりにくい大学がある。多様な生徒がいるので、学力のみで勝負できる個別選抜も残しておいてほしい。面接等を必須にすると不利になる生徒もいる。[山口県/県立/普通科]

■ポートフォリオやエントリーシートなどのフォーマットの統一化、負担の軽減

●大短進学率70%以上

- ・ポートフォリオをもとめる形にするのならば、そのフォーマットを統一してほしい。[岐阜県/私立/普通科]
- ・エントリーシートなど大学別に作成せず統一したものにできないか。[岐阜県/県立/普通科]
- ・活動報告書などの評価は制度改革上、当然だが、出願前の提出は教員にとって大きな負担になっている。せめて記入量をもっと簡素化してほしい。[大分県/県立/普通科]
- ・学力選抜での調査書活用はやめにしてもらいたい。あまりにも教員の負担が大きい。[東京都/都立/普通科]

■独自性のある個別選抜試験

●大短進学率70%以上

- ・「共通テスト」に頼ることなく、各大学ごとの選抜を充実させて欲しい。[大阪府/私立/普通科]
- ・・昨今、日常生活における活用場面が強調されているが、純粋な学問への興味関心に端を発する作問もお願いしたい。・指定校推薦でも、及第点に到達しない生徒へは厳しい対応を示してほしい。[栃木県/県立/普通科]
- ・アドミッションポリシーなどの飾った言葉よりも、出題問題から表現される大学の考えの方がよっぽど理解される。今後も、個別選抜の内容や問題を重視していただきたい。[新潟県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・何でも満載、共通化しているその大学オリジナルな特化したポイントをはっきりしてほしい[岡山県/県立/専門学科]
- ・センター試験を旧来に近いものに近づけ、その分、個別試験で思考力・判断力・表現力が十分に測れるものにしてほしいと思います。（センター試験で基礎的な学力をはかる形式でよい）[静岡県/県立/総合学科]
- ・共通テストとの差別化をしてほしい[北海道/私立/普通科]

■選抜基準の明確化

●大短進学率70%以上

- ・科目試験は仕方ないと思うが、個別指導にあたる教員によって差が出てしまうような試験は無くしてもらいたい。[静岡県/市立/普通科]
- ・失礼な言い方になるが、未だ経営・商業主義に軸足を置いた広報が目立つ気がする。「流行り言葉」や就職率などで学生を集めるのではなく、こういう研究者を育てたいというメッセージを前面に出し、選抜方式もそれに基づいたもっともっと独自のものであっていいと思う。[東京都/私立/普通科]
- ・一般入試において、出願時に主体的活動を記入させるもの（合否には関係ない）や面接・小論文を重視する入試はやめてほしい。教員の負担は今までよりも大きすぎる。[静岡県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・しっかりと学力で選抜して欲しい（特に難度の低い大学ほど）[静岡県/県立/普通科]
- ・共通テストでの「記述式導入」を拒否した以上、すべての大学で、受験生の「思考力・判断力・表現力」に対する、妥当性を持った評価をすべきではないか。都合のいいときにだけ「大学は研究機関だ」という逃げを打たないで欲しい。[岡山県/県立/普通科]

第IV部 ICT活用

1. ICT活用状況

■ 97%が授業・ホームルーム・探究などの教育活動にICTを活用。「学校全体で」「学年や課程・学科・コース・教科単位で」など組織的対応は66%

- 設置者別にみると、私立では「学校全体で組織的に活用を推進している」が61%を占めており、組織的対応が合計78%と、国公立（62%）と比較して組織的な対応が進んでいる。
- 高校タイプ別にみると、専門学科でやや「学校全体で組織的に活用を推進している」が低いが、「組織的対応・計」はどのタイプの学校でもおおむね60~70%程度となっている。
- 大短進学率別にみると、進学率の高い学校ほど「学校全体で組織的に対応している」割合が高い。

■教育活動へのICT活用状況（全体／単一回答）

（%）

授業、ホームルーム、探究等の教育活動にICTを活用していますか。

	活用・計	組織的対応・計				活用・計	組織的対応・計
		学校全体で組織的に活用を推進している	学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している	教員個人で活用している	使い始めている（活用はまだこれから）		
2021年 全体 (n=1,156)	51.2	14.5	31.0	3.0	0.3	96.7	65.7
設置者別							
国公立 (n= 849)	47.8	13.8	35.2	2.9	0.2	96.8	61.6
私立 (n= 301)	61.1	16.6	18.6	3.3	0.3	96.3	77.7
高校タイプ別							
普通科 (n= 909)	52.3	14.4	30.0	3.1	0.2	96.7	66.7
総合学科 (n= 75)	52.0	9.3	34.7	2.7	1.3	96.0	61.3
専門学科 (n= 159)	43.4	18.9	34.6	3.1	—	96.9	62.3
大短進学率別							
70%以上・計 (n= 505)	60.8	13.5	23.2	2.2	0.4	97.4	74.3
95%以上 (n= 192)	63.5	8.9	25.5	1.6	0.5	97.9	72.4
70~95%未満 (n= 313)	59.1	16.3	21.7	2.6	0.3	97.1	75.4
70%未満・計 (n= 645)	43.9	15.3	36.9	3.7	0.2	96.1	59.2
40~70%未満 (n= 240)	51.7	14.2	31.3	2.9	—	97.1	65.8
40%未満・計 (n= 405)	39.3	16.0	40.2	4.2	0.2	95.6	55.3
高校所在地別							
北海道 (n= 91)	33.0	13.2	47.3	6.6	—	93.4	46.2
東北 (n= 140)	30.7	22.9	40.7	5.0	0.7	94.3	53.6
北関東・甲信越 (n= 140)	38.6	17.9	42.9	0.7	—	99.3	56.4
南関東 (n= 208)	61.5	11.1	25.0	1.9	0.5	97.6	72.6
東海 (n= 128)	51.6	12.5	33.6	2.3	—	97.7	64.1
北陸 (n= 29)	79.3	6.9	13.8	—	—	100.0	86.2
関西 (n= 143)	56.6	13.3	26.6	3.5	—	96.5	69.9
中国・四国 (n= 128)	64.1	14.8	15.6	5.5	—	94.5	78.9
九州・沖縄 (n= 143)	58.0	13.3	26.6	1.4	0.7	97.9	71.3

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q19

2. 今後の教育活動におけるICT活用方法

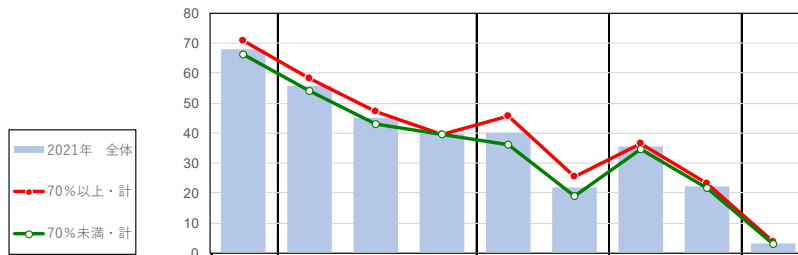
■ 今後は、日々の授業や宿題における活用を予定する学校が多い。

- 今後の活用方法の上位は、「宿題、課題等をオンラインで配布」(68%)、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」(56%)など。『授業での活用』については合計で78%が挙げており、日々の授業や宿題での活用を予定する学校が多い。
- また、『コミュニケーション』への活用も合計で50%、『外部との連携力強化』も合計で42%があげており、様々な形で活用が想定されている。
- 設置者別にみると、私立で全体的にスコアが高く、「学校と家庭とのコミュニケーション」については全体を10ポイント以上上回る。
- 「ICT」活用状況別にみると、学校全体で組織的に対応している学校では全体的にスコアが高く、上位2項目の他、「対面とオンラインのハイブリッド型授業」を半数以上が活用したいと回答している。一方、教員個人での活用や、未活用の学校では「まだ活用のイメージがついていない」割合が全体と比較して高く、特に未活用校では20%が該当する。

■今後の教育活動におけるICT活用方法（全体／複数回答）

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。（複数回答可）

(%)



	2021年 全体	活用方法								その他	まだ活用していない	無回答	計	外部との連携力強化	
		宿題・課題の配信	授業での活用	コミュニケーション活用	外部との連携力強化	その他	まだ活用していない	無回答							
2021年 全体 (n=1,156)	68.0	55.9	44.9	39.6	40.2	21.7	35.5	22.2	3.3	4.8	0.1	68.0	77.8	50.1	41.5
設置者別															
国立 (n= 849)	65.8	53.2	41.5	37.8	36.4	18.8	35.6	23.6	3.7	5.7	—	65.8	75.5	45.7	41.8
私立 (n= 301)	74.8	63.5	54.5	44.5	51.5	29.9	35.5	18.6	2.3	2.3	0.3	74.8	84.1	62.8	40.9
高校タイプ別															
普通科 (n= 909)	70.2	56.3	45.7	39.8	41.7	22.9	37.1	22.7	2.8	4.0	0.1	70.2	78.2	52.1	42.7
総合学科 (n= 75)	69.3	42.7	40.0	36.0	28.0	16.0	30.7	20.0	5.3	8.0	—	69.3	73.3	34.7	36.0
専門学科 (n= 159)	57.2	59.1	41.5	39.0	37.1	18.9	30.2	21.4	5.7	8.2	—	57.2	76.7	45.9	39.0
大短進学率別															
70%以上・計 (n= 505)	70.7	58.2	47.3	39.6	45.5	25.3	36.6	23.2	3.6	1.8	—	70.7	80.4	55.8	43.2
95%以上 (n= 192)	64.6	59.4	49.0	42.2	42.2	25.5	37.5	24.0	4.7	2.1	—	64.6	82.8	53.1	42.7
70~95%未満 (n= 313)	74.4	57.5	46.3	38.0	47.6	25.2	36.1	22.7	2.9	1.6	—	74.4	78.9	57.5	43.5
70%未満・計 (n= 645)	66.2	54.1	42.9	39.5	36.3	18.9	34.7	21.6	3.1	7.1	0.2	66.2	75.7	45.7	40.3
40~70%未満 (n= 240)	67.5	55.8	44.2	42.9	39.6	20.0	40.0	22.1	1.7	6.7	0.4	67.5	76.3	47.5	43.8
40%未満・計 (n= 405)	65.4	53.1	42.2	37.5	34.3	18.3	31.6	21.2	4.0	7.4	—	65.4	75.3	44.7	38.3
高校所在地別															
北海道 (n= 91)	78.0	69.2	54.9	50.5	35.2	29.7	44.0	30.8	1.1	5.5	—	78.0	83.5	49.5	51.6
東北 (n= 140)	66.4	47.1	33.6	32.9	32.1	10.7	27.9	23.6	5.7	9.3	0.7	66.4	67.1	37.9	36.4
北関東・甲信越 (n= 140)	62.9	49.3	45.0	35.7	34.3	21.4	36.4	18.6	0.7	8.6	—	62.9	70.7	46.4	38.6
南関東 (n= 208)	74.5	58.2	49.0	47.1	50.5	30.8	30.8	15.9	2.9	2.9	—	74.5	82.2	62.0	35.6
東海 (n= 128)	64.8	47.7	38.3	33.6	43.0	23.4	39.1	23.4	3.9	1.6	—	64.8	74.2	54.7	47.7
北陸 (n= 29)	58.6	58.6	55.2	20.7	34.5	17.2	44.8	24.1	3.4	—	—	58.6	82.8	44.8	48.3
関西 (n= 143)	67.8	64.3	46.2	42.0	37.1	18.9	38.5	23.1	1.4	4.2	—	67.8	84.6	46.9	42.7
中国・四国 (n= 128)	71.1	57.0	50.0	43.0	43.8	20.3	38.3	24.2	5.5	5.5	—	71.1	82.0	50.8	44.5
九州・沖縄 (n= 143)	62.2	56.6	41.3	35.7	42.0	18.2	33.6	24.5	4.9	2.8	—	62.2	76.2	49.0	41.3
ICT活用状況															
活用 (n=1,118)	68.2	56.5	45.5	39.8	40.4	21.9	35.7	22.7	3.3	4.3	0.1	68.2	78.3	50.5	41.9
学校全体・学年・課程・計 (n= 760)	72.4	60.9	48.0	40.9	43.6	25.5	40.3	23.6	3.7	1.7	—	72.4	81.2	54.7	45.7
学校全体で組織的に (n= 592)	72.3	63.0	52.2	42.4	44.9	29.2	42.4	25.0	3.9	1.4	—	72.3	84.0	57.3	47.5
学年や課程・学科・コース・教科単位で (n= 168)	72.6	53.6	33.3	35.7	38.7	12.5	32.7	18.5	3.0	3.0	—	72.6	71.4	45.8	39.3
教員個人で (n= 358)	59.5	47.2	40.2	37.4	33.8	14.2	26.0	20.9	2.5	9.8	0.3	59.5	72.1	41.6	33.8
未活用 (n= 35)	57.1	34.3	28.6	34.3	34.3	17.1	28.6	8.6	2.9	20.0	—	57.1	62.9	37.1	31.4

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い ■+5pt以上高い ▽0.0-5pt以上低い

Q20

3. ICTの活用によって狙いたい効果・変化

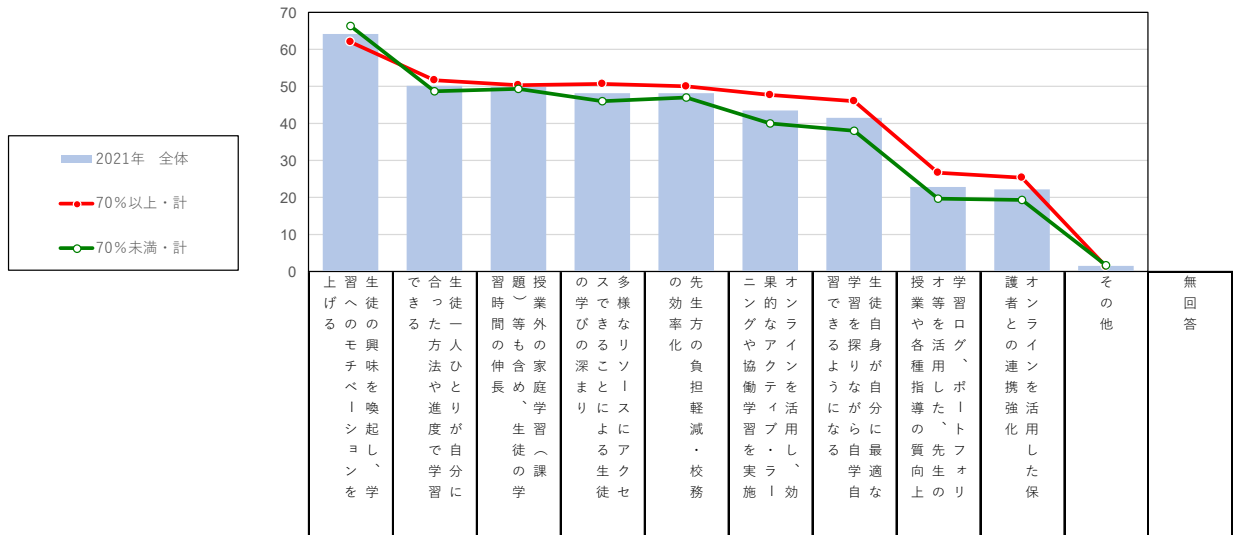
■ ICT活用で「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」を狙いたい学校が64%。提示した9項目のうち7項目が40%を超え、狙いたい効果・変化は多岐に渡る。

- 設置者別にみると、第1位の「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」は国公立・私立のいずれでも共通して65%程度があげた。以下の項目では全体的に私立のスコアが高く、特に「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長」（61%）が顕著に高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科ではスコアの低い項目が目立つ。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の層では「多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり」「オンラインを活用した保護者との連携強化」など、一通りの活用以上の効果を狙っていることがわかる。

■ ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）

(%)

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。（複数回答可）



2021年 全体	(n=1,156)	64.2	50.0	49.9	48.0	48.0	43.3	41.6	22.7	22.0	1.5	0.1
設置者別												
国公立	(n= 849)	64.1	46.9	45.7	47.8	47.1	39.7	39.1	19.2	19.2	1.5	0.1
私立	(n= 301)	65.1	58.8	61.1	48.5	51.5	53.2	48.5	32.6	29.9	1.3	—
高校タイプ別												
普通科	(n= 909)	64.1	51.7	51.9	48.8	49.1	44.3	42.7	24.1	22.7	1.3	—
総合学科	(n= 75)	54.7	49.3	45.3	44.0	49.3	38.7	45.3	14.7	16.0	4.0	—
専門学科	(n= 159)	68.6	40.9	42.1	44.7	42.8	39.0	34.0	17.6	20.8	1.3	0.6
大短進学率別												
70%以上・計	(n= 505)	62.0	51.7	50.3	50.5	50.1	47.5	45.9	26.5	25.3	1.4	—
95%以上	(n= 192)	56.8	51.6	43.2	58.9	49.0	46.9	45.3	22.4	27.1	2.1	—
70~95%未満	(n= 313)	65.2	51.8	54.6	45.4	50.8	47.9	46.3	29.1	24.3	1.0	—
70%未満・計	(n= 645)	66.2	48.7	49.3	46.0	46.8	39.8	38.1	19.7	19.4	1.6	0.2
40~70%未満	(n= 240)	66.3	49.2	50.8	47.1	45.4	44.2	41.7	24.2	22.9	1.7	—
40%未満・計	(n= 405)	66.2	48.4	48.4	45.4	47.7	37.3	36.0	17.0	17.3	1.5	0.2
高校所在地別												
北海道	(n= 91)	70.3	59.3	60.4	61.5	53.8	50.5	40.7	29.7	22.0	3.3	1.1
東北	(n= 140)	66.4	41.4	39.3	46.4	45.0	46.4	35.7	17.1	13.6	—	—
北関東・甲信越	(n= 140)	60.7	55.0	42.9	46.4	44.3	40.0	43.6	21.4	17.1	1.4	—
南関東	(n= 208)	65.4	51.4	61.5	52.9	42.3	40.4	49.5	18.8	25.5	1.9	—
東海	(n= 128)	65.6	49.2	50.8	41.4	50.8	41.4	35.2	25.8	28.1	1.6	—
北陸	(n= 29)	58.6	34.5	48.3	31.0	48.3	41.4	34.5	13.8	13.8	3.4	—
関西	(n= 143)	57.3	52.4	47.6	42.7	49.7	44.8	43.4	18.9	25.2	—	—
中国・四国	(n= 128)	64.8	55.5	53.1	50.0	57.0	46.1	46.9	28.1	20.3	1.6	—
九州・沖縄	(n= 143)	67.1	42.0	41.3	48.3	49.0	40.6	35.0	28.7	24.5	2.1	—
「ICT」活用状況												
活用	(n=1,118)	63.9	49.9	49.9	48.6	48.4	43.8	41.5	22.7	22.2	1.5	—
学校全体・学年・課程・計	(n= 760)	64.5	50.9	51.8	50.7	48.3	48.2	43.3	23.9	23.6	1.6	—
学校全体で組織的に	(n= 592)	66.4	52.0	53.2	51.7	50.2	50.7	42.9	24.5	25.2	1.5	—
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 168)	57.7	47.0	47.0	47.0	41.7	39.3	44.6	22.0	17.9	1.8	—
教員個人で	(n= 358)	62.6	47.8	45.8	44.1	48.6	34.6	37.7	20.1	19.3	1.4	—
未活用	(n= 35)	71.4	54.3	45.7	31.4	37.1	25.7	45.7	22.9	14.3	—	2.9

※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q21

4. ICT活用推進のための取組

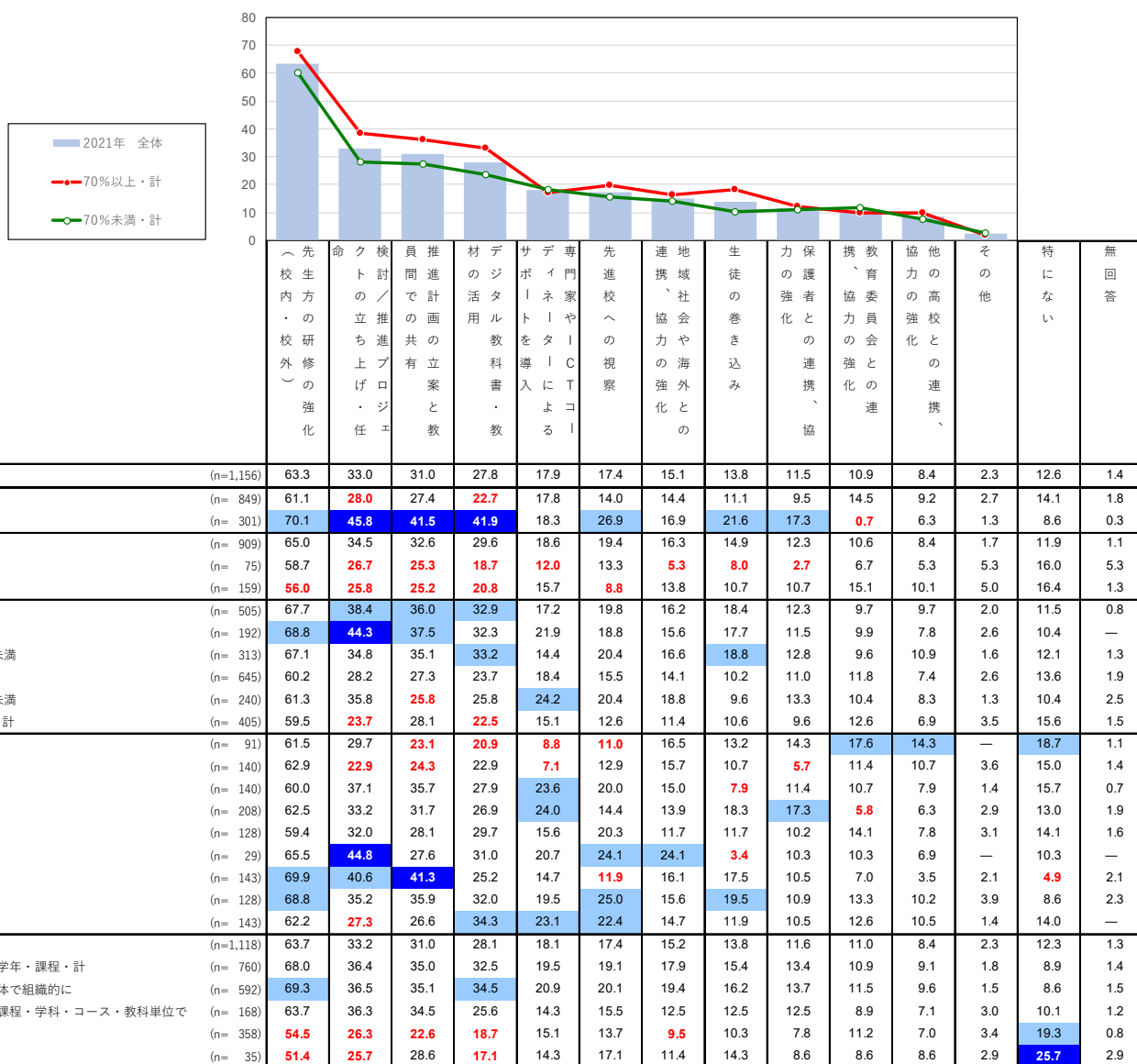
- ICT活用推進のための取組としては「先生方の研修の強化（校内・校外）」（63%）が突出して高い。
- 以下、「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」「推進計画の立案と教員間での共有」「デジタル教科書・教材の活用」などが30%前後で続く。

- 設置者別にみると、全体的に私立でスコアが高いものの、いずれでも「先生方の研修の強化」が第1位となっている。
- 高校タイプ別にみると、全体的に普通科でスコアが高い。
- 大短進学率別にみると、上位の項目はいずれも進学率の高い学校ほどスコアが高い傾向がみられる。
- 現在の「ICT」活用状況別にみると、組織的な対応ができていない学校では「先生方の研修の強化」が68%と高い他、「デジタル教科書・教材の活用」が33%と全体と比較して高め。とりわけ、学校全体で対応している学校で高くなっている。
- ただし、教員個人での取り組みや未活用の学校でも、「先生方の研修の強化」は半数以上が取組としてあげている。

■ICT活用推進のための取組（全体／複数回答）

(%)

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取組や、今後実施予定の取組がございましたら教えてください。（複数回答可）



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/■0.0-5pt以上低い

Q22

第V部 進路指導とキャリア教育

1. 進路指導上の課題

1) 「進路指導上の課題」の時系列変化

■ 進路指導上の課題のトップは、「教員が進路指導を行うための時間の不足」(57%)。ついで生徒の「進路選択・決定能力の不足」(52%)、進路環境における「入学者選抜の多様化」(49%)などが5割前後で続く。

- 2018年と比較して、上位の顔ぶれには変化がなかったが、全体的にスコアが低下した項目が多い。特に、【生徒の問題】【保護者の問題】については低下しているものが多い。
- しかし、【学校の問題】における「旧態依然とした教員の価値観」は徐々に上昇しており、今回は33%とこれまでで最も高くなっている。
- また、【進路環境の問題】では、「入学者選抜の多様化」が2016年をピークに低下している他、「入学者選抜の易化」も徐々に低下している。一方、「仕事や働くことに対する価値観の変化」は2018年と比較して5ポイント程度上昇した。

■ 進路指導上の課題 (全体/複数回答)

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。(複数回答可)

		2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)	2016年 全体 (n=1,016)	2014年 全体 (n=1,026)	2012年 全体 (n=1,075)	2010年 全体 (n=1,121)	2008年 全体 (n= 832)	2006年 全体 (n= 739)	2004年 全体 (n=1,018)
		% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
生徒の問題	進路選択・決定能力の不足	51.8 2	59.3 1	66.6 2	67.3 2	67.3 1	66.2 1	65.0 1	65.0 1	68.0 1
	学習意欲の低下	45.0 4	50.3 4	54.3 4	55.1 4	57.6 4	56.8 4	60.0 4	48.2 5	44.5 7
	職業観・勤労観の未発達	44.1 5	41.7 7	48.9 6	51.8 5	56.8 5	52.4 6	51.9 6	52.4 3	61.3 2
	学力低下	42.4 7	47.3 5	48.4 7	51.3 6	52.1 7	50.5 8	45.3 8	56.8 2	54.1 4
	規範意識・道徳意識の低下	12.3 23	12.5 23	14.2 22	16.2 21	23.7 18	24.7 16	24.4 15	* *	* *
	生徒の問題・その他	3.6 25	3.8 25	5.5 25	4.6 25	4.7 23	4.5 25	5.5 21	* *	* *
保護者の問題	進路環境変化への認識不足	43.3 6	42.6 6	46.6 8	48.9 7	52.2 6	51.7 7	52.2 5	52.2 4	60.9 3
	保護者が干渉しすぎる	35.0 9	33.8 9	35.1 9	32.2 11	* *	* *	* *	* *	* *
	家庭・家族環境の悪化：家計面について	33.4 11	40.2 8	50.5 5	48.5 8	61.0 2	62.7 2	* *	* *	* *
	子どもに対する無関心・放任	29.2 13	30.8 10	30.8 11	29.8 13	29.1 14	29.4 13	32.2 11	36.8 7	32.6 11
	子どもに対する過剰な期待	27.3 14	29.2 12	29.9 12	27.7 15	30.2 12	27.5 14	27.9 12	* *	* *
	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	14.6 20	14.4 21	15.3 21	13.9 23	14.4 21	17.5 21	* *	* *	* *
	学校や教員への非協力	11.8 24	7.9 24	7.7 24	7.2 24	7.9 22	9.3 22	10.3 20	11.2 14	10.9 15
保護者の問題・その他	2.2 27	2.3 28	2.9 27	2.2 28	4.1 25	4.8 23	5.3 23	* *	* *	
学校の問題	教員が進路指導を行うための時間の不足	57.0 1	58.0 2	67.3 1	68.3 1	58.8 3	61.0 3	62.1 2	* *	* *
	旧態依然とした教員の価値観	33.4 11	29.0 13	27.7 16	24.7 18	21.7 19	20.5 19	24.3 16	31.9 9	33.7 10
	教員の実社会に関する知識・経験不足	26.6 15	27.2 16	23.9 18	25.2 16	25.3 16	21.7 18	25.0 14	* *	* *
	校内連携の不十分	24.7 16	27.9 15	34.8 10	32.7 10	31.2 11	32.5 11	34.0 10	40.5 6	40.5 8
	教員の意欲・能力不足	22.8 17	22.0 18	28.2 15	24.9 17	23.9 17	24.8 15	25.8 13	28.6 10	24.8 14
	生徒とのコミュニケーション不足	14.9 19	14.6 20	17.7 20	16.8 20	18.9 20	18.6 20	22.4 18	28.1 11	27.3 12
	学校の問題・その他	2.8 26	3.0 26	3.5 26	3.3 26	4.4 24	4.7 24	5.5 21	* *	* *
進路環境の問題	入学者選抜の多様化	48.6 3	50.6 3	62.6 3	59.6 3	48.6 9	48.7 9	60.8 3	* *	* *
	産業・労働・雇用環境の変化	39.1 8	28.2 14	29.9 12	35.0 9	48.7 8	53.7 5	45.6 7	33.3 8	48.0 5
	仕事や働くことに対する価値観の変化	34.3 10	30.0 11	28.3 14	31.2 12	30.1 13	24.7 16	18.5 19	26.5 12	34.4 9
	上級学校の学費高騰	22.7 18	25.5 17	24.9 17	17.2 19	* *	* *	* *	* *	* *
	高卒就職市場の変化	14.1 21	14.2 22	10.9 23	15.8 22	34.2 10	45.9 10	24.0 17	25.2 13	47.6 6
	入学者選抜の易化	13.5 22	20.4 19	22.5 19	29.8 13	27.3 15	29.9 12	39.5 9	* *	26.9 13
	進路環境の問題・その他	1.3 28	2.6 27	2.9 27	2.7 27	1.6 26	2.2 26	4.1 24	* *	* *
無回答	0.3	0.7	0.1	—	0.1	—	—	* *	* *	

※カテゴリーごとに2021年全体の降順ソート

※2004～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

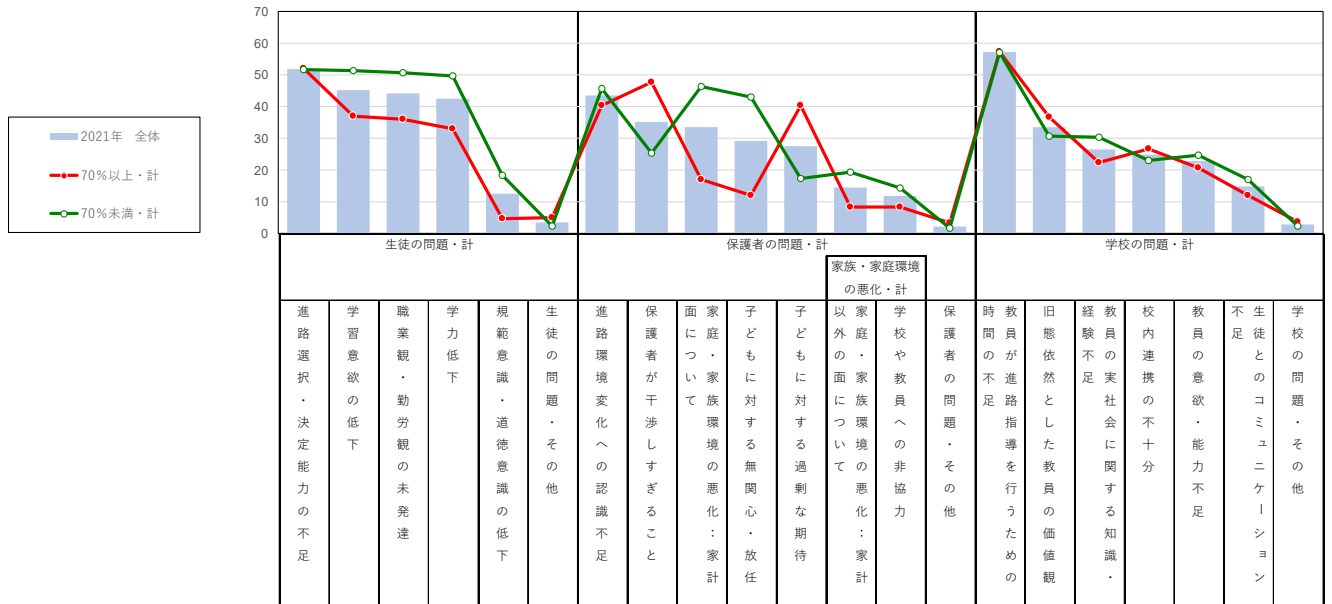
2) 進路指導上の課題

- 『生徒の問題』『保護者の問題』『学校の問題』それぞれのトップ項目は、設置者や高校タイプ、大短進学率に関わらずほぼ同程度のスコア。
- 設置者別にみると、国公立では『生徒の問題』、私立では『保護者の問題』『学校の問題』でスコアが高い傾向がみられる。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では生徒の「学習意欲の低下」、保護者の「家庭・家族環境の悪化：家計面について」「子供に対する無関心・放任」など、生徒の状態や置かれている環境の不安定さに関する項目でスコアが高い。
- 大短進学率別にみると、進学率の高い学校では『保護者の問題』のうち「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」を40~50%程度があげている。一方、進学率70%未満の学校では、『生徒の問題』や『保護者の問題』のうち家庭環境の悪化に関する項目、『進路環境の問題』のうち雇用環境や就職市場に関する項目でスコアが高く、課題が多岐に渡る。

■進路指導上の課題（全体/複数回答）

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。（複数回答可）

(%)

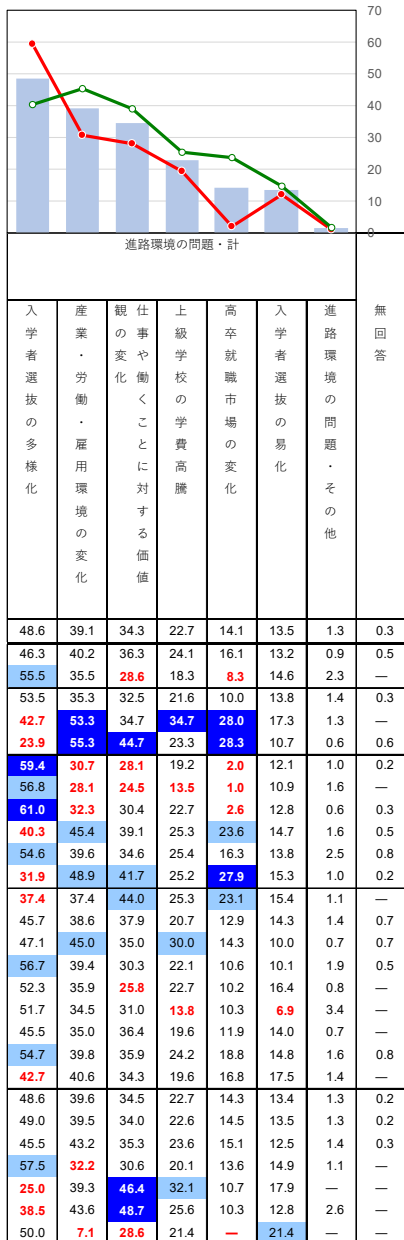


2021年 全体	進路指導上の課題																						
	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	職業観・勤労観の未発達	学力低下	規範意識・道德意識の低下	生徒の問題・その他	進路環境変化への認識不足	保護者が干渉しすぎる	家庭・家族環境の悪化：家計	子どもに対する無関心・放任	子どもに対する過剰な期待	以外に家族環境の悪化：家計	学校や教員への非協力的	保護者の問題・その他	時間が不足	教員が進路指導を行うための	旧態依然とした教員の価値観	経験不足	教員の実社会に関する知識・	校内連携の不十分	教員の意欲・能力不足	生徒とのコミュニケーション	学校の問題・その他
(n=1,156)	51.8	45.0	44.1	42.4	12.3	3.6	43.3	35.0	33.4	29.2	27.3	14.6	11.8	2.2	57.0	33.4	26.6	24.7	22.8	14.9	2.8		
設置者別																							
国公立 (n= 849)	52.3	44.6	46.2	43.0	13.3	3.5	42.8	30.7	36.2	32.9	22.9	16.5	11.1	2.4	58.8	31.2	24.5	22.9	21.0	14.8	3.1		
私立 (n= 301)	49.8	45.8	38.9	40.5	9.3	3.7	44.5	47.5	25.6	19.3	40.5	9.0	13.3	2.0	52.2	39.2	32.9	29.2	27.9	15.0	2.0		
高校タイプ別																							
普通科 (n= 909)	52.3	43.6	44.0	41.8	11.1	3.9	43.2	37.0	30.4	25.9	29.7	13.1	11.6	2.5	57.5	33.8	25.6	25.6	23.7	13.9	3.2		
総合学科 (n= 75)	52.0	65.3	44.0	46.7	14.7	2.7	48.0	29.3	48.0	50.7	10.7	22.7	16.0	1.3	61.3	26.7	24.0	18.7	26.7	18.7	1.3		
専門学科 (n= 159)	49.7	43.4	45.3	45.3	17.6	2.5	40.9	27.0	43.4	38.4	22.0	19.5	11.3	1.3	49.7	34.6	33.3	22.0	17.6	18.9	1.3		
大短進学率別																							
70%以上・計 (n= 505)	51.9	37.0	36.0	33.1	4.6	5.1	40.2	47.5	17.0	12.1	40.4	8.3	8.3	3.2	57.2	36.6	22.2	26.5	20.6	12.1	3.6		
95%以上 (n= 192)	47.9	27.6	39.1	26.0	3.1	6.8	30.7	55.7	9.4	6.3	51.0	7.8	6.8	2.1	61.5	28.6	26.0	22.4	15.1	7.8	3.6		
70~95%未満 (n= 313)	54.3	42.8	34.2	37.4	5.4	4.2	46.0	42.5	21.7	15.7	33.9	8.6	9.3	3.8	54.6	41.5	19.8	29.1	24.0	14.7	3.5		
70%未満・計 (n= 645)	51.5	51.2	50.7	49.6	18.3	2.3	45.6	25.4	46.2	42.8	17.4	19.4	14.3	1.6	56.9	30.7	30.2	22.9	24.5	17.1	2.2		
40~70%未満 (n= 240)	52.1	48.3	47.9	42.5	12.5	1.3	47.9	28.3	39.6	36.3	17.5	14.6	13.3	1.3	57.9	31.3	27.9	22.9	26.3	17.5	2.1		
40%未満・計 (n= 405)	51.1	52.8	52.3	53.8	21.7	3.0	44.2	23.7	50.1	48.7	17.3	22.2	14.8	1.7	56.3	30.4	31.6	23.0	23.5	16.8	2.2		
高校所在地別																							
北海道 (n= 91)	49.5	44.0	49.5	35.2	12.1	3.3	44.0	24.2	41.8	40.7	16.5	16.5	12.1	1.1	51.6	38.5	37.4	24.2	27.5	24.2	3.3		
東北 (n= 140)	47.9	47.9	52.9	57.1	15.0	—	45.0	33.6	37.9	34.3	20.7	15.7	7.9	—	53.6	28.6	28.6	27.1	22.1	16.4	—		
北関東・甲信越 (n= 140)	56.4	47.1	45.7	34.3	15.0	2.1	39.3	36.4	37.1	27.1	32.1	18.6	9.3	2.1	60.0	30.0	24.3	22.1	20.0	15.7	2.1		
南関東 (n= 208)	53.8	35.6	42.3	39.4	8.7	5.3	43.8	43.3	28.4	22.6	34.1	13.0	11.5	1.9	60.6	37.0	26.0	24.5	21.6	11.5	2.9		
東海 (n= 128)	54.7	44.5	46.1	35.9	13.3	4.7	37.5	35.2	27.3	24.2	27.3	10.9	9.4	4.7	55.5	31.3	28.9	25.8	27.3	15.6	3.9		
北陸 (n= 29)	58.6	62.1	41.4	65.5	10.3	—	44.8	17.2	31.0	37.9	37.9	13.8	10.3	3.4	62.1	27.6	37.9	24.1	17.2	10.3	3.4		
関西 (n= 143)	48.3	44.8	37.8	30.8	11.2	5.6	42.0	37.8	29.4	25.9	27.3	12.6	12.6	2.1	53.8	30.8	26.6	23.8	20.3	16.1	0.7		
中国・四国 (n= 128)	50.8	46.9	39.1	46.9	7.8	3.9	46.9	33.6	38.3	31.3	23.4	18.0	12.5	3.9	60.9	34.4	18.8	25.0	21.1	13.3	4.7		
九州・沖縄 (n= 143)	49.0	49.7	44.1	63.1	16.8	3.5	46.9	32.9	32.9	33.6	28.7	12.6	18.2	2.1	55.9	37.1	24.5	23.8	25.9	11.9	4.9		
キャリア																							
取り組んでいる・計 (n=1,139)	51.6	45.2	44.1	42.3	12.2	3.7	43.5	34.9	33.5	29.4	27.6	14.6	11.7	2.1	57.2	33.3	26.9	24.7	22.7	14.9	2.7		
教育の取組状況別																							
実施体制認知・計 (n=1,100)	51.3	45.3	44.2	42.1	12.0	3.7	43.5	35.1	33.7	28.8	27.5	14.5	11.5	2.2	57.2	33.1	26.5	24.2	22.3	15.1	2.6		
学校全体 (n= 703)	49.5	43.0	46.1	40.4	10.7	3.8	43.2	33.4	34.0	30.4	25.6	15.4	11.2	1.8	57.5	31.6	25.2	20.3	21.5	15.5	2.7		
学年や課程・学科・コース単位 (n= 369)	53.9	49.9	40.4	45.0	13.6	3.3	44.2	38.2	33.9	25.7	31.2	12.7	11.7	2.4	57.7	35.8	28.7	30.6	22.8	14.6	2.4		
教員個人 (n= 28)	60.7	42.9	46.4	46.4	25.0	7.1	39.3	35.7	25.0	28.6	28.6	17.9	17.9	7.1	42.9	35.7	32.1	35.7	35.7	10.7	3.6		
体制不明 (n= 39)	61.5	43.6	41.0	48.7	17.9	2.6	46.2	30.8	28.2	46.2	28.2	15.4	15.4	—	56.4	38.5	35.9	38.5	33.3	10.3	5.1		
取り組んでいない (n= 14)	71.4	35.7	50.0	50.0	21.4	—	35.7	50.0	21.4	14.3	14.3	21.4	21.4	14.3	57.1	42.9	14.3	28.6	35.7	14.3	7.1		

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.5pt以上低い

Q25

(%)



生徒の問題・計	保護者の問題・計	家族・家庭環境の悪化・計	学校の問題・計	進路環境の問題・計	
97.7	94.8	39.4	95.2	95.0	2021年 全体
97.6	94.2	42.9	94.0	95.2	国公立 設置者別
97.7	96.3	29.6	98.3	94.7	私立
97.5	94.2	36.1	95.3	94.8	普通科 高校タイプ別
98.7	97.3	54.7	94.7	98.7	総合学科
98.7	97.5	50.3	95.0	94.3	専門学科
96.2	92.9	22.0	95.6	93.7	70%以上・計 大短
93.8	91.7	14.6	95.3	89.1	95%以上 進学率別
97.8	93.6	26.5	95.8	96.5	70%~95%未満
98.8	96.3	53.0	94.7	96.1	70%未満・計
97.5	94.2	45.0	94.6	97.1	40%~70%未満
99.5	97.5	57.8	94.8	95.6	40%未満・計
97.8	94.5	49.5	95.6	93.4	北海道 高校所在地別
97.9	94.3	45.0	92.1	92.1	東北
96.4	95.0	44.3	92.9	95.7	北関東・甲信越
97.6	94.7	33.7	97.6	94.2	南関東
98.4	93.8	32.0	95.3	96.9	東海
96.6	96.6	37.9	93.1	93.1	北陸
97.9	95.8	33.6	94.4	96.5	関西
97.7	94.5	43.0	96.9	96.9	中国・四国
97.9	95.1	40.6	95.8	95.1	九州・沖縄
97.8	95.0	39.4	95.3	95.1	取り組んでいる・計 キャリア教育の取組状況別
97.8	95.1	39.5	95.3	95.1	実施体制認知・計
97.6	94.6	39.7	94.5	95.0	学校全体
98.4	96.2	39.6	96.7	95.9	学年や課程・学科・コース単位
96.4	92.9	32.1	96.4	85.7	教員個人
97.4	92.3	38.5	94.9	94.9	体制不明
100.0	92.9	35.7	100.0	100.0	取り組んでいない

Q25

2. キャリア教育について

1) キャリア教育への取組状況

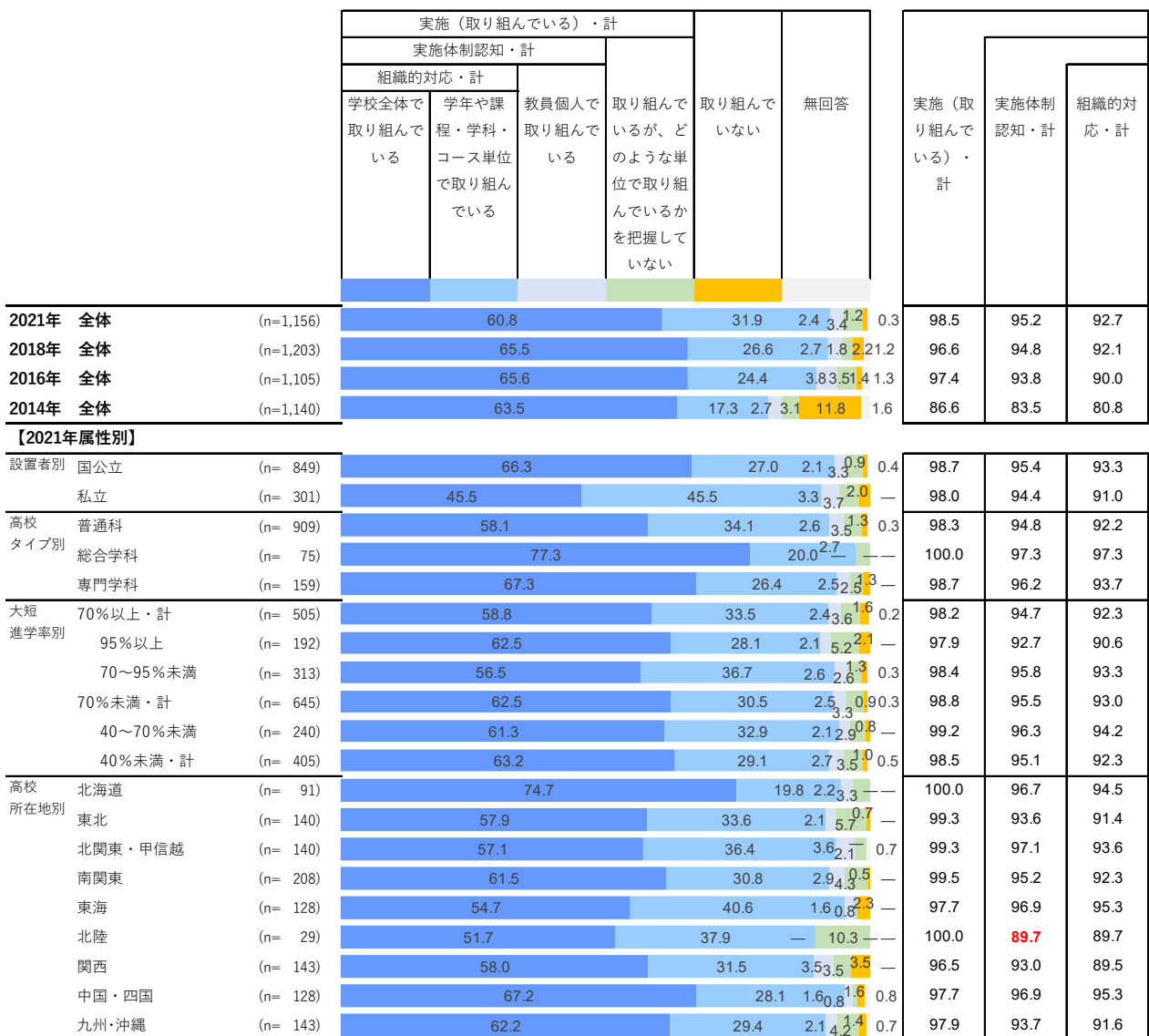
- 61%が「学校全体で」取り組んでおり、「実施・計」は99%とほぼ全校。
- ただし、2018年と比較して「学校全体で取り組んでいる」が減少し、「学年や課程・学科・コース単位で取り組んでいる」が増加。

- 設置者別にみると、国公立では66%が「学校全体で取り組んでいる」と回答。一方私立では「学校全体で取り組んでいる」と「学年や課程・学科・コース単位で取り組んでいる」が46%で並ぶ。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では実施・計が100%で、「学校全体で取り組んでいる」（77%）が8割近くを占める。専門学科でも67%と高い。
- 大短進学率別にみると、いずれの層でも実施・計がほぼ98%前後と高く、「学校全体で取り組んでいる」が過半数を占めている。進学率95%以上または40%未満の層で63%程度と特に高い。

■ キャリア教育の取組状況（全体／単一回答）

(%)

貴校でのキャリア教育は、どの単位で取り組まれていますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/■0.0-5pt以上低い

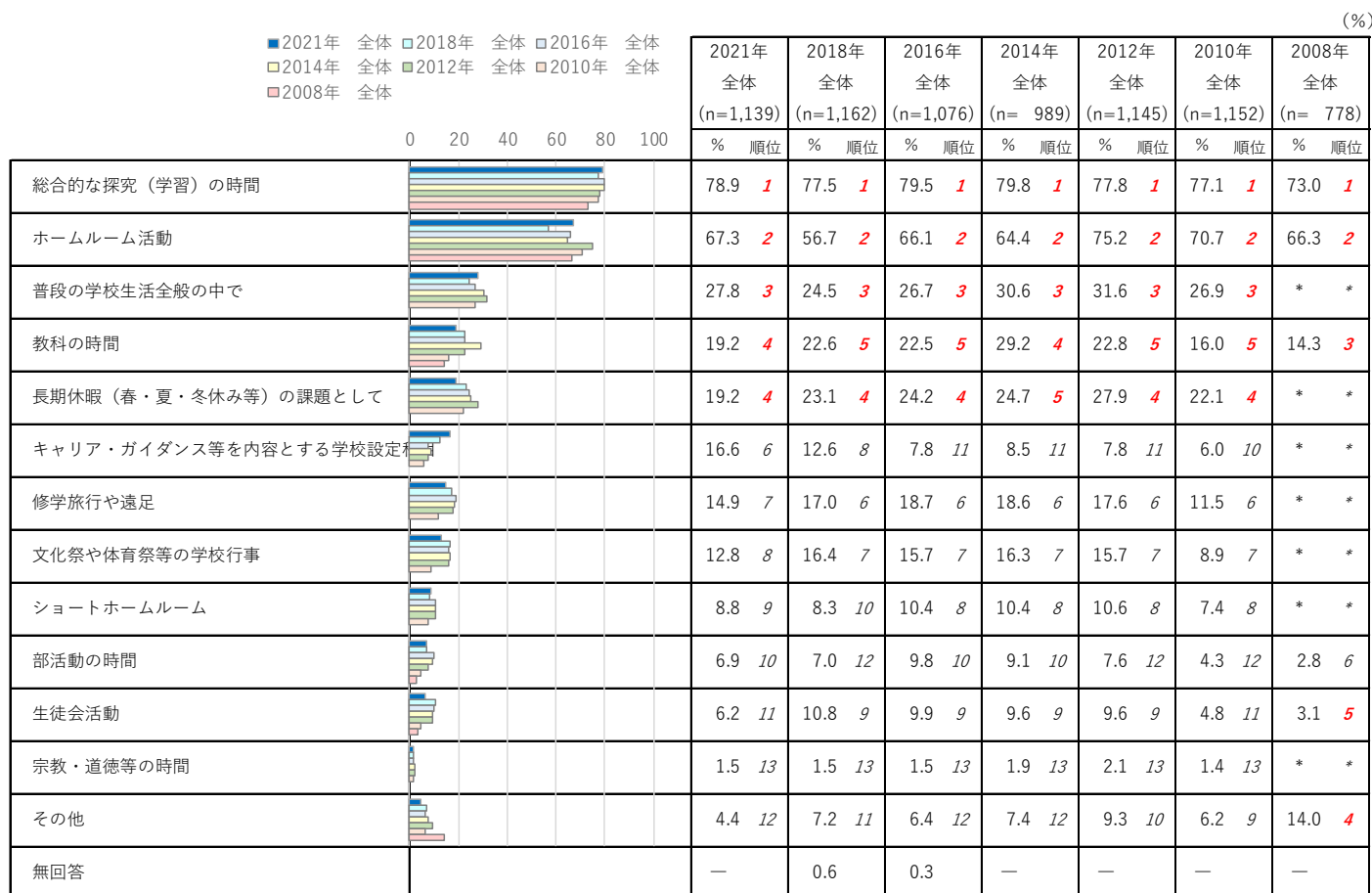
Q26

2) キャリア教育の実施時間

- 実施校におけるキャリア教育実施時間は「総合的な探究（学習）の時間」（79%）、「ホームルーム活動」（67%）が突出して高い。
- 時系列で見ると、上記の2項目以外では2012～2014年をピークに低下しているものが多く、キャリア教育の実施が「総合的な探究（学習）の時間」「ホームルーム活動」に集約されつつある。

■ キャリア教育実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。（複数回答可）



※2021年全体値の降順ソート

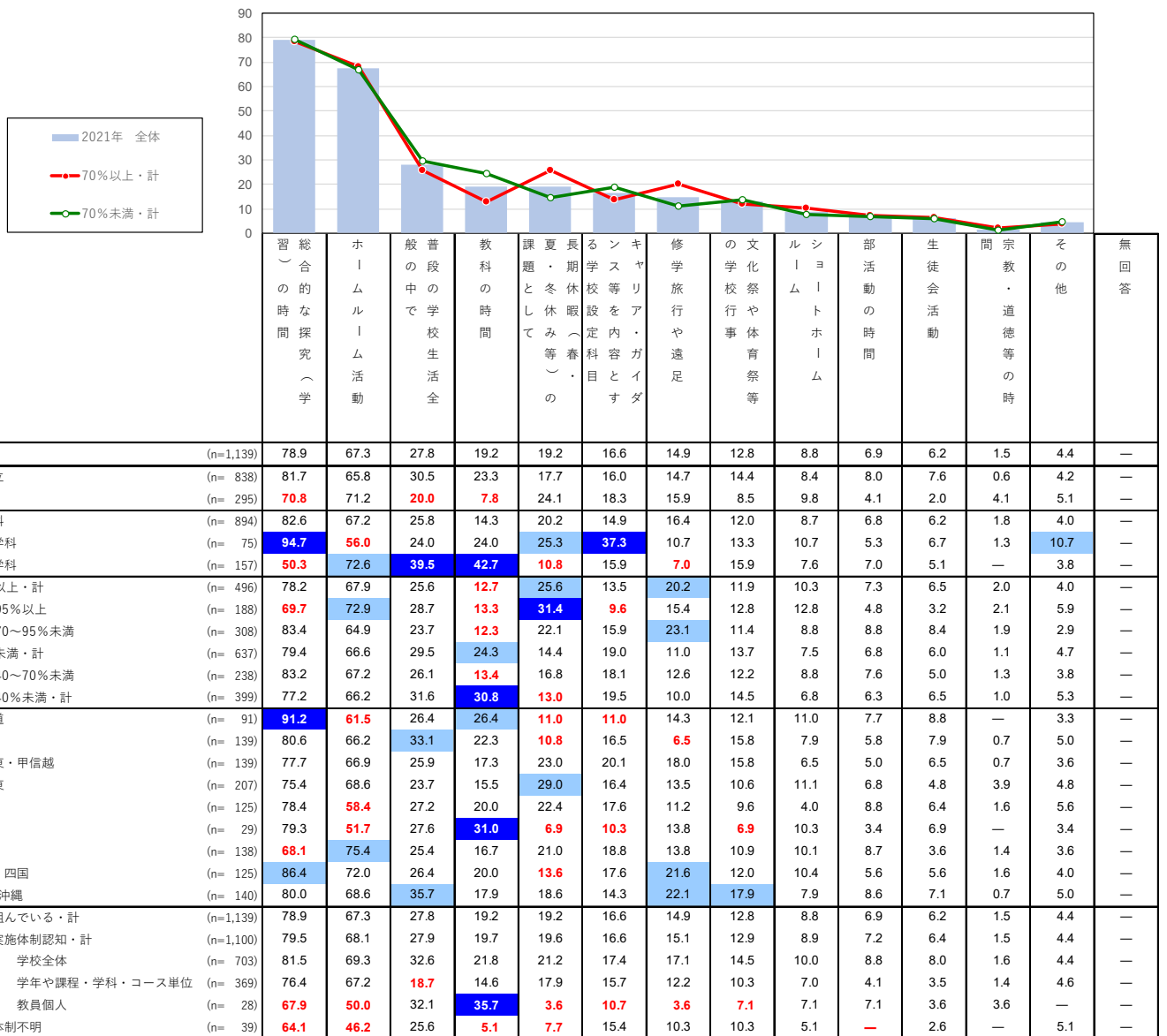
時Q27

- 設置者別にみると、国公立では「総合的な探究（学習）の時間」（82%）が突出して高い。私立では「総合的な探究（学習）の時間」と「ホームルーム活動」が70%強とほぼ同率で並ぶ。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「総合的な探究（学習）の時間」が95%と突出して高い。総合学科ではこの他「キャリア・ガイダンス等を含む学校設定科目」（37%）や「長期休暇の課題として」（25%）なども全体と比較して高い。専門学科では、「ホームルーム活動」（73%）が突出して高い他「教科の時間」「普段の学校生活全般の中で」なども40%前後と全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、上位2項目についてはいずれの層でも高く、スコアの差もほとんどない。進学率の高い学校ほど「長期休暇の課題として」「修学旅行や遠足」のスコアが高く、逆に進学率の低い学校ほど「教科の時間」が高い。

■キャリア教育実施時間（キャリア教育実施校/複数回答）

(%)

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。（複数回答可）



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q27

3) キャリア教育の見直しを考えているか

- 新しい学習指導要領に対応して、キャリア教育の取組や実施時間の「見直しを考えている」学校は全体の28%。ほぼ半数は「まだよくわからない」。
- 2018年と比較して「見直しを考えている」割合が大幅に増加。

- 設置者別にみると、私立では32%が「見直しを考えている」と回答しており、国公立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科では30%が「見直しを考えている」と回答し、「変える予定はない」を上回っている。一方、総合学科や専門学科では25%程度が「見直しを考えている」が、「変える予定はない」も25~30%近くを占めており、現状を継続する予定の学校も4分の1程度となっている。
- キャリア教育の取組状況別にみると、学校全体で取り組んでいる学校では31%が「見直しを考えている」と回答しており、他と比較して見直し意向が高い。

■特別活動を要としたキャリア教育の見直し（全体／単一回答）

(%)

今回の新しい学習指導要領では、特別活動を要として「キャリア教育の充実を図ること」が明記されました。これによって、貴校ではキャリア教育の取組や実施時間の見直しを検討していますか。

		見直しを考えている	まだよくわからない	変える予定はない	無回答
2021年	全体 (n=1,156)	27.9	51.1	19.6	1.5
2018年	全体 (n=1,203)	9.6	70.7	17.7	1.9
【2021年属性別】					
設置者別	国公立 (n= 849)	26.4	51.2	20.7	1.6
	私立 (n= 301)	31.9	50.8	16.3	1.0
高校タイプ別	普通科 (n= 909)	28.8	52.5	17.6	1.1
	総合学科 (n= 75)	25.3	46.7	28.0	—
	専門学科 (n= 159)	24.5	47.2	25.8	2.5
大短進学率別	70%以上・計 (n= 505)	27.3	52.7	19.2	0.8
	95%以上 (n= 192)	26.6	50.5	21.4	1.6
	70~95%未満 (n= 313)	27.8	54.0	17.9	0.3
	70%未満・計 (n= 645)	28.2	49.9	19.8	2.0
	40~70%未満 (n= 240)	29.6	52.5	16.3	1.7
	40%未満・計 (n= 405)	27.4	48.4	22.0	2.2
高校所在地別	北海道 (n= 91)	45.1	39.6	14.3	1.1
	東北 (n= 140)	17.9	51.4	28.6	2.1
	北関東・甲信越 (n= 140)	26.4	57.1	15.7	0.7
	南関東 (n= 208)	25.5	56.7	15.9	1.9
	東海 (n= 128)	26.6	50.0	21.9	1.6
	北陸 (n= 29)	17.2	65.5	17.2	—
	関西 (n= 143)	27.3	47.6	23.1	2.1
	中国・四国 (n= 128)	32.0	46.1	21.9	—
	九州・沖縄 (n= 143)	31.5	50.3	16.1	2.1
キャリア教育の取組状況別	取り組んでいる・計 (n=1,139)	27.8	50.9	19.8	1.5
	実施体制認知・計 (n=1,100)	28.3	50.3	20.3	1.2
	学校全体 (n= 703)	30.9	45.0	22.9	1.3
	学年や課程・学科・コース単位 (n= 369)	24.7	58.8	15.4	1.1
	教員個人 (n= 28)	10.7	71.4	17.9	—
	体制不明 (n= 39)	15.4	69.2	5.1	10.3
	取り組んでいない (n= 14)	28.6	64.3	7.1	—

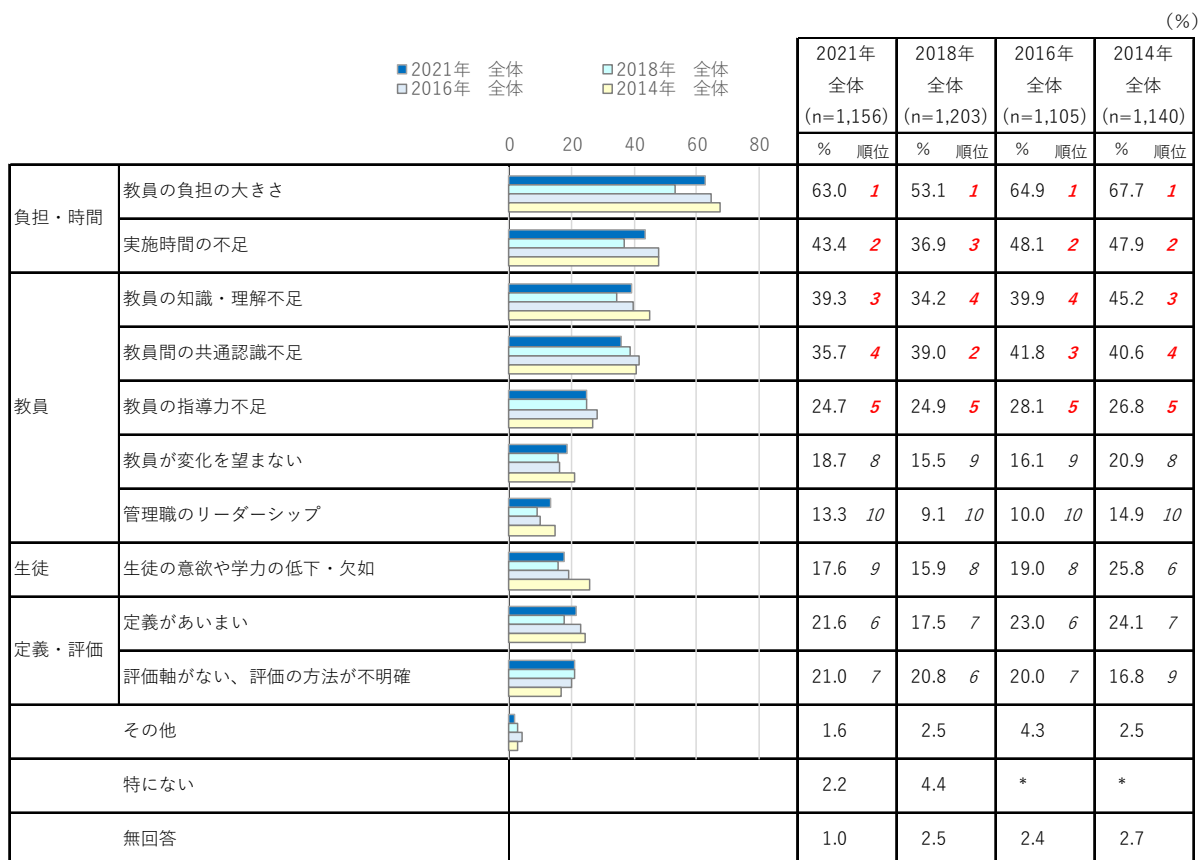
Q28_2018全体ベース

4) キャリア教育を進めていく上での今後の課題

- キャリア教育を進めていく上での今後の課題のトップは「教員の負担の大きさ」。ついで「実施時間の不足」が高く、負担・時間に関する項目が上位。
- 2018年と比較して、「教員の負担の大きさ」が10ポイント上昇。また「実施時間の不足」「教員の知識・理解不足」も2018年より5ポイント以上上昇した。

■キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。（複数回答可）



※カテゴリーごとに2021年全体値の降順ソート ※「*」は該当項目なし

※2014～2016年調査は、「キャリア教育を進めていくにあたり、『難しくしている』と思われる要因」を質問。

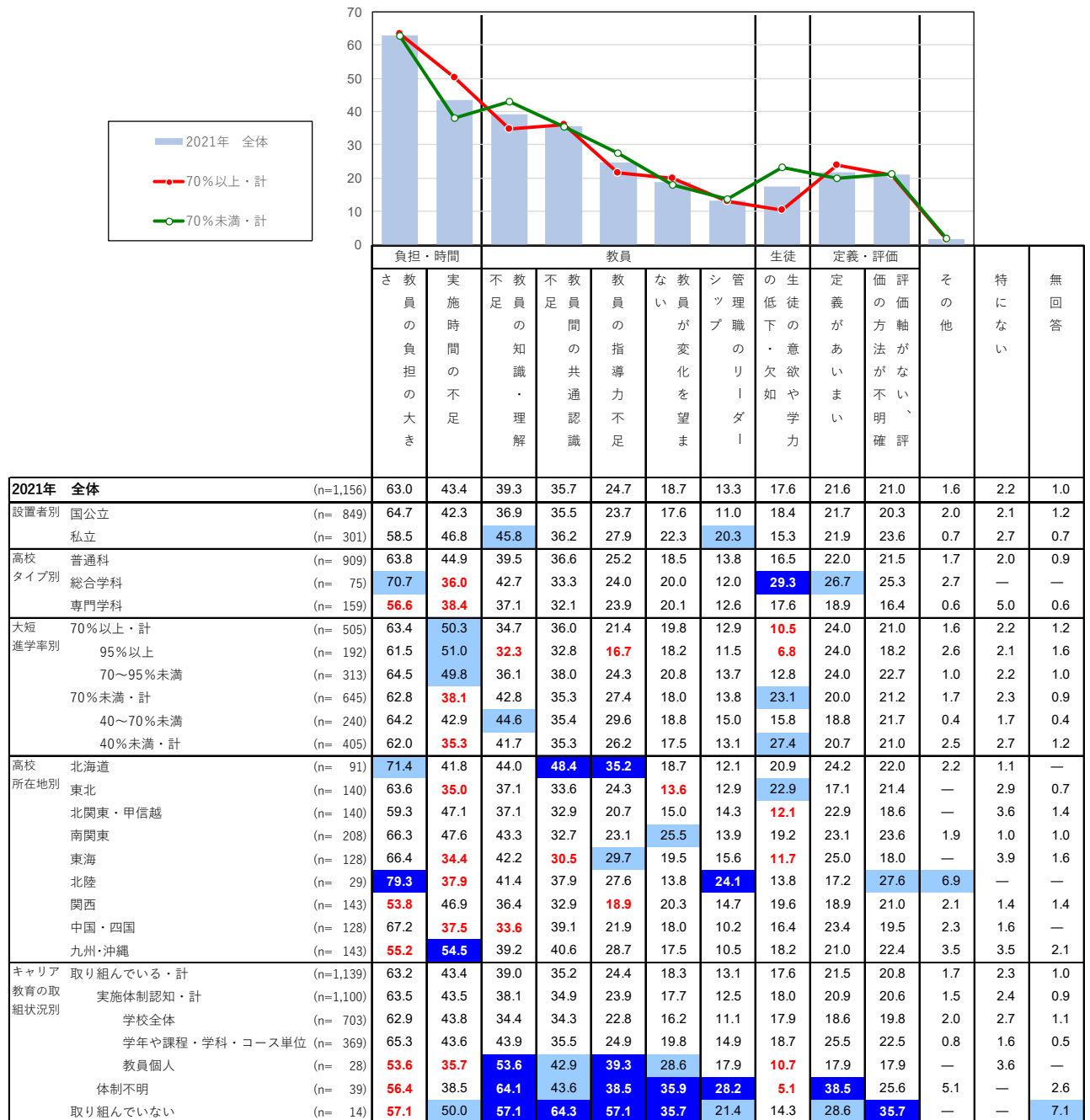
時Q29

- 設置者別にみると、私立では「教員の知識・理解不足」「管理職のリーダーシップ」をはじめとして『教員』に関する項目でスコアが高い。
- 高校タイプ別にみると、共通して「教員の負担の大きさ」がトップとなっており、特に総合学科では71%と突出して高い。また総合学科では「生徒の意欲や学力の低下・欠如」も29%と全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、「教員の負担の大きさ」は進学率によらずトップとなっており、スコアの差もほとんどない。一方、「実施時間の不足」は進学率が高い層ほどスコアが高い。
- キャリア教育の取り組み体制別にみると、教員個人や取り組み体制不明、取り組んでいないなど、組織的な対応ができていない層では、いずれも『教員』に関する課題感が非常に強く、特に「教員の知識・理解不足」が50%以上にのぼっている。

■キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

(%)

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。（複数回答可）



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

3. 「キャリア・パスポート」について

1) 「キャリア・パスポート」への取組状況

■ 「キャリア・パスポート」について、合計で全体の44%が取り組みを始めていると回答。「学校全体で取組を始めている」学校が全体の34%。

- 設置者別にみると、国公立では「取組を始めている・計」が半数を占めるが、私立では22%と低い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科では、合計すると過半数が「取組を始めている」。特に「学校全体で取組を始めている」が40%以上を占めている。
- 大短進学率別にみると、進学率の低い層ほど取り組みを始めている割合が高い。
- キャリア教育の取組状況別に「キャリア・パスポート」への取組状況をみると、キャリア教育に学校全体で組織的に取り組んでいる学校では、「取組を始めている・計」が半数を占めており、特に「学校全体で取組を始めている」割合が顕著に高い。それ以外の単位で取り組んでいる学校では取り組み率が低く、特に教員個人で取り組んでいる学校では取り組む必要があることを「認識している」割合が75%と低い。

■ 「キャリア・パスポート」への取組状況（全体/単一回答）

(%)

2020年度より、小中高で一斉実施とされている「キャリア・パスポート」について、あてはまるものを教えてください。

	n	認識あり・計					無回答	認識あり・計	取組を始めている・計
		学校全体で取組を始めている	一部の学年、学科・コースで取組を始めている	認識しているが、実施する予定はない	認識しているが、実施する予定はない	「キャリア・パスポート」について、あまり理解していない			
2021年 全体	(n=1,156)	34.4	9.9	33.8	7.3	13.8	0.7	85.5	44.4
設置者別									
国公立	(n= 849)	40.9	11.2	33.2	6.2	7.9	0.6	91.5	52.1
私立	(n= 301)	15.9	6.3	35.5	10.3	30.9	1.0	68.1	22.3
高校タイプ別									
普通科	(n= 909)	32.5	8.5	34.7	8.4	15.4	0.7	83.9	40.9
総合学科	(n= 75)	40.0	14.7	28.0	4.0	12.0	1.3	86.7	54.7
専門学科	(n= 159)	42.8	15.1	32.1	3.1	6.9	—	93.1	57.9
大短進学率別									
70%以上・計	(n= 505)	29.9	7.9	34.5	9.7	17.2	0.8	82.0	37.8
95%以上	(n= 192)	29.7	9.4	26.0	15.1	19.3	0.5	80.2	39.1
70~95%未満	(n= 313)	30.0	7.0	39.6	6.4	16.0	1.0	83.1	37.1
70%未満・計	(n= 645)	37.8	11.5	33.3	5.4	11.3	0.6	88.1	49.3
40~70%未満	(n= 240)	34.6	10.0	35.0	6.7	13.8	—	86.3	44.6
40%未満・計	(n= 405)	39.8	12.3	32.3	4.7	9.9	1.0	89.1	52.1
高校所在地別									
北海道	(n= 91)	26.4	6.6	44.0	4.4	18.7	—	81.3	33.0
東北	(n= 140)	35.7	8.6	35.0	9.3	11.4	—	88.6	44.3
北関東・甲信越	(n= 140)	36.4	13.6	36.4	5.0	7.1	1.4	91.4	50.0
南関東	(n= 208)	21.6	10.6	37.0	9.1	20.7	1.0	78.4	32.2
東海	(n= 128)	21.1	9.4	39.1	13.3	15.6	1.6	82.8	30.5
北陸	(n= 29)	34.5	13.8	20.7	3.4	27.6	—	72.4	48.3
関西	(n= 143)	35.0	11.9	33.6	9.1	10.5	—	89.5	46.9
中国・四国	(n= 128)	51.6	11.7	23.4	3.9	8.6	0.8	90.6	63.3
九州・沖縄	(n= 143)	50.3	4.9	26.6	3.5	14.0	0.7	85.3	55.2
キャリア教育の取組状況									
取り組んでいる・計	(n=1,139)	34.5	10.0	33.9	7.3	13.6	0.7	85.7	44.5
実施体制認知・計	(n=1,100)	34.8	10.2	33.9	6.7	13.6	0.7	85.6	45.0
学校全体	(n= 703)	40.5	9.2	32.4	6.0	11.1	0.7	88.2	49.8
学年や課程・学科・コース単位	(n= 369)	24.9	12.2	37.4	7.0	17.6	0.8	81.6	37.1
教員個人	(n= 28)	21.4	7.1	25.0	21.4	25.0	—	75.0	28.6
体制不明	(n= 39)	25.6	5.1	33.3	23.1	12.8	—	87.2	30.8
取り組んでいない	(n= 14)	28.6	7.1	21.4	7.1	35.7	—	64.3	35.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q30

< 「キャリア・パスポート」とは >

特別活動の学級活動およびホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことで、将来を見据えることをサポートするツールです。

2) 「キャリア・パスポート」の実施目的

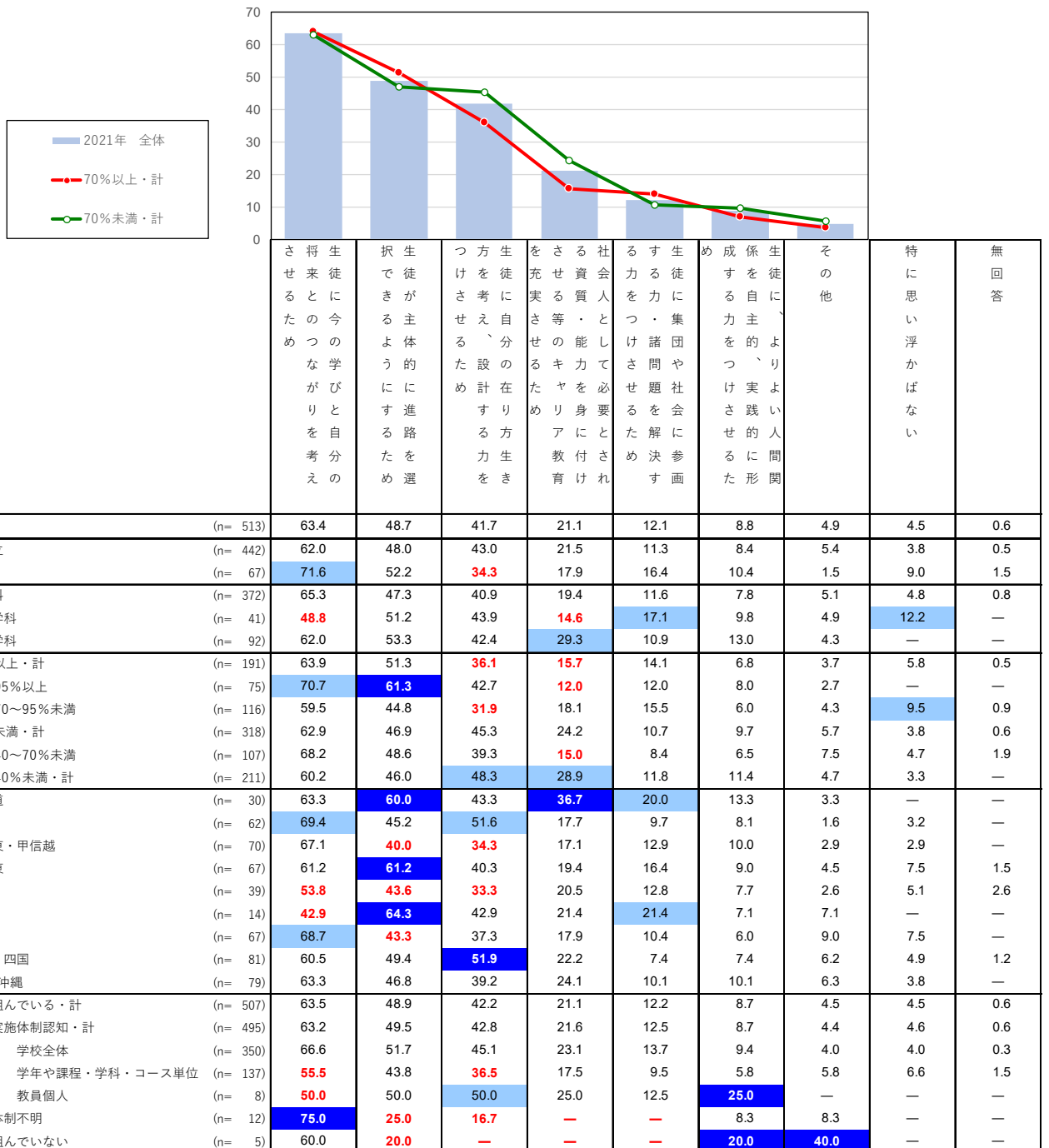
■ キャリア・パスポート実施の目的は「生徒に今の学びと自分の将来とのつながりを考えさせるため」(63%)がトップ。

- 大短進学率別にみると、上位2項目は特に進学率95%以上の学校でスコアが高く、生徒に現在と将来のつながりを主体的に考えさせる目的で実施している。逆に、第3位・4位の項目は、進学率40%未満の高校で高く、職業・キャリアといった将来設計の力をつけさせる目的があることがわかる。

■ 「キャリア・パスポート」の実施目的 (キャリア・パスポート導入校/複数回答)

(%)

「キャリア・パスポート」を実施している目的は何ですか。(複数回答可)



※全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q30SQ1

4. これからの社会と「社会人基礎力」について

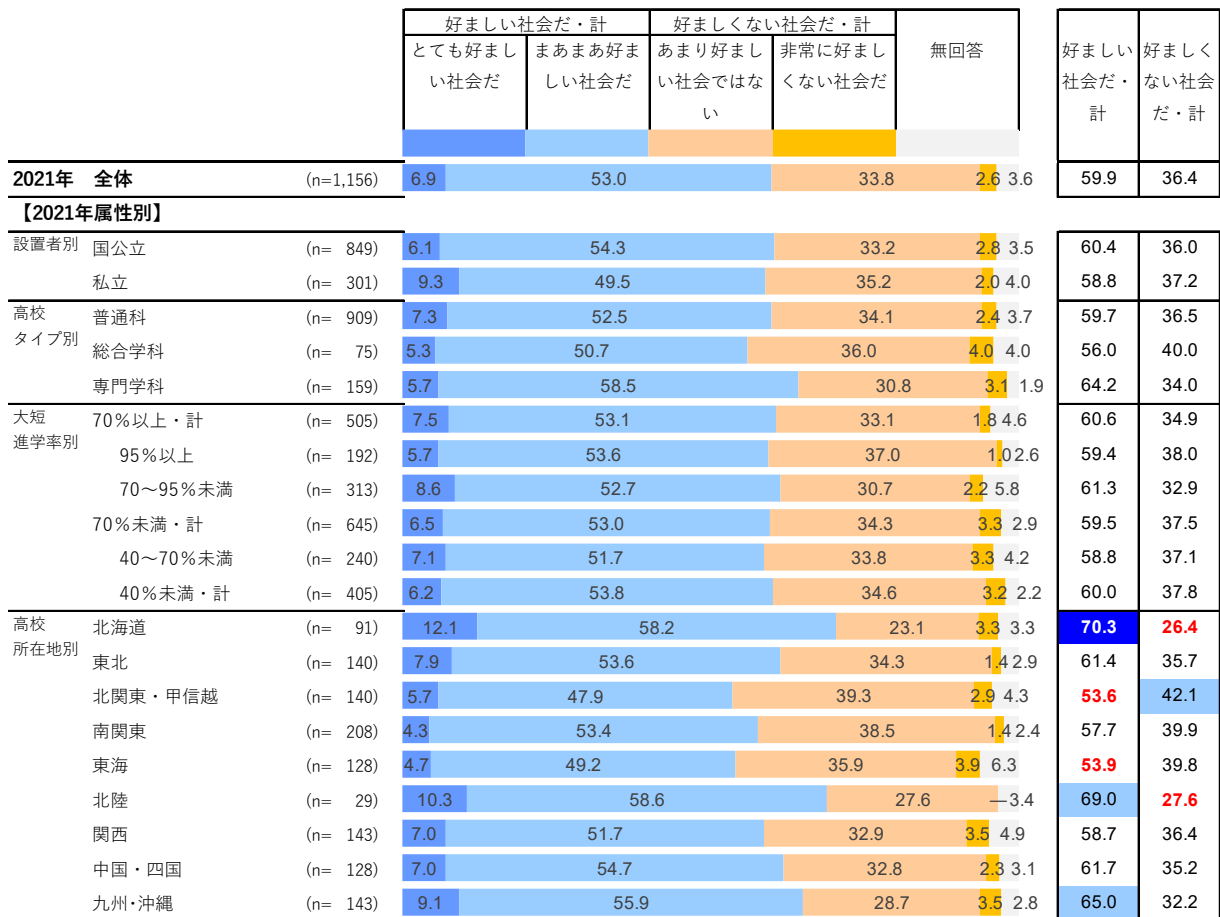
1) 「これからの社会」は生徒にとって好ましい社会か

■ 全体の60%が、生徒にとってこれからの社会が「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」と回答。

- 「とても好ましい社会だ」が7%、「まあまあ好ましい社会だ」が53%を占めた。
- 設置者別にみると、私立で「とても好ましい社会だ」が9%と国公立に比べてやや高いが、「好ましい社会だ・計」ではあまり大きな差はない。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「好ましい社会だ・計」が56%と、全体と比較してやや低め。
- 大短進学率別にみると、どの層でも合計で60%前後が「好ましい社会だ」と回答しており、大きな差はみられない。

■ 「これからの社会」の高校生にとっての好ましき（全体／単一回答） (％)

これからの社会は生徒にとって好ましい社会だと思いますか、好ましくない社会だと思いますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q23

2) 生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」のギャップ

- 【特に必要とされる能力】の上位は、「主体性」「課題発見力」「創造力」。「創造力」は2014年（14%）と比較して20ポイント近く上昇。また、「働きかけ力」も徐々に上昇している。
- 生徒が【現在持っていると思う能力】では、「規律性」「傾聴力」「柔軟性」が上位。時系列でみると、「状況把握力」など一部を除いてほとんどの項目でスコアが上昇。ただし、【特に必要とされる能力】の上位を占める「主体性」や「課題発見力」ではまだ大きな乖離があり、十分に備わっていないと認識されている。

- 経済産業省で定義されている『社会人基礎力』の12の能力要素の中から、生徒が将来社会で働くにあたり【特に必要とされる能力】と【現在持っていると思う能力】をそれぞれ3つまで選んでもらった。
- 生徒が将来社会で働くにあたり【特に必要とされる能力】は、「物事に進んで取り組む力（主体性）」（55%）が突出して高い。
- 以下、「現状を分析し、目的や課題を明らかにする力（課題発見力）」（42%）、「新しい価値を生み出す力（創造力）」（33%）や「目的を設定し確実に行動する力（実行力）」（30%）が30～40%前後で続く。生徒自らが「主体的に目標や課題を見つけ、行動し、価値を生み出す」能力が必要とされていると感じている教員が多い。
- 一方、生徒が【現在持っている能力】は、「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」（58%）が突出して高く、以下「相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）」（35%）、「意見や立場の違いを理解する力」（22%）などが20%超で続く。
- 【特に必要とされる能力】のスコアに対し【現在持っている能力】のスコアが上回ったのは、「規律性」「傾聴力」「柔軟性」のみで、それ以外は全体的に下回った。とりわけ【特に必要とされる能力】の上位を占める「主体性」や「課題発見力」でまだ大きな乖離があり、十分に備わっていないと認識されている。

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体/それぞれ3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

(n=1,156)			①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②生徒が現在持っていると思う能力	①必要とされる能力－ ②現在持っている能力の ギャップ
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	55.2 1位	17.0 4位	38.2
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	29.8 4位	13.3 6位	16.5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.6 8位	6.8 8位	10.8
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	42.4 2位	5.4 10位	37.0
	創造力	新しい価値を生み出す力	32.7 3位	6.3 9位	26.4
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	17.9 7位	4.5 11位	13.4
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	22.9 5位	13.0 7位	9.9
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	20.2 6位	22.4 3位	-2.2
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	16.3 9位	4.2 12位	12.1
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	15.9 10位	14.7 5位	1.2
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	14.1 11位	34.7 2位	-20.6
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	10.6 12位	57.9 1位	-47.3
ひとつもあてはまるものはない			—	9.1	
無回答			0.7	2.6	

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート

※■第1位の項目 ■第2~4位の項目

②の方が高い ← ①の方が高い

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

(%)



	能力要素	説明	2021年 全体 (n=1,156)				2018年 全体 (n=1,203)				2016年 全体 (n=1,105)				2014年 全体 (n=1,140)			
			%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位		
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	55.2	1	59.0	1	60.3	1	55.7	1								
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	29.8	4	29.0	3	35.3	3	35.3	3								
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.6	8	15.1	9	11.7	12	8.6	12								
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	42.4	2	45.0	2	44.1	2	43.1	2								
	創造力	新しい価値を生み出す力	32.7	3	23.4	5	16.9	8	13.9	11								
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	17.9	7	20.7	6	22.5	5	17.6	8								
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	22.9	5	27.0	4	28.3	4	30.2	4								
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	20.2	6	15.7	7	17.1	7	18.2	6								
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	16.3	9	12.8	10	13.1	11	16.3	9								
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	15.9	10	15.6	8	17.8	6	17.7	7								
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	14.1	11	12.1	11	15.0	9	19.6	5								
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	10.6	12	10.3	12	13.5	10	14.2	10								
ひとつもあてはまるものはない			—		0.2		—		—									
無回答			0.7		4.0		0.9		1.9									

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

時Q24_1

■生徒が「現在持っている」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

(%)



	能力要素	説明	2021年 全体 (n=1,156)				2018年 全体 (n=1,203)				2016年 全体 (n=1,105)				2014年 全体 (n=1,140)			
			%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位		
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	17.0	4	14.2	5	12.1	5	12.0	5								
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	13.3	6	11.2	6	7.9	7	7.0	7								
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	6.8	8	5.7	8	7.0	8	7.5	6								
考え抜く力 (シンキング)	創造力	新しい価値を生み出す力	6.3	9	4.5	10	6.7	9	6.7	8								
	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	5.4	10	3.0	12	2.8	12	1.9	12								
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	4.5	11	4.7	9	3.2	11	3.1	10								
チームで働く力 (チームワーク)	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	57.9	1	54.3	1	51.6	1	40.4	1								
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	34.7	2	33.8	2	32.3	2	25.0	2								
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	22.4	3	21.7	3	22.4	3	18.4	3								
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	14.7	5	19.2	4	20.2	4	16.5	4								
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	13.0	7	9.3	7	9.7	6	5.9	9								
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	4.2	12	4.3	11	4.7	10	3.0	11								
ひとつもあてはまるものはない			9.1		11.2		13.4		16.8									
無回答			2.6		8.6		7.5		13.4									

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

時Q24_2

3) 生徒が将来社会で働くにあたって特に必要とされる「社会人基礎力」

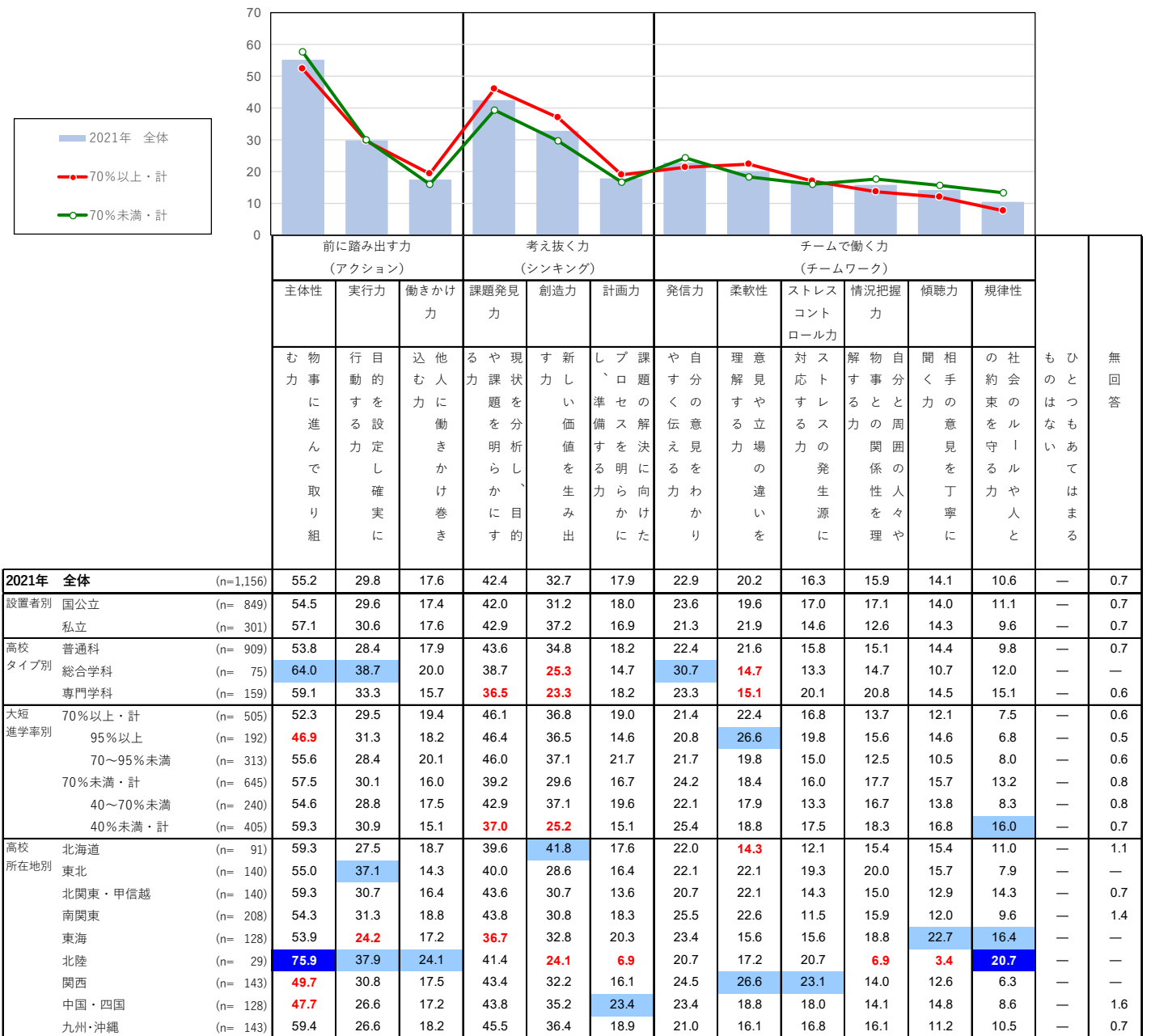
■ 将来【特に必要とされる能力】の上位は、「主体性」「課題発見力」「創造力」。

- 高校タイプ別にみると、総合学科でスコアの高い項目が目立つ。
- 大短進学率別にみると、トップの「主体性」は進学率の低い学校ほどスコアが高い傾向がみられる。一方、「課題発見力」「創造力」については進学率の高い学校でスコアが高い。

■ 生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

(%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q24SQ1

4) 生徒が現在持っている「社会人基礎力」

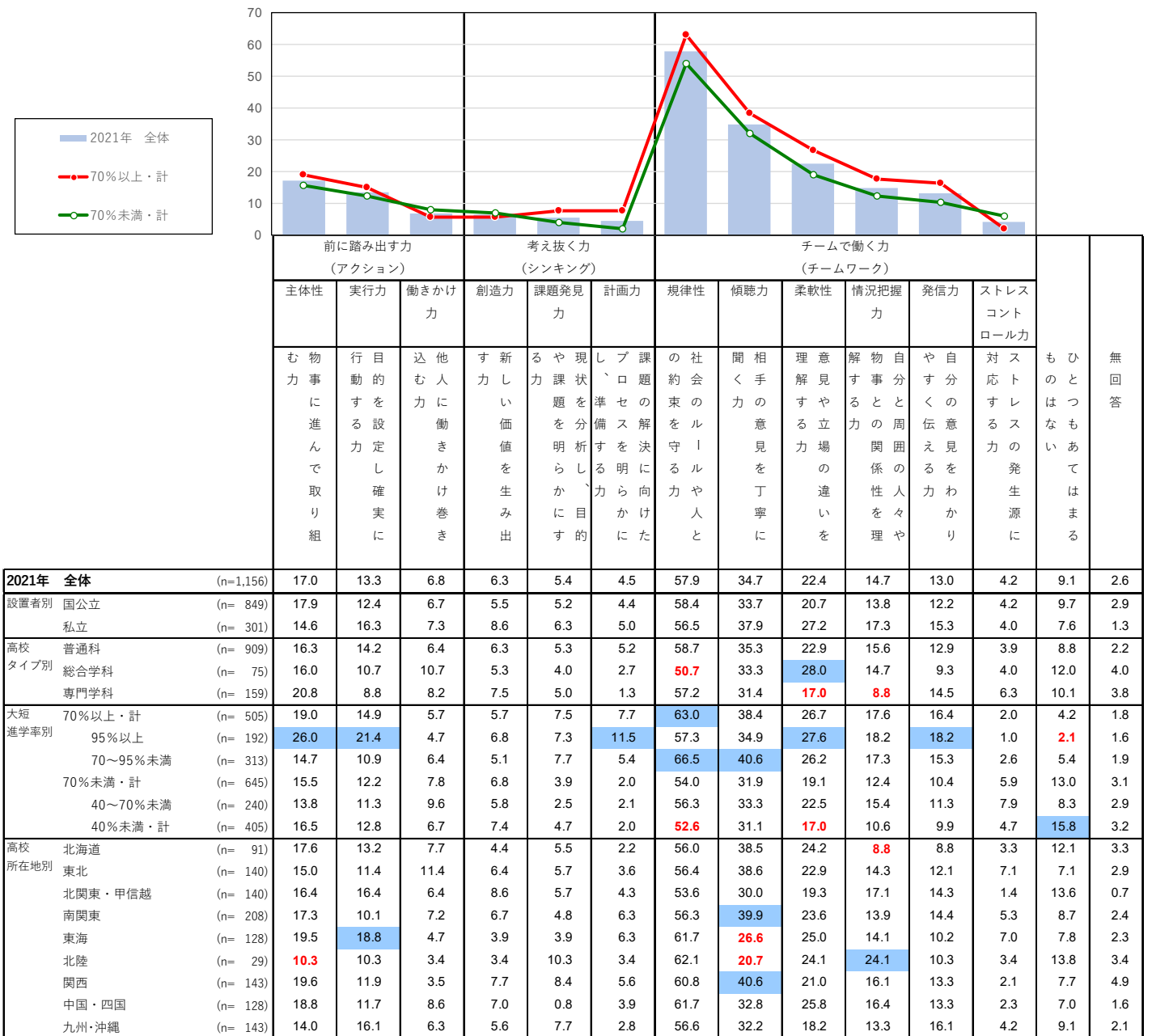
■ 生徒が【現在持っている能力】は、「規律性」「傾聴力」「柔軟性」。

- 高校タイプ別にみると、いずれでも「規律性」が突出して高いものの、総合学科ではこの項目が51%と、他の高校タイプと比較してスコアが低い。逆に「柔軟性」については総合学科で28%と高い。
- 大短進学率別にみると、全体的に進学率の高い層ほどスコアが高い傾向がみられるが、「働きかけ力」「ストレスコントロール力」などは進学率70%未満の層の方がわずかながら上回っている

■ 生徒が「現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

(%)

「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q24SQ2

第VI部 学校改革

1. 高校における「スクール・ポリシー」策定に対する考え

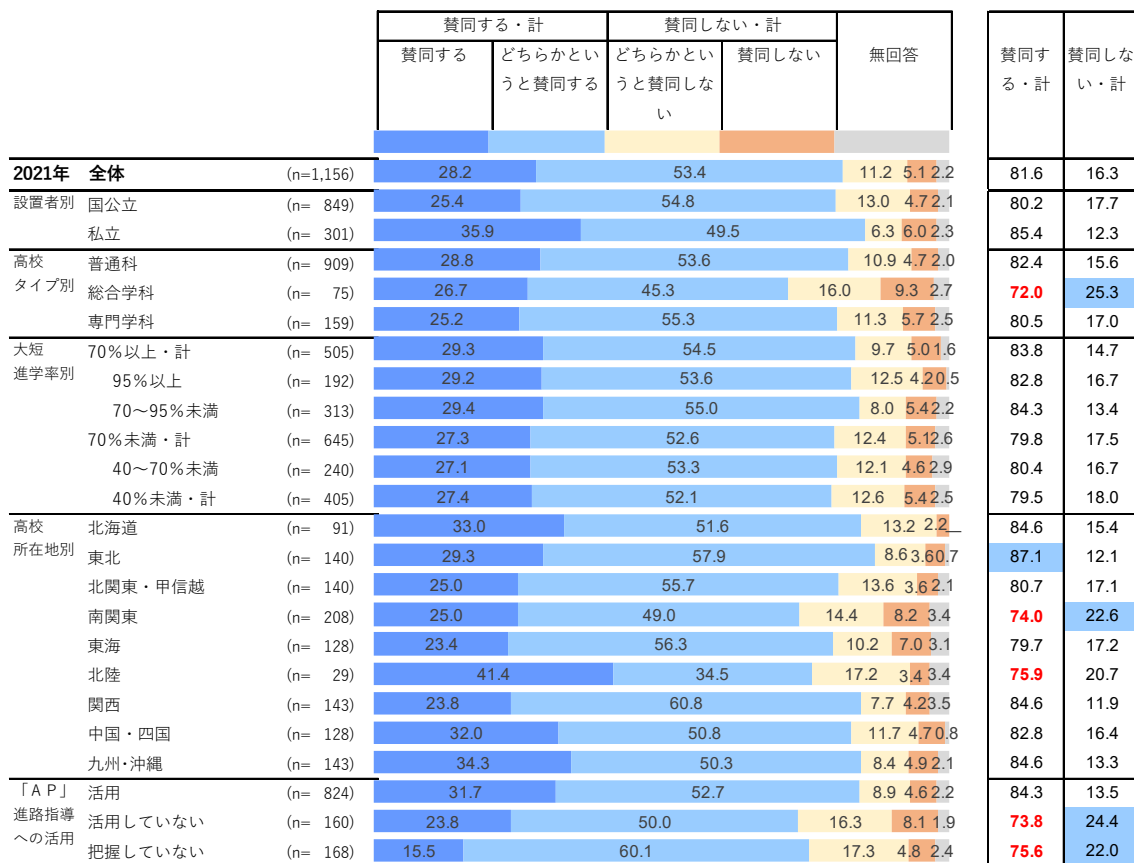
■ 高校における「スクール・ポリシー」策定に対し、「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で82%を占めた

- 設置者別にみると、いずれでも「賛同する・計」が80%を超えるが、特に私立で高く、トップボックスである「賛同する」が36%を占めている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「賛同する」割合がやや低い。
- 大短進学率別では、進学率が高い層ほど賛同の割合が高い傾向があるものの、あまり大きな差はなく、いずれの層でも「賛同する」が30%弱、合計では80%前後が賛同している。

■ 高校における「スクール・ポリシー」策定に対する考え方（全体／単一回答）

（%）

高校において、入口から出口までの教育活動の指針となる「スクール・ポリシー」を策定することについてどのように思いますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q31

< 「スクール・ポリシー」とは >

高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものに再構成するとともに、教育活動の継続性を担保するために、3つのポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を全ての高等学校において策定・公表し、特色・魅力ある教育の実現に向けた整合性のある指針とする必要があるとされました。

<フリーアンサー> 高校における「スクール・ポリシー」策定に対する態度と理由

「賛同する」理由

■生徒の将来設計に役立つ

●大短進学率70%以上

- ・見通しをもって学ぶことは、学びの効果が大きく得られるから。[新潟県/市立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・「育てたい生徒像」や「学校の目指す姿」など、より具体的な学校の方針を示すことで、どのようなことができるようになるのか、どのような取り組みに参加できるのかなどがより明確になり、生徒自身が自らの将来設計がしやすくなるため。[埼玉県/県立/普通科]

■学校の特色・方針を明確化できる

●大短進学率70%以上

- ・学校として、あるべき姿、入学者へ期待すること、また卒業時のゴールを考え、示すことは、学校としてのアイデンティティを確立することと同義で有り、その議論の過程で教員間の意識が醸成していくことが期待できるから。[千葉県/県立/普通科]
- ・「有名校への進学実績」という物差しだけで普通科高校を評価する時代を早く終息させたい。[岡山県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・学校のグランドデザインを明確にするためには不可欠であり、何のために教育活動を行っているのかを明確にするものでもあるから。[千葉県/県立/普通科]
- ・社会に開かれた教育課程の実践にスクールポリシーは必要である。[栃木県/県立/総合学科]

■教員間や生徒・保護者との意識合わせが可能

●大短進学率70%以上

- ・グランドデザインを策定し、この学校でどのような人材育成がなされるのか、教員間、生徒、保護者等が、共通理解を計りながら、評価改善を回していく上で、必然と認識している。[宮城県/県立/普通科]
- ・教員は明確なビジョンを持ち、学校全体で共有するべきである[和歌山県/県立/普通科]
- ・学校教育目標もあるがより具体的に定義した方が生徒、教員、保護者間での共通理解が得られる[北海道/道立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・高校の責任として必要。教員の目線合わせとしても。[岡山県/県立/専門学科]
- ・教育目標の達成のために、方策を職員間で共有する機会となる。[新潟県/県立/普通科]
- ・自校の指針を公表することで、全教職員が当事者意識をもって教育活動に参画することにつながると考えるから[秋田県/県立/普通科]

■入学時のミスマッチを防ぐことができる

●大短進学率70%以上

- ・学校ごとの特性が明確になり、進学を希望する生徒のミスマッチを減らすことができる。また学校も地域との連携を強化しやすくなる。[兵庫県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・高校の学びを策定・公表することにより、受検生の進路選択のミスマッチを防止し、高校教員にも教育者としての自覚が出て、教育も効果的になると考えるから。[兵庫県/県立/普通科]

「賛同しない」理由

■表面的・単なる理想論である

●大短進学率70%以上

- ・普通科の特色化は、理想としては、よい考えかも知れないが、結局のところ学力帯の固定につながる話でないか。[埼玉県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・スクール・ポリシーは表面的、形式的なものとなり、実際の教育活動に結び付かない可能性がある。[大阪府/府立/総合学科]
- ・学校の教育方針や指導方針を明確化できる私立には意義があると思うが、特色を打ち出しにくい公立には不向き[埼玉県/県立/専門学科]
- ・従来からある校訓や学校目標とどう異なるのか。細分化して可視化を図るのか。横文字を利用して新しい感じを出しているが捉え方の違いによって浸透しないのではないか。[岐阜県/県立/専門学科]
- ・理論として分かるが、実際に先に大学で同様のことを実施していて、予想通り、抽象的な文言の羅列であまり意味を感じないため。[福岡県/私立/普通科]

■策定に労力がかかる・負担感が強い

●大短進学率70%以上

- ・この取り組みによる教職員の業務負担増加に比して、教育活動の更なる充実化・改善が図れるという見通しが立ちにくい。「費用対効果」が高いという見通しを描きにくい。更に、外見を整えることにエネルギーを傾注しすぎることでの教育内容の形骸化も懸念を払拭し得ない。[東京都/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・働き方改革に逆行するので。改革するのであれば現場に負担のない形で行われるべきだと思うので。[鹿児島県/県立/総合学科]

■現状の多様性や将来の変化に対応できない

●大短進学率70%以上

- ・掲げられた「スクール・ポリシー」にかえてって教育活動が制約されることを懸念するため[埼玉県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・3学科を併設し進路も多様な学校であることから、受け入れる生徒も多様であり、策定が難しい(策定したとしても、全体をカバーするものにならない)[三重県/県立/普通科]
- ・入学する高校で進路が決まってしまうのは生徒にとっても意欲が低下するのではないか。入学前に考えていたことと卒業後の進路が変わってもよいと思う。[秋田県/県立/普通科]

■必要性を感じない

●大短進学率70%以上

- ・大学ほど専門が別れていない中で、作成する必要性が感じられない。[広島県/私立/普通科]
- ・基本的にはどの学校も目指しているものは同じだから[長野県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ・毎年、系統的な指導体制を確立するために議論を重ねているため、改めて策定する必要性がない。[岩手県/市立/普通科]

2. 高校における「普通科改革」に対する考え

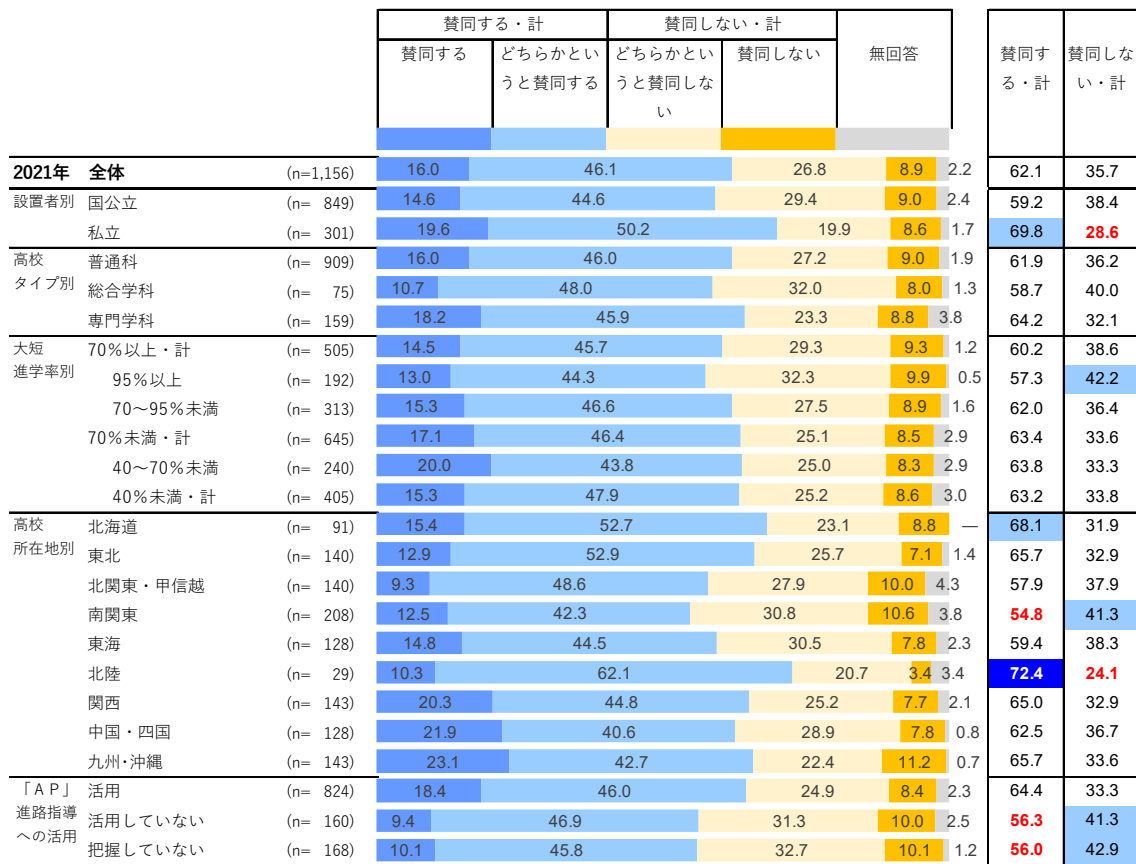
■ 高校における「普通科改革」について、「賛同する」「どちらかという賛同する」学校が合計で62%を占めた。

- 設置者別にみると、いずれでも「賛同する・計」が過半数を占めるが、特に私立では合計で70%が賛同している。
- 高校タイプ別にみると、いずれのタイプでも合計では60%前後が賛同しているものの、総合学科ではトップボックス「賛同する」が11%と他と比較してやや低い。
- 大短進学率別では、進学率40～70%未満の層で「賛同する」割合が高い。

■ 高校における「普通科改革」に対する考え（全体／単一回答）

(%)

高校における「普通科改革」についてどのようにお考えですか。普通科でない場合は、「もし普通科勤務であったら」という想定でお答えください。



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

Q32

< 「普通科改革」とは >

普通科の新たな学科設置により、錯綜し多様化する現代社会の現状を踏まえ、地域社会や我が国、世界が抱える現代的な諸課題に積極的に関わり、地域社会や日本社会、国際社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための領域横断的な学びに重点が置かれた、特色・魅力ある教育が行われることになる。

(各設置者の判断により設置が可能になる学科の例：「学際科学的な学びに重点的に取り組む学科」「地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科」「その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科」)

(中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(審議まとめ)」(令和2年11月13日))

<フリーアンサー>現状の普通科についての課題感や「普通科改革」についての意見

「賛同する」立場からの意見

■現状の普通科に課題感がある

●大短進学率70%以上

- 普通科で育てる生徒像がつかめないため。[熊本県/私立/普通科]
- 普通科の知識つめ込み教育は人を成長させない[愛知県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 「普通科が良い」と思われがちだが、実態は問題が多く、普通科改革は社会全体の意識改革が必要である。[新潟県/県立/普通科]
- 実業高校と比べ、「働く」ことへの意識が弱いと感じる。働くことを見据えた進学等の進路決定であって欲しい。[青森県/県立/専門学科]

■「改革」が普通科の再定義につながる

●大短進学率70%以上

- 「普通科」とは何か、再定義が必要。専門学科と比較すると、普通科にはどのような特色があるのか、部活動と大学進学以外に語ることでできる魅力がないのではないかと。[福岡県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 今まで授業だけして、結果が今の世の中なので、時代背景も変わっている、普通を提供しても現実から離れる一方だから。[大阪府/府立/普通科]
- 時代に合った教育環境の変革が必要だと思う[宮城県/県立/普通科]
- 地域の学校は、これからの少子化で生き残りをかけて特色をつくり出していけないといけなく考える。[滋賀県/県立/普通科]

■改革には賛同するが、明確なビジョンが必要

●大短進学率70%以上

- 改革の内容が教科や指導内容の再編なら、入試改革同様過度な現場負担をまねき、理想とはなれた変化にとどまる。高校入試の配点を学校によって変更できるようにするなど、一率に改革させるのではなく、SPに応じてほしい人材を高校がある程度、柔軟に選べるようにしないと、形状を少しかえたばかりの新普通科になるだけ。それと、改革は「今までの成果やよさを生かした」改訂にしないとモデル校方式をつづけていたのでは、根づかない[徳島県/県立/普通科]
- 普通科においても学校によっては既に求められている内容を実践しているところもある。世間が「改革」という言葉に縛られてしまうことが懸念。[北海道/道立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 改革は必要と考えてもよいと思うが、もう少しベーシックな学びができるイメージの方がよいと思う。[千葉県/県立/普通科]
- 改革を推進するためには、全教員の協力や資質向上が必須であると思います。そのための、研修やモデルケースの提示が必要だと思います。[山口県/県立/普通科]
- 生徒の個性に合わせた文・理コースでの学びにもメリットはあったと考える。全体的なカリキュラムの見直しと、授業時間の確保をどのように両立するのが不透明である。[神奈川県/県立/普通科]

「賛同しない」立場からの意見

■リベラルアーツの観点から

●大短進学率70%以上

- 普通科は存在意義があると考えています。高校段階では何かに限定せず、多様に学ぶリベラルアーツが大切だと考えています。学ぶは手段ではなく学びたいから学ぶという態度が大切だと感じています。[東京都/都立/その他]
- すべてにおいて目に見える価値や形として現れる成果を求めるのは教育の公教育の本質ではないと考える。これからの社会は多様性がキーワードで、グローバル化で大切なことも多様性。[静岡県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 専門学科に特化することが良いことばかりではない。高校では多くのことを広く学び、その後専門的なことを学ぶ」という従来の発想でよいと思う[京都府/府立/普通科]
- 普通科改革を実施し、特色ある教育...とあるが、特に地方の公立高校でそこまで必要なのか？地域社会で活躍する人材には一部の分野に突出したエリートよりもまんべんなく学んできたバランスの方が適していると考えられるから。[長崎県/県立/普通科]

■生徒にとって進路選択が複雑化する懸念

●大短進学率70%以上

- 中学校段階で、コース判断ができるか疑問である。義務教育とはちがった、教育を受けた上でコースを判断するので十分であると考えられる。[茨城県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 現状、高校に進学する段階で、多くの生徒は自分の将来についての明確なビジョンや自分自身の能力や特性の把握ができていないと、言いがたい。そのことが現在の普通科志向につながっている。普通科に特色を持たせて、普遍性を薄めることで、中学生は進学先の選択に迷うことになるし、進学してから選択の誤りに気付く生徒も出てくると考える。[徳島県/県立/普通科]

■前提となる部分の改革が必要

●大短進学率70%以上

- 教育課程、入試に抜本的な変化が起きないのであれば、旧態依然とした学校制度にはそれなりの価値がある。[埼玉県/県立/総合学科]
- 改革の趣旨はよく理解しているが、その先にある入試改革や社会のしくみ等も変える必要があると思う[兵庫県/市立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 高校卒業後の姿を明確に示さなければ、学科をいじっても本質的な効果は期待できない。[神奈川県/県立/普通科]

■教員の負担感が強い

●大短進学率70%以上

- ほぼ全員が進学する高校において、全高校で特長を打ち出すことは難しい。無理に特長を打ち出そうとしても、どの学校も似たり寄ったりになってしまう。その策定のための労力が教師を苦しめる。[愛知県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 時間と人員不足。負担が増えすぎて、教員採用試験受験倍率が下がるところか、この2～3年、質の低下を如実に感じる。[大分県/県立/普通科]

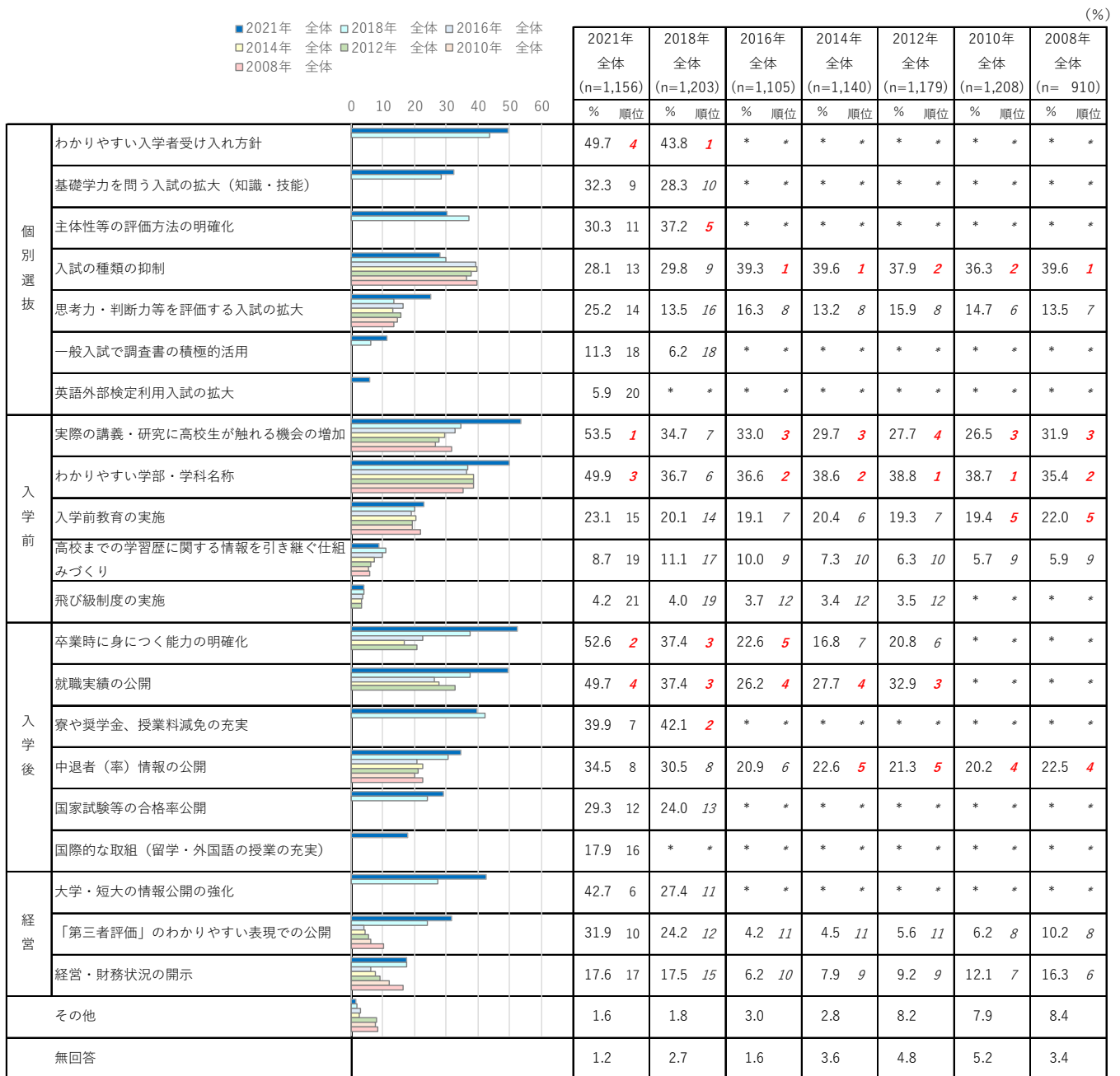
第Ⅶ部 高校と他関連機関との連携

1. 大学・短期大学に期待すること

- 個別選抜の「わかりやすい入学者受け入れ方針」、入学前の「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」「わかりやすい学部・学科名称」、入学後の「卒業時に身につく能力の明確化」「就職実績の公開」を、50%前後が大学・短大に対して期待。
- 2018年と比較してスコアが大きく上昇した項目が多く、とりわけ入学前の「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」、入学後の「卒業時に身につく能力の明確化」、経営の「大学・短大の情報公開の強化」は、2018年より15ポイント以上上昇している。

■大学・短期大学に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのとはどのようなことですか。（複数回答可）



※カテゴリーごとに2021年全体値の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※調査年によって設問文が異なる。過去調査の設問文は下記の通り

2018年：以下の中で、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのとはどのようなことですか。

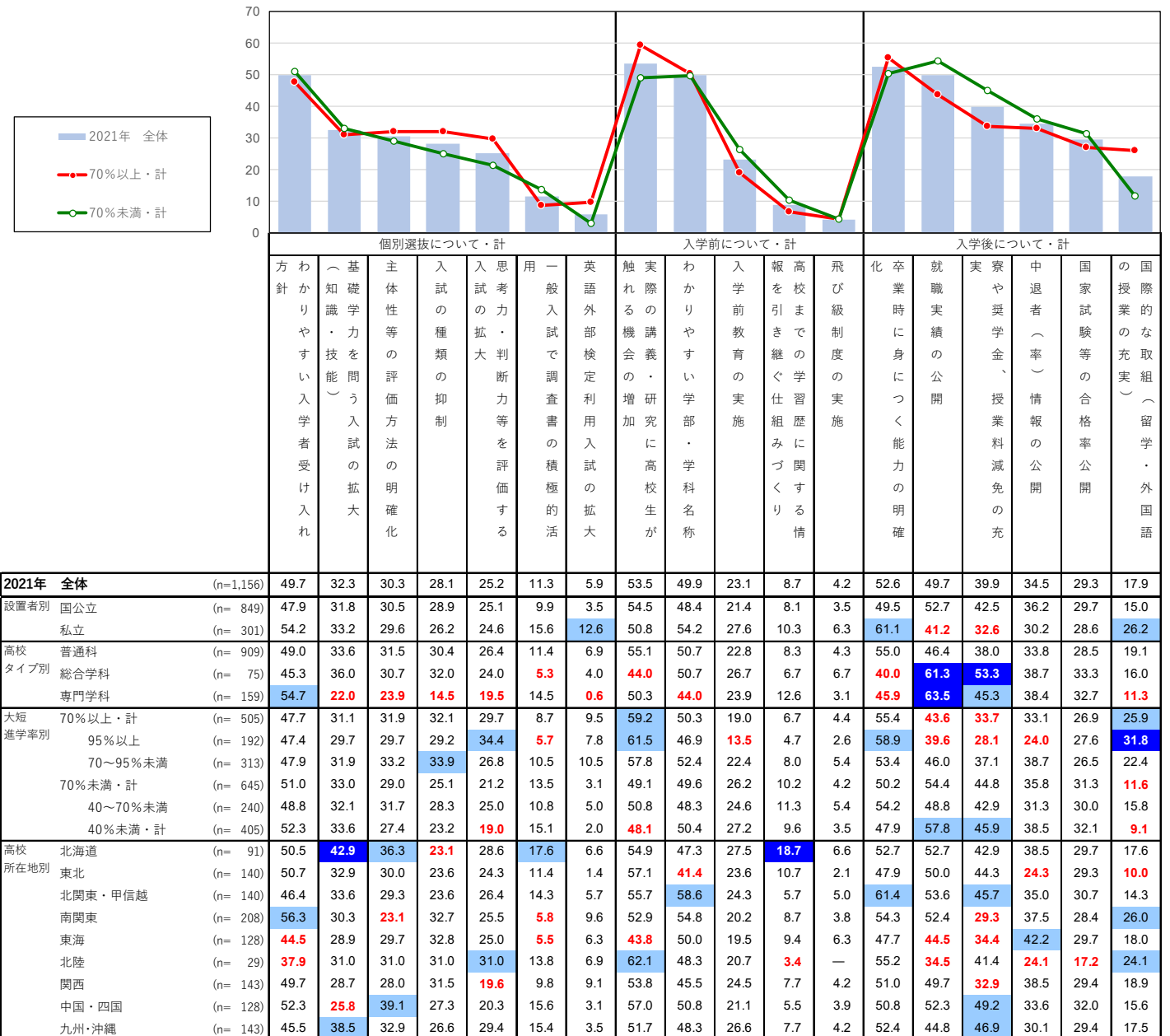
2008～2016年：高大接続・連携の観点から、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのとはどのようなことですか。

- 設置者別にみると、私立でスコアの高い項目が多く、特に「英語外部検定利用入試の拡大」「国際的な取組」など英語・外国語教育・試験に関する期待が高い他、「卒業時に身につく能力の明確化」も顕著に高い。一方国公立では「就職実績の公開」「寮や奨学金、授業料減免の充実」「中退者情報の公開」など、主に入学後についての項目でスコアが高い傾向がみられる。
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科では、「卒業時に身につく能力の明確化」が全体と比較して低く、「就職実績の公開」「寮や奨学金、授業料減免の充実」が50~60%前後と目立って高くなっている。
- 大短進学率別にみると、個別選抜についての上位項目「わかりやすい入学者受け入れ方針」「基礎学力を問う入試の拡大」「主体性等の評価方法の明確化」や、入学前の「わかりやすい学部・学科名称」などについては進学率による差が少なく、生徒の進路選択に関わる情報や評価方法について明確さを求めていることがわかる。

■大学・短期大学に期待すること（全体/複数回答）

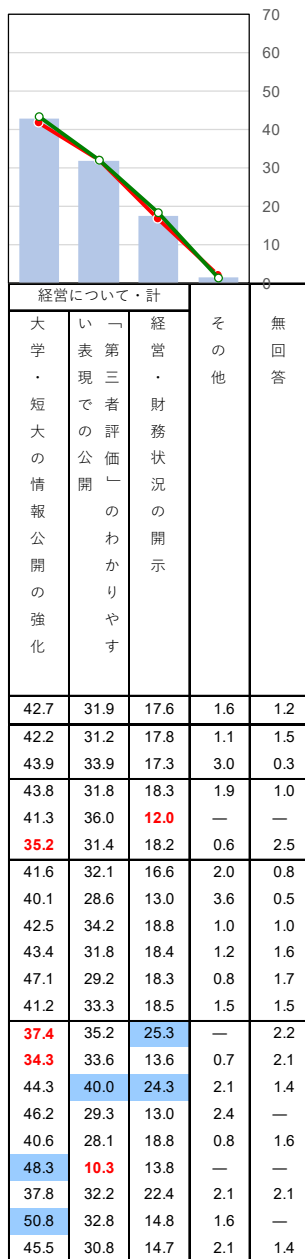
(%)

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのはどのようなことですか。（複数回答可）



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート ※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

(%)



個別選抜について・計	入学前について・計	入学後について・計	経営について・計	
95.6	93.3	93.6	74.6	2021年 全体
94.9	92.9	94.0	74.6	国公立 設置者別
97.3	94.7	92.4	74.8	私立
95.8	93.2	93.3	74.7	普通科 高校
98.7	94.7	98.7	74.7	総合学科 タイプ別
93.1	93.7	93.1	73.0	専門学科
96.0	93.3	92.5	73.3	70%以上・計 大短
94.3	91.7	91.1	68.2	95%以上 進学率別
97.1	94.2	93.3	76.4	70~95%未満
95.2	93.5	94.4	75.7	70%未満・計
95.0	93.3	94.2	76.3	40~70%未満
95.3	93.6	94.6	75.3	40%未満・計
95.6	91.2	95.6	75.8	北海道 高校
93.6	90.0	90.7	70.0	東北 所在地別
94.3	95.0	94.3	85.7	北関東・甲信越
97.1	96.2	94.7	73.1	南関東
93.8	89.1	94.5	69.5	東海
96.6	96.6	89.7	65.5	北陸
97.2	93.7	93.7	74.8	関西
97.7	96.1	94.5	78.1	中国・四国
94.4	93.0	91.6	72.7	九州・沖縄

Q34

<フリーアンサー>大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見・課題感

■オンライン情報提供の拡充

●大短進学率70%以上

- Web等で、各ゼミの研究内容や授業内容を詳しく載せていただくと、学部学科や偏差値だけで進路選択した後の大学と学生のミスマッチを防ぐ一助になると思います。(すでに行ってくれている大学さんも結構ありますが)[北海道/道立/普通科]

●大短進学率70%未満

- オンラインオープンキャンパスのさらなる充実[山口県/県立/普通科]
- インターネット動画やzoomでの情報提供。島の学校なのでぜひやってほしい。[東京都/都立/普通科]

■生徒の進学につながる情報提供の要望

●大短進学率70%未満

- 経済状況の変化が生徒の進路に与える影響は大きいので、費用や奨学金、また卒業後の進路状況や資格取得率などは、重要な選択の材料となる。[栃木県/私立/普通科]

■卒業後の進路に関する情報の提供の要望

●大短進学率70%以上

- 医学部、歯学部、薬学部の特には、かなり低い学力でも合格をしている大学が見受けられるが、修業年限内の卒業者数、国家試験の合格者数等の情報公開をお願いしたい。[熊本県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 卒業生の進路先を高校に情報提供すること入口だけでなく出口も教えてもらい今後に活かす[広島県/県立/総合学科]
- 大学院への進学実績を就職実績に併せて公表し、入学者数・卒業者数・実就職者数・実進学者数の詳細が分かるようにしてほしい。[兵庫県/私立/普通科]

■大学経営に関する情報公開

●大短進学率70%未満

- 大学の経営について、財務状況を一般の人にもわかりやすく開示してほしい。定員のほとんどが外国人留学生だったりする。[青森県/私立/普通科]
- 大学や短大にとって不利になるデータ(入学者のうちどのくらいが留年、どのくらいが中退、入学者全体に対する実質の国家資格等の合格率など)をきちんと出してほしい[香川県/県立/普通科]

■接続・連携に対する要望

●大短進学率70%以上

- 各校が独自の結びつきで大学と連携を取っているが、これも学校間格差が大きい。制限ないしは基準を設けるべき。[福井県/私立/普通科]
- 普通科高校のキャリア教育に大学は一定程度の責任があると思う。積極的な関与を。[岡山県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- より効果的なマッチングができるよう、高大連携が「出張講義」で終わらないようにしたい。[福島県/私立/普通科]
- 高大連携が、形骸化している。これまで以上に、中身のある連携ができることを期待します。地元の大学との連携の強化で、大学の教員にも高校の授業を見てもらうなど、現状の把握をしてもらえると、受験等でもスムーズに行くのではないかと考えます。[山口県/県立/普通科]

■大学教育のレベルアップへの要望

●大短進学率70%以上

- 偏差値による大学学力格差ではない各大学の魅力をいっそう打ち出してほしい。[千葉県/私立/普通科]
- 大学生の低学力化を懸念しています。以前は入学時に高いハードルが存在していましたが、現在入学時のハードルが下がっていますが、それに代わるハードルがないように感じます。欧米型の入試に変えたならば卒業にハードルを設けないと「大卒」の価値がどんどん低下し、「日本の大卒者」の信用性が世界でさらに低下することが避けられないと考えます。[長野県/私立/普通科]
- 大学の先生たちの教育力の向上[静岡県/私立/普通科]

■入試方法や学科名の簡明に関する要望

●大短進学率70%以上

- 入試が多様化しすぎて、指導がむずかしいし、生徒もやるが多すぎてとまどっている[三重県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 入試の種類が多すぎて、どのような受験をしようか生徒が戸惑い、指導で教員の負担が大きくなっている[愛知県/私立/普通科]
- こねくり回して何をやっているのか不明瞭な学部名は、普通の学部名では勝負できないことを証明している印象を与えている。[北海道/道立/普通科]

■選抜基準の明示に関する要望

●大短進学率70%以上

- 大学により、調査書や活動歴(ポートフォリオ等)、推薦書の活用状況に差がある。教員が作成していく中で、意味のないものであれば削減していきたい。提出を求める以上、活用方法の明示が必要と考える。[岐阜県/県立/普通科]
- 推薦書における推薦理由の記載を求める理由と評価方法が分からない。[岐阜県/県立/普通科]
- 総合型選抜などで試験や評価が見えにくい。特に今年度は新型コロナの影響もあり試験がグループディスカッションから個人面談への変更があった。また、総合型選抜・学校推薦型選抜では書類など多くの資料を要求するので、合否だけでなく判断基準を出してほしい。特にIB入試で高得点の生徒が落ちるとその判断基準がどこにあるのか進路選択の重要な要素になる。[群馬県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 「主体性を評価することはできるのか」という問いに、大学や研究会から具体的な回答を得られたことが未だにない。[愛知県/県立/総合学科]
- 5教科以外の生徒の能力を評価する入試制度を一定量確保すべき。そうでないと日本では天才が生まれなくなる。[石川県/県立/総合学科]
- 調査書と推薦書の負担が大きい。結局同じことをかくことになっているので、見直してもらいたい。[山形県/私立/普通科]
- 入学者選抜方法の工夫やバリエーションを増やしても、大学・短期大学が求める生徒と、そこで学びたい生徒とのマッチングには限界があると思う。困難ではあるが、高校3年間(現実的には1,2年次の2年間)に、高大で連携した取組を行う機会をいかに増やしていくかが課題だと考える。[徳島県/県立/普通科]
- 普通科偏重でなく専門高校の受入口の拡大を。[岡山県/県立/専門学科]

2. 専門学校に期待すること

- 入学後に関する項目のスコアが全体的に高く、「就職実績の公開」(58%)、「卒業時に身につく能力の明確化」(53%)などが上位。
- 2018年と比較してスコアが大きく上昇した項目が多く、特に入学後の「就職実績の公開」「資格取得情報の公開」や、経営の「『第三者評価』のわかりやすい表現での公開」は、2018年より15ポイント近く上昇している。

■ 専門学校に期待すること (全体/複数回答)

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。(複数回答可)

■ 2021年 全体 □ 2018年 全体 □ 2016年 全体
 □ 2014年 全体 □ 2012年 全体 □ 2010年 全体
 □ 2008年 全体

		(%)													
		2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)	2016年 全体 (n=1,105)	2014年 全体 (n=1,140)	2012年 全体 (n=1,179)	2010年 全体 (n=1,208)	2008年 全体 (n= 910)							
		% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位							
出願	A O入試の実施時期の見直し	36.7 8	34.5 4	27.4 5	30.9 3	28.1 4	26.4 4	* *							
	入学者受け入れ方針の明確化	33.7 10	24.3 12	12.6 9	13.1 9	11.2 9	14.2 9	19.0 7							
	学力測定の実施	26.5 13	26.7 9	21.9 6	18.8 7	22.8 6	19.0 6	16.5 8							
	A O入試の実施	12.8 15	6.5 17	3.5 13	4.4 13	3.8 12	3.1 12	2.4 11							
入学前	大学・専門職大学との違いの明確化	43.6 4	34.8 3	* *	* *	* *	* *	* *							
	実際の授業に高校生が触れる機会の増加	35.1 9	23.9 13	17.3 8	19.6 6	18.2 7	17.3 7	19.3 5							
	業界の最新情報の提供	31.5 11	25.6 11	18.1 7	16.9 8	17.3 8	15.6 8	19.1 6							
	教員向け説明会の充実	10.8 16	8.8 15	5.6 12	7.1 12	6.3 11	6.9 11	8.0 10							
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	6.2 17	7.1 16	* *	* *	* *	* *	* *							
入学後	就職実績の公開	58.3 1	43.6 1	44.8 1	43.2 1	43.6 1	44.6 1	45.7 1							
	卒業時に身につく能力の明確化	52.6 2	40.8 2	33.5 3	28.2 4	30.4 2	31.5 2	36.6 2							
	資格取得情報の公開	45.8 3	31.3 7	31.2 4	23.6 5	26.9 5	25.6 5	28.6 4							
	国家試験等の合格率公開	41.8 5	32.4 6	* *	* *	* *	* *	* *							
	中退者(率)情報の公開	38.8 7	33.7 5	34.3 2	33.4 2	29.9 3	30.9 3	30.9 3							
	寮や奨学金、授業料減免の充実	29.2 12	29.8 8	* *	* *	* *	* *	* *							
経営	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	40.7 6	26.4 10	7.8 11	9.2 11	9.4 10	8.5 10	12.9 9							
	「職業実践専門課程」の認定校の質の保証	21.8 14	17.8 14	11.8 10	11.1 10	* *	* *	* *							
その他		1.1	0.5	3.3	2.5	5.9	8.6	8.4							
無回答		2.2	9.1	8.6	11.9	13.1	12.7	13.4							

※カテゴリーごとに2021年全体値の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※調査年によって設問文が異なる。過去調査での設問文は以下の通り。

2018年：以下の中で、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

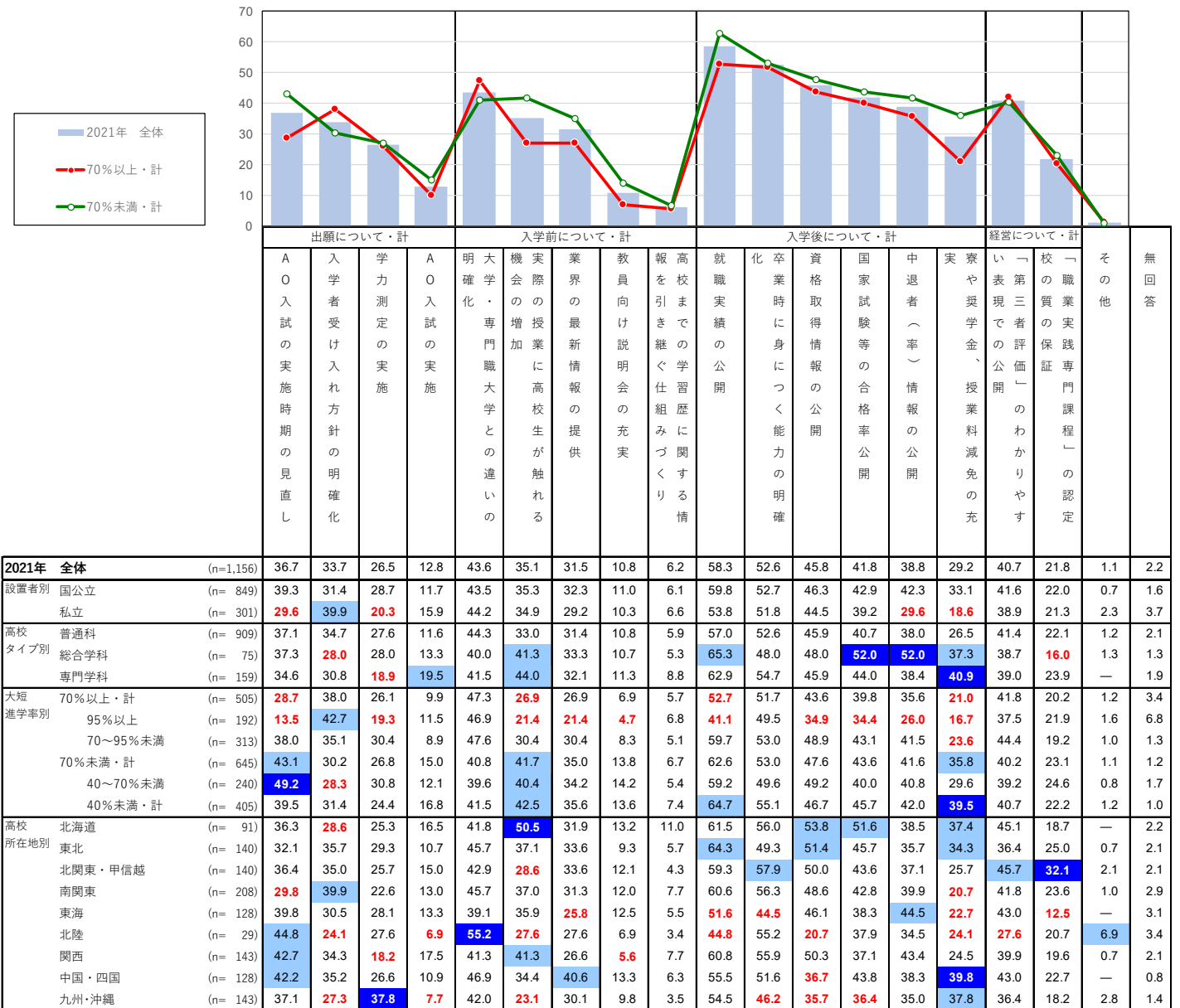
2008～2016年：高専接続・連携の観点から、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

- 設置者別にみると、国公立では「AO入試の実施時期の見直し」「学力測定の実施」「中退者情報の公開」「寮や奨学金、授業料減免の充実」などが私立と比較して高い。一方私立では「入学者受け入れ方針の明確化」が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科でスコアの高い項目が多く、特に入学後についての「国家試験等の合格率公開」「中退者情報の公開」はいずれも52%と全体と比較して10ポイント以上高い。
- 大短進学率別にみると、全体的に進学率の低い層でスコアが高い項目が目立つが、入学前の「大学・専門職大学との違いの明確化」や「『第三者評価』のわかりやすい表現での公開」はいずれの層でも40~50%程度と差が小さく、“専門学校としての位置づけと教育の質の評価”の明確化が求められていることがわかる。

■ 専門学校に期待すること（全体/複数回答）

(%)

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。（複数回答可）



※カテゴリーごとに全体値の降順ソート ※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.5pt以上低い

(%)

出願について・計	入学前について・計	入学後について・計	経営について・計	
86.0	85.3	92.8	55.7	2021年 全体
86.8	86.0	94.1	56.3	国公立 設置者別
83.7	83.7	89.0	54.5	私立
86.0	85.3	92.4	56.7	普通科 高校
84.0	81.3	96.0	49.3	総合学科 タイプ別
86.8	88.1	94.3	54.7	専門学科
82.6	82.0	89.5	55.4	70%以上・計 大短
73.4	78.6	84.9	53.6	95%以上 進学率別
88.2	84.0	92.3	56.5	70~95%未満
88.7	88.1	95.3	56.1	70%未満・計
90.4	87.5	95.4	56.7	40~70%未満
87.7	88.4	95.3	55.8	40%未満・計
83.5	90.1	93.4	53.8	北海道 高校
82.9	83.6	93.6	54.3	東北 所在地別
84.3	82.9	93.6	67.9	北関東・甲信越
85.1	87.0	93.3	58.2	南関東
84.4	83.6	92.2	50.8	東海
86.2	89.7	93.1	48.3	北陸
90.9	85.3	94.4	51.7	関西
88.3	90.6	90.6	58.6	中国・四国
88.1	80.4	90.9	51.0	九州・沖縄

Q35

<フリーアンサー> 専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見・課題感

■入試の実施時期に関する課題感

●大短進学率70%以上

- 8月からエントリーを開始される学校がある。そのエントリーに高校の承諾がいない場合もある。学校のあずかり知らないところで、話が進んで、『調査書の発行をお願いしたい』と専門学校から依頼されることがあった。また、大学の入試時期の見直しが叫ばれる中で、未だに夏の時期からのエントリーを推奨する姿勢に疑問を抱く。[岐阜県/私立/普通科]
- A O入試のエントリー時期を9月以降にして、大学等の推薦時期と同じにしてほしい。[愛知県/県立/普通科]
- 一部の総合型（A O）入試の実施時期が早い。9月以降に足並みをそろえてほしい。[静岡県/県立/普通科]
- 大学と専門学校の違いについても知らずに、専門学校に進学希望する生徒がいる。早めに進学を決めたいという生徒の気持ちもあるが、夏前に決めると割引があるなど、早め早めの進路決定を促す学校がある。[神奈川県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 早期（特に6月などの夏休み前）の入試スケジュールはやめていただきせめて、9月以降に統一してほしい安易な進路選択につながりかねない[大阪府/府立/普通科]
- AO入試の在り方（雑談で合格など）については検討してほしい。少なくともきちんとしてほしい[北海道/道立/総合学科]
- AO型ということで、何でもありの入試が横行している。書類だけで合格とか、オープンスクールに参加すると、AOの出願をその場でさせたりと。少し規制してもらいたい[山形県/私立/普通科]
- AO入試の選抜方法、実施時期、基準、発表時期等、高校で卒業まで生徒が努力するような改善を望みたい。[熊本県/県立/普通科]

■学校経営重視のスタンスに対する懸念

●大短進学率70%以上

- 甘い言葉で高校生をだましていられると言われても仕方のない学生募集をしている専門学校が多いと思います。安易な専門学校進学希望者が増えていくのは専門学校にとってもマイナスではないかと思えます。[新潟県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 一部専門学校では、経営が先に立つ学校があるように感じる。教育があってこそその学校だと思いが、そのような専門学校への対応に苦慮している。[北海道/道立/専門学科]
- 専門学校こそ改革されなければならない。A O入試が青田買いになっており、学生を金づるとしか見ていない。[新潟県/県立/総合学科]

■専門高校との接続・連携に関する要望

●大短進学率70%未満

- 専門高校との連携・接続を強めてもらいたい。国立高等専門学校（特に工業高等専門学校）のような形をとりながら、よりバリエーションの広がりがある魅力的な学校が生まれる可能性があると思う。[徳島県/県立/普通科]

■学校に関する情報開示

●大短進学率70%以上

- 当該専門学校を選択したときに、その学校のカリキュラムとして出来ること、修得できることと、出来ないこと、修得できないことの両面について、分かりやすく正しい情報を発信して頂きたい。[東京都/私立/普通科]
- 入試の時期など文科省の指導に従わない専門学校もあるが、生徒の将来に関わることで、無碍に否とは高校側から言えない。生徒に就職先の業界の実態や、就職後の待遇について正確に生徒に伝えられていない。[大阪府/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- ある専門学校で指定校推選で合格したコースが、次年度の学生が充足する見込みがないとの理由から、突然コースの閉鎖（入学の取り消し）を連絡して来た専門学校は企業であると再認識した[茨城県/県立/普通科]
- 職業実践専門課程に該当する学校は詳細な情報公開をしているが、その他の学校は詳細が見えない。更なる情報開示をして欲しい。[秋田県/県立/総合学科]

■入試の選考基準の開示・見直し

●大短進学率70%以上

- 専門学校で学び職業人となる覚悟を確認する入試をしてほしい。[静岡県/県立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 応募書類の提出だけで合格の判断をするのではなく、高校時の生徒の活動をみるなど確認をお願いしたい。[山形県/県立/専門学科]

■卒業後の進路についての情報開示

●大短進学率70%以上

- 資格試験等の合格率は、在籍数、受験者数、合格者数を載せて欲しい[埼玉県/県立/普通科]
- 就職状況の公開（具体的な情報）[宮崎県/県立/普通科]
- 就職や資格取得は生徒・保護者の関心が高い。資格に関する部分で関係ない資格の紹介があると不信感がある。[群馬県/私立/普通科]

●大短進学率70%未満

- 就職決定率のごまかしを無くさせる[北海道/道立/総合学科]
- 専門学校は即戦力のスペシャリストを養成するところであると思う。ゆえに国家資格の合格率、就職先などは公開すべきである。[滋賀県/私立/普通科]